

寶林寺 大上面梧山里牛山の中腹に在り鎮南浦と約一里を隔つ大同江口に面し眺望佳にして境内桃樹多し花時杖を曳くもの少からず

第三節 成川郡

沿革 沸流王の故都松讓の地たり高句麗始祖東明王北より來りて卒本に都するに際り之に降る乃ち多勿都を置き沸流王を封して候と爲す高麗太宗王十四年剛德鎮を置き顯宗王九年成州防禦使に改め後ち知州事と爲す李朝太宗王十五年成川と改名し都護府と爲し世祖の朝鎮を設けしか後世鎮を罷め郡とし以て今日に及ぶ

郡勢 本道の南邊に位置し東北は陽徳郡に、西北は順川郡に、西南は江東郡に隣し東南は黃海道谷山郡に境す郡境繞らすに山嶽を以てし餘脈郡内に起伏し廣野を見す河川あるも灌溉の利に乏しく水田面積極めて僅少にして主なる農作物は大豆及び玉蜀黍なり煙草は風土最も好適し耕作組合を組織して之か改良を計り東亞煙草會社は百數十町歩の土地を買収して之か栽培を爲せり道路は人工を加へたるもの罕にして險惡を極むるも大同江の上流たる沸流江の通する

わけて舟楫の利あり商業微々として振はす住民は農を以て主業とすれども未だ幼稚にして見るべきものなく又工藝に従事するもの尠からす郡内各所に陶磁器製造所あれども設備狭少にして其産額多からす住民は生活の程度低く一般に粗衣粗食に甘し家屋の如き漸く雨露を凌ぐに止まり經濟思想に乏しく生計概して裕ならず産物は葉煙草、絹布、木炭、牛皮、大豆、玉蜀黍、棉花、紙、陶磁器類にして就中葉煙草は成川葉として賞せられ明紬、生紬は亦成川紬と稱へ古來屈指の物産たり戸數一萬二千五百餘、人口六萬二千九百餘あり

成川邑 古の沸流國にして高句麗の始祖東明王の舊都たり人家は多く瓦を以て葺き比較的街衢整然たり劔鶴山は邑の東方に屹峙し山陵圍繞して自ら一小天地を成し外方平野に接続し頗る要勝の地とす平元街道中樞要の一邑にして西方平壤を距る十四里其他東陽徳、北順川、西江東等に通する道路は邑を中心として連接すれども途上概ね平坦ならず邑民の多くは商業を營めども小規模にして商況不振なり又農耕工藝等に従事するものあり産物は煙草、山蔘、絹糸、紬、穀類、牛皮、木炭等にして内地人七十人朝鮮人約二千人居住す郡廳、憲兵分隊、郵便局、地

方金融組合、公立普通學校、實業補習學校、煙草製造工場等在り

屹骨山 邑の西方凡そ二十町、上部面に在り、沸流江岸に屹立して、山容支那の巫山に酷似せるを以て別稱を巫山十二峰と云ふ、山頂に城址あり、往昔沸流國王の築造に係り、高麗太祖の朝修築して宮闕を營みしか、今は僅に遺址を存するのみ、頗る眺望に富めり

第四節 順川郡

沿革 本郡順川、慈山、般山の三郡を併合したるものなり、順川郡は高麗の朝靜戎郡と稱し、成宗王の時順州防禦使たり、高宗王四年德州(德川)に併せられしか、後ち割て知事を置き、李朝太宗王十三年郡と爲し、順川に改む、慈山郡は高麗朝の文城郡にして、太祖二十二年太安州と號し、成宗王二年慈州に更め、防禦使を置き、後ち知郡事に改め、李朝太宗王十三年に至り、慈山郡と改稱す、般山郡は高麗朝興德郡或は同昌郡と云ひ、成宗王二年般州防禦使を置き、高宗王十八年蒙古の兵闖入せるを以て人民地を空して難を海島に避けしか、後ち復歸して成川に隸屬し、恭讓王三年監務を置き、李朝太宗王十四年慈山郡に屬し、一年の後ち分ちて縣監と爲し

今の名に改め、後ち郡とし、般山と名づく、太皇帝の朝(明治四十一年)以上三郡を合して順川郡と號し、爾來今に及ぶ

郡勢 本郡は本道の中央部に位し、東は孟山、成川二郡に、南は江東郡並に平壤府に、西及び北は肅川、价川、德川の三郡に隣す、大同江は北より來り、郡の中央を貫流して、遠く鎮南浦に注ぐ、郡内東北部は山陵の餘波を受け、土地概ね高燥にして、耕地廣大なるも、水利の便に乏しく、水田頗る狭少なり、然れども畑地反別は本道中第三位にあり、桑林少からず、氣候は大陸的にして、寒暑共に烈しく、降雨は七八月の候に多く、其の他は殆んど晴天なり、住民は性稍々慍悍にして、野卑の風あり、生活の程度は隣郡に比し少しく、高く、經濟狀態漸次向上の傾あり、職業は農耕を主とし、又商業工藝に従事するものあり、農産物は麥、粟、大小豆、黍、稷、棉花等にして、工藝品に充羅、紬、綿布、箆、筒あり、殊に紬の産多し、其他金、銀、鐵、石炭等を出し、半島著名の鑛産地たり、戸數一萬四千五百九十餘、人口六萬九千八百八十餘あり

順川邑 郡の畧々中央郡内面に在りて、大同江畔に位置し、水陸運輸交通の樞要地たり、陸路は南方平壤へ十一里を隔て、北安州、价川に通し、西方七里にして、京義線

肅川停車場に達す行客の來往繁し邑民の大部分は農を業とし又商を兼營するもの少からず生活状態低度にして生計裕ならず粟黍其他の雜穀を常食とし米食を爲すものは頗る罕なり産物には農作物の外、篋筒、食臺あり市場ありて毎月六回開市し取引稍々活潑なり邑内内地人十七戸三十四人、朝鮮人四百四十餘戸三千三十餘人あり郡廳、警察署、郵便局、樹苗園、農事試作場、地方金融組合、農業補習學校、公立普通學校あり

殷山 大同江の上流左岸に沿ひ平壤を距る東北十五里に在り本と郡廳のありし所にして人家稠密し市場ありて商取引盛んなり龍化坊は殷山を距る西南二里金鑛所在地なり同鑛山は明治三十三年英人「モルガン」が韓廷の特許に依り採掘を得たるものにして廣袤東西四里南北六里に亘り合金量は十萬分の五にして雲山産と大差なく半島内著名の鑛山たり

慈山 順川邑の南二里に在り本と慈山郡廳のありし所にして家屋櫛比し市場の取引殷賑なり

山城 城内面に在り高麗太宗王國防のため築城せしものにして城壁の周圍二里

餘に達す後ち肅宗王の時之を修築せしか今は頽廢に歸し僅に城廓を存するのみ

第五節 安州郡

沿革 本と高句麗の息城郡にして新羅景德王重盤郡と改稱す高麗太祖の朝改めて彭原郡とし十四年安北府を置き恭愍王の時安州萬戸府と爲し尋て牧に改め李朝之に因りしか世祖に至り鎮を置き近世郡に更め郡守を置き今日に至る

郡勢 本郡は本道の西北邊に位置し南は肅川郡に、東は价川順川二郡に接し北は清川江を狹んで平安北道博川郡に境し西部一帯は西朝鮮灣に瀕む東部は山嶽重疊して其餘脈郡内に起伏し比較的樹木鬱蒼たり地形西方に及ぶに従ひ漸く緩斜して廣漠たる平野を爲す地味膏腴農産豊穰にして耕地總反別は本道中第三位を占む大小數條の河川は總て西流して沿岸一帯の耕地を濕し西朝鮮灣に注ぐ流域各々二里乃至六里に亘り河口何れも船舶の繫留に便にして郡内各邑に供給する魚類貨物の集散に資す就中北部道界を西流する清川江は平安南北兩道流域一帯に於ける水運に利し上流寧邊附近まで溯航することを得へきも

安州より上流は河床高きを以て小舟に貨物を轉載するの不便あり各郡邑に至る道路は總て邑を中心として連接し殊に新安州驛を起點とする雲山街道は寧邊までは平坦にして車を通するを得へし京義線郡の中部を横斷し二箇の停車場ありて百貨輻輳交通至便の地たり住民は主として農業に従事すれども工藝及び商業を營むもの亦少からず性稍々固陋にして耶蘇教信者頗る多し生活の程度は概して裕なるか如し産物は米を第一とし其産額五萬七千四百餘石に達し本道中に冠たり而して其約二割は他郡に移出せらる其他麥大豆棉花煙草牛皮明紬刺繡帽子及び魚類を産す殊に刺繡は精巧を極め其名半島に著はる戸數一萬七百餘人口五萬九千七百餘あり

安州邑 邑部面に在り北は清川江に臨み東南は山陵に據り西南は茫々たる沃野を控へ頗る形勝の地たり市街は城壁を繞らし周回凡そ一里半樓門高く街衢井整頗る美觀を呈したるも日清の役兵燹に罹りて舊態を失ひ最近漸く恢復の狀あり西方一里半にして新安州に達し東价川に七里半餘東北寧邊に凡そ六里南方平壤を距る十五里にして附近郡邑に通する道路は皆本邑を中心とし本道中

交通の要地たり其内新安州驛及び寧邊間の道路は頗る平夷にして挽車を通し交通便なり城内市場は毎月四、九の日開市し集散貨物の重なるものは米、雜穀、煙草、海産物、石油、燐寸絹、綿布、牛皮、金物、紙、麻布、雜貨等にして遠く平安北道及び黃海道の各地に集散せらる毎市の取引高平均九千圓に及び買客雲集商業盛雜沓を極む産物は米、大豆、棉花、刺繡、牛皮、石炭等にして清川江岸鰈漁は西朝鮮に於ける重要物産たり邑内内地人の居住するもの七十餘戸二百餘人にして逐年來住者を増加す朝鮮人千百二十餘戸五千九百九十人あり郡廳憲兵分隊區裁判所郵便局、學校組合、地方金融組合、小學校、公立普通學校、實業補習學校等あり

新安州 邑の西方青山面に在り京義線停車場所在地にして京城を距る二百一哩なり清川江口に沿ひ安州寧邊、雲山、徳川、熙川に通する要路に當り附近土地肥沃農産豊にして又石炭を産す内地人は驛の附近に居住し多くは商業に従事すれども又農耕に従ふものあり内地人六十餘戸二百餘人、朝鮮人二百十餘戸千四百九十餘人あり警察署、郵便所、學校組合、小學校在り

萬城驛 京義線の一驛にして新安州驛の南方尼山面に在り京城の北方二百二哩

餘を隔て附近農産豊なり内地人八戸二十人朝鮮人四十戸百五十餘人居住す
七佛寺 邑部面に在り新羅朝の建立に係り高句麗嬰陽王の時燕軍朝鮮を攻め清
川江を渡らんとするも水深くして進む能はず時に佛僧七人來りて裳を掲げ容
易に之を渡りしかは燕軍之に倣ひ舉て江中に入りしとき高句麗の軍之を邀撃
し全軍を塵殺して大捷を博したるに由り本寺に七佛を安置し名けて七佛寺と
稱すと云ふ

第六節 中和郡

沿革 本郡は高句麗の時加火押と稱せし地にして新羅憲德王の時唐嶽縣と改め
高麗に至りて西京(平壤)の屬村と爲れり仁宗王京畿四道を分ちて六縣と爲すや
(江東、江西、順和、三登、三和、中和是なり)荒谷、唐嶽、松串等九村の地を合せて中和縣と爲
し縣令を置き西京に屬す忠肅王九年陞して郡とし令を置くこと故の如し恭愍
王二十年更に陞して知郡事とし李朝宣祖壬辰の亂に際し郡人戰功ありし故を
以て府とせしか明治二十八年郡に改め郡守を置き今日に至れり

郡勢 本道の東南邊に位し南は黃海道黃州郡に境し東は祥原郡に連り北は平壤

府に接し西は大同江を隔てて龍岡、江西兩郡と相對す郡の中央を貫通せる京義
鐵道を界とし以東は山岳蜿蜒丘陵起伏し耕地少く以西は概して平坦にして耕
地に富み殊に大同江流域の地は地味肥厚なり海鴨山西隅に孤立し文華山東方
に聳立し漢川東部に發源して郡の北界を西流し大同江に注ぐ京義鐵道郡内を
縦貫し中和邑を集點として道路各方に通し交通概して不便ならず民俗淳朴人
口密にして民富平均し生活の度尋常なり郡内戸數一萬七百三十餘、人口四萬六
千八百餘あり産物は米、粟、大豆、小豆、木綿、紬布なり

中和邑 郡の中央下道面に在り京義線停車場所在地にして京城を距る百五十三
哩、京義街道に衝り北平壤に五里、南黃州に五里、東祥原に七里、西龍岡に九里、江西
に八里を隔つ氣候は平壤に比し稍々温暖なり附近廣漠たる耕野を控へ住民中
兩班少からずして瓦家多し祥原には阪路二箇所の外は牛車を通ずる坦路にし
て龍岡、江西二邑には大同江渡船の不便あるの外概ね車馬を通し交通概して便
に通信の利亦略々備はる邑民の生業は農商相半し生計狀態は普通にして毎年
移出は移入額に超過し經濟順調なり朝鮮人五百九十戸二千六百五十餘人、内地

人二十餘戸五十餘人居住す産物は米穀、木綿、純草鞋等にして郡廳郵便局、巡查駐在所、公立普通學校在り

朱泉亭 驛の東南一里に在り日清の役に町口中尉竹内少尉等敵情偵察中清兵の爲に惨殺せられたる所にして二氏の碑あり

孔子廟 驛の東北二十五町黒洞に在り傍に桃園ありて附近一帯の地風光に富めり

青龍園 邑の東端に在り梅樹及び桃李多し春季の好逍遙地たり

眞泉 驛の西南二里の山中に在る冷泉にして夏季朝鮮人の浴するもの頗る多し

第七節 龍岡郡

沿革 箕子朝鮮時代黃龍國の地にして高句麗之を併せて黃龍城又は軍岳と稱し令を置きしか後ち龍岡と改め縣令と爲し李朝之に因り近世郡とし明治四十一年咸從郡を廢し其一部を本郡に併す

郡勢 本郡は本道の西南部に位置し東及び北は江西、飯山二郡に隣し南は一部大同江に瀕し一部鎮南浦府に接し東西四里南北十四里の廣袤あり西部八面は概

ね平原にして南部一帯は山岳連亘す平南鐵道南部を横貫し龍岡邑より江西及び鎮南浦に通する首要道路は幅員廣く牛車を通す住民の大部分は農民にして總て矮小なる草屋に住居し貧窮者少からす戸數一萬一千餘人口四萬七千二百餘あり米、粟、黍、大小豆、麥、棉花、綿布、煙草、食鹽、魚介を産す

龍岡邑 郡の中央山南面紅門洞に在り四面山を繞らし險要の地なるも西方一嶺を起ゆれば廣漠たる平野を成し農耕に適す南方約二里の日連池而眞池洞驛に至れば鐵路東平壤に、西鎮南浦に通す陸地鎮南浦及び江西邑に各四里を隔て牛車を通行すへし貨物の集散は極めて少く三四の行商あるに過ぎず穀類の如き一市四十圓内外の取引あるのみ邑民の生業は殆んど農にして生計状態低劣なり産物は米穀、建築石材にして朝鮮人二百七十餘戸千四百四十人内地人は十人を出てす郡廳郵便所、巡查駐在所、公立普通學校、私立學校在り

眞池洞驛 邑南約二里日連池面に在る一村落にして平南線停車場所在地なり驛を距る約一里、鳳峴面に在る閑平山よりは建築石材を多産し驛との間輕便レールを通し盛に之を移出す巡查駐在所在り

黃龍城 龍岡邑より約半里を隔つ山に沿ひて周圍一萬二千五百尺高さ十五尺の城壁を繞らし險要なる山城なり太古箕子平壤に都せる時其孫を此地に封し黃龍國と號せり

溫泉里 郡の西部雲洞面に在り邑へ四里鎮南浦へ六里を隔て廣梁灣との間二里餘は最近幅三間の新道路を開鑿中なり民家二十餘あり鹽泉湧出するを以て此地名あり巡查駐在所在り

第八節 价川郡

沿革 高麗の朝安水鎮と稱し顯宗王九年連州防禦使と改め尋て朝陽鎮と改稱す高宗王二年丹兵防禦の功を以て再び連州防禦使に復し後ち翼州と改め又更に价州と號す李朝太宗王十三年今の名に改め郡と爲す近世郡守を任置し今日に至る

郡勢 本郡は本道中部北端に位置し東は憂日嶺山脈を以て徳川郡に界し南は順川郡に西は安州郡に北は清川江を狹んで平安北道寧邊郡に境す東部憂日嶺山脈は郡内に蔓延し緒峯重疊し往々倭松稚樹を見るのみ同嶺の山麓には大桑林

あり西部は土地稍展開し大同清川兩江流域に於て平坦なる耕地あるも地味磽确にして農産豊ならず耕地の多くは畑にして其の面積本道中第二位に在り住民は専ら農を業とすれども大部分は小作にして傍ら養蠶養鶏養豚を爲す生活の度頗る低く常に粟稗を食し恒産なく生計困難を極む戸數九千二百餘人口四萬八千餘あり産物は粟を以て第一とし大小豆、米、黍、玉蜀黍、稷等之に亞き棉花、煙草、繭、木綿、充羅紬等を出す尙ほ砂金、金、黒鉛、鐵、石炭等の鑛産あり

价川邑 郡内面に在り清川江支流に沿ひ四面山岳を以て覆はれ行路甚た便ならされども安州徳川間の要衝なるを以て旅客の交通尠からず西安州に至る七里餘の道路は清川江と並行し稍平坦にして途上一二の小坂路あるに過ぎされども東徳川に通する八里半の道路は憂日の峻嶺横はり人馬の來往頗る難澁なり南順川に八里北寧邊に六里餘を隔て途上何れも嶮惡にして交通便ならず邑民の大部は農を業とし若干の商業を營むものあり生計は概して困難なり市場は毎月一六日に開かれ一回の取引高平均五百餘圓を超へず内地人の居住するもの十餘戸三十人にして朝鮮人三百戸千四百五十人あり産物は略々郡に同じ郡

廳、郵便局、憲兵分遣所、農事試作場、公立普通學校、養蠶傳習所在り

第九節 江西郡

沿革 高麗仁宗王十四年京畿以西の梨岳、大坵、甲岳、角藁、禿村、飯山等の諸郷を合せ始めて江西縣を設け令を置き李朝太祖三年に至り飯山を分ちて別に縣を置く近世郡に改め郡守を任置し明治四十一年咸從郡を廢して其一部を本郡に併す郡勢 本道の南西部に位し東は大同江を挿んで中和郡に、西は飯山郡に接し南は龍岡郡に、北は平壤府に隣す郡内幾多の山脈起伏すと雖も平地多く殊に中央部及び沿岸には廣茫たる平野あり沿岸水田の如きは本道に於ける屈指の沃野と稱せられ水田反別三千五百七十餘町歩にして道中第三位を占む沿岸には沙堆多く水淺しと雖も其上流は水深くして六尋乃至七尋に及ぶ四隣各郡に通する道路は概して平坦にして且つ大同江の舟運あり加ふるに平南鐵道郡の南部を横貫するかため運輸交通共に便利なり住民は農を業とし副業として養蠶漸く盛ならんとす其他漁業に従事するもの少からす郡内戸數八千八百六十餘人口三萬六千七百餘あり農産物は米三萬石、雜穀二萬八千石を主とし水産物には石

首魚、鱧、白魚、鰕等あり

江西邑 郡内面に在り背後に舞鶴山を負ひ前面一帶平野を控へ頗る形勝の地たり平壤へ八里、龍岡、飯山兩邑へ各四里にして道路は何れも平夷なり邑は人家稠密し物貨行客の出入頗る頻繁なり邑民は農商を業とし又濁酒製造を爲す者多し市場は毎月二、七日を以て開市し米、大豆、粟、木棉雜貨の取引稍々盛なり戸數八百餘ありて内地人の居住するもの少からす郡廳、憲兵分隊、郵便局、地方金融組合、養蠶傳習所、農事試作場、普通學校、私立學校在り

岐陽驛 平壤鎮南浦の中間に於ける停車場所在地にして民家百餘を有する一村なり

第十節 寧遠郡

沿革 古へ漢の武市衛滿朝鮮の末世右渠を滅し朝鮮に四郡を置き樂浪郡(平安道)を二十五縣に分割するや本郡は當時不丙縣たり高句麗山上王義州より都を此地に遷せしか後ち又平壤に徙る寶藏王の時唐の高宗帝高句麗を亡すや其孫大祖榮此地に入り自ら震國王と稱し玄宗帝に至り渤海王を封せしか二百餘年の

後ち契丹來侵し東丹國を建てたるも高麗太祖之を討滅し鎮を置く數年の後ち永清縣に屬し尋て平安北道熙川に移隸し李朝太宗王の時永清縣合して永寧と改稱し世祖の世一部を割て郡を設け仍ほ鎮と爲せしか後世又之を合して郡と爲し本道に歸屬して名を寧遠と改め郡守を置き今日に至る

郡勢 本郡は本道の東北部に偏在する大郡にして東方一帯は咸興定平の兩郡を以て咸鏡南道に連り南は孟山郡に西は徳川郡に隣し北は平安北道江界熙川の二郡に境す狼林山の峻峰は北方咸鏡平安南北三道の境に屹立し分れて二と爲り一は西走して平安北道の界を成し一は咸鏡南道の境を劃りて劍山嶺の高峯と成り以て東西の分水嶺を成し支脈郡内に蜿蜒起伏して平地に乏しく大同江は本郡に發源し支流各地を流るるも急湍にして水運に利せず耕地面積一萬百餘町歩の内水田は僅に十五町歩に過ぎず交通亦甚た不便なり住民は農を生業とし傍ら狩獵又は機織に従事するもの少からず生活程度劣等にして生計頗る困難なり産物は大豆二千七百石を第一とし蕎麥、煙草、絹、紬等之に次ぎ米、麥は極めて少し人烟稀薄にして戸數六千三百人口三萬六千餘なり

寧遠邑

郡の西南部に偏在し南孟山に西徳川に通する道路あれども峻阪多くして交通不便なり邑民の大部分は農を業とし又少數の商業者あり一市の取引高四百五十圓なり邑内内地人二十餘人、朝鮮人百六十餘戸六百四十人居住す郡廳、郵便所、憲兵分隊、公立普通學校在り

第十一節 陽徳郡

沿革 高麗朝の陽岩、樹徳二鎮の地にして李朝太祖五年合して陽徳縣と爲し監務を置き太宗王縣監と爲し近世郡に改め郡守を置く

郡勢

本郡は本道の南部東端に位し東は咸鏡南道の永興、高原文川、安邊四郡に境し西は成川郡に北は孟山郡に接し南は黃海道谷山郡に界す北方に麒麟山脈蜿蜒し南方に馬息嶺の支脈盤居し西方亦山陵の重疊するものありて森林に富めり大同江の一支流たる南江の上流郡内を東より西に向て流れ成川郡に入る耕地は其流域及山陵の間に存在し耕地總面積九千四百町歩に上るも水田は僅に四十町歩に達せず而も地味瘠薄なるを以て農産少額にして大豆粟を其主要なるものとす各郡に通する道路には何れも峻阪峻峙ありて車を通せず運搬交

通共に甚た不便なり住民は専ら農業に従事し殆んど自産自消の生活を爲せり
郡内戸數七千四百七十餘、人口四萬一千九十餘あり産物の主なるものは大豆、粟、
麥、煙草、麻布、明紬及び木材なり

陽徳邑 郡の東部郡内面に在り西方成川邑を距る十九里其間四里の峻阪あり東
方元山を距る十九里其間亦有名なる馬息嶺の峻峙あり其他交通一般に不便に
して貨物の運搬は總て人肩馬背に倚る市場あるも商況不振にして一市の取引
高僅に六十圓内外に止まり物價は元山に比し四割以上高し邑民の生業は農商
にして婦女は明紬麻布を織る生活状態頗る劣等なり邑内朝鮮人二百四十戸千
二百六十人内地人十餘戸二十餘人あり煙草、明紬、麻布を産し郡廳、守備隊、郵便局、
憲兵分遣所、公立普通學校在り

温泉面 京元街道に沿ひ面内の石湯池に温泉あり尙ほ九龍面破邑にも此地方に
有名なる一温泉あり

第十二節 江東郡

沿革 本郡平壤東村の地なり高麗仁宗王の時江東と號し縣を置き後ち成州(成川)

に屬し恭讓王の代復置す李朝世宗王十七年三登縣に屬せしか成宗王十三年更
に縣を置き縣監とす後世郡に改め明治四十一年に至り三登郡を廢して本郡に
併せ現今に至る

郡勢 本郡は本道中部南邊に位し東北は成川郡に、南は祥原及黃海道遂安の兩郡
に境し西は平壤府に、北は順川郡に接す地勢東北部は山陵起伏し西部は開濶な
る耕地を有す大同江郡の東部を貫流し其の支流南部を流れ運輸の便比較的良
好なり地味亦膏腴にして耕地の大部は畑地を成し農産豐なり道路は江東邑を
中心として四隣各邑に通し往來稍々繁きも挽車を通せず住民は専ら農を業と
し生計状態概ね裕なるか如し産物は粟、大豆を主とし麥、小豆、米之に亞く戸數八
千餘、人口三萬六千あり

江東邑 郡の東部に位し平元街道に沿ひ旅客の往來頻繁なり西平壤に九里を距
て其間牛車を通す東北成川には五里にして達し途上坂路あり邑民は農を業と
し民富割合に平均し窮貧者なし産物は郡に同じ戸數二百、人口一千、郡廳、憲兵分
遣所、郵便所、公立普通學校在り

第十三節 孟山郡

沿革 高麗の鐵瓮縣にして顯宗王十年孟州防禦使と稱し高宗王十八年民蒙兵を避けて海島に入る四十四年殷州(順川郡の一部)に併す元宗王二年人民歸還し安州の所屬たり恭讓王三年別に縣を置き令と爲す李朝太宗王元年安州に合し十四年復舊し其年又德州(德川)に合し德孟縣と號せしか明年復置して縣監とし孟山と改稱す近世郡に改め今日に至る

郡勢 本郡は本道の東邊に位置し東北は寧遠郡に西北は德川郡に西は順川郡に南は陽徳成川の二郡に東は咸鏡南道永興郡に隣す郡内到處山岳重疊起伏し其主脈は東南方に起り漸時西北方へ傾斜す地勢此の如くなるか故に道路峻険にして交通不便なり東幕江は郡の東端山間に發源して中部に屈曲貫流し幾多の細流を合して德川郡に至り大同江の本流に入る江の沿岸を除くの外概ね山地にして平野に乏しきも樹木に富めり地味は概して豊沃ならず耕地全面積は一萬一千八百餘町歩にして其内畑地一萬一千七百餘町歩を占め水田極めて少し住民の大多數は農を常業とし商工業共に微々たり特産物として充羅及び麻

布を出し一箇年産額一萬五千圓に達す其他大豆、小豆、粟、玉蜀黍等を産す郡内朝鮮人戸數六千八百餘、人口三萬九千餘内地人の居住するもの八十餘人なり

孟山邑 郡の北方郡内面に在り西北德川に至る六里、北方寧遠に七里、道路峻険にして挽車を通せず加ふるに沿道の河流は殆んど橋梁なく降雨毎に氾濫し流域の變更を來し貨物の運輸は纔に人肩馬背に倚る住民は農を以て生業とし産物は略々郡に同じ郡廳、守備隊、郵便所、公立普通學校等在り

第十四節 甌山郡

沿革 本と平山郡と稱し江西縣の一部たりしか李朝太祖三年割て縣令を置き中宗王の時降して縣監とし近世郡に改め郡守を置く明治四十一年咸從郡を廢して其一部を本郡に合せ以て今日に至る

郡勢 本郡は本道の西部海岸に位置し南は龍岡郡に、東は平壤府及び江西郡に、北は永柔郡に隣し西方一帯は西朝鮮灣に瀕む瀕海長汀曲浦に富み沿岸線頗る長く僅に五里の間南浦、財一浦、炭浦、可馬浦、兎山浦、漢川灣、鎮防浦等の津浦を爲す灣口險崖にして灣内何れも干瀉又は草生地なれども其の浮筋には船を容るるに

足り避風安全なり煙臺山脈は郡の南端より起りて東北に馳走し永柔郡に入り其餘脈郡内に蔓延し玉女峯鷹岩嶺蹉峨山の高峯起伏し石太馬中高石の諸峯は沿岸近く峙立すれども其間亦平地に乏しからず殊に東南一帯は展開して平坦なる耕地を爲す陸路の主要なるものは東方平壤に通するものにして途上平夷貨物の運輸は概ね之に依る其他東南江西及び南方咸從に至る道路あれども共に狹隘にして車輛を通せず住民は農業に従事するもの多數にして沿岸地方に在りては漁撈に従ふもの少からず生計状態概して裕ならされども極貧者は稀なるか如し産物は米、麥、大豆、食鹽、魚介、牛皮等とす戸數九千百餘、人口四萬五千餘あり

甌山邑 稍々西海岸に偏し復元山麓にあり東方九里にして平壤に、南三里半にして咸從に至り東南四里半にして江西に達するも道路は幅員狭少にして何れも來往に便ならず殊に咸從間の道路は鷹巖嶺の峻峙ありて行路頗る難澁なり邑民の多くは農を業とし商業としては小規模の飲食店にして特記するに足るものなく生計裕ならず産物は米、麥、大豆、牛皮等にして牛皮は盛に平壤地方へ移出

せらる邑内戸數二百に満たず郡廳郵便所憲兵分遣所公立普通學校在り

咸從 本と咸從郡衙所在地にして邑の南三里半に在り郡中最大の部落にして商業比較的盛に内地人の居住して雜貨商を營むものあり戸數二百八十餘を有し憲兵分遣所私立學校あり

碑閣 聖臺面に在り文祿の役宣祖王難を避けて義州に回駕途次駐蹕せし所にし

第十五節 徳川郡

沿革 高麗初葉の遼原郡にして穆宗王四年徳川防禦使と稱し元宗王元年人民蒙兵を避けて安州に入り忠烈王六年に及びて歸還し成州(成川)に附屬す恭愍王二十年折置して知州事とし李朝太宗王十三年徳川と改めしか幾ならずして孟山縣を併合して徳孟縣と稱し二年の後ち割て孟山縣を復置し徳川を郡に陞す爾來引續き今日に至る

郡勢 本道の北部に位し東は寧遠郡に、南は孟川及び順川二郡に、西は价川郡に接し北は平安北道寧邊郡に境す郡内到處禿山又楮山にして平地極めて少く四

境亦高峰峻嶺を以て圍繞し土地概ね磽确にして灌溉に乏しく生産物は住民の需用を充たすに足らず各面共に桑樹多し道路は嶮惡なる坂路を越へざるへからざるか爲め貨物の運送は總て牛馬背に倚る大同江の貫流するあるも急流激湍にして舟楫の便なく邑の南方五里半の孟山郡北倉に至りて漸く水運の利用を爲し得るに過ぎず移入品の主なるものは綿布、雜貨、乾魚、鹽等にして移出品は絹、麻布、葉煙草、牛皮及び若干の梨、栗にして物價一般に高く金利亦頗る高率なり住民は全く進取の氣象を缺き悠悠々自適低度の生活を繼續しつつあるも最近稍覺醒の兆あり郡内戸數七千三百四十、人口三萬九千六百あり

徳川邑 郡内面に在り平壤の東北二十六里に位す大同江上流に沿へるも急流にして舟を通せず土地僻遠陸路嶮惡にして運輸交通不便なり氣候は略々平壤に同じ邑民は多く農耕を事とし傍ら機械採薪又は木履の製作に従ふものあり雜穀、絹麻布、煙草、木炭、木履等を産す内地人六十餘人、朝鮮人千五百人あり郡廳、區裁判所、郵便所、警察署、地方金融組合、養蠶傳習所、公立普通學校在り

第十六節 祥原郡

沿革 本邑高句麗の烏達にして新羅憲德王改めて土山と稱す高麗顯宗王九年黃州(黃海道)に隸屬し忠肅王の時今の名に改め陞して郡と爲す後本道に來隸し李朝之に因る近世郡守を任置し現今に至る

郡勢 本郡は本道の最南端に偏位し東及び南は遂安黃州の二郡を以て黃海道に境し西は中和郡に、西北は平壤府に接し北は大同江支流を挾て江東郡と相對す廣袤東西四里南北九里にして面積凡そ三十六方里を有す東西南の三面は山岳を以て圍繞し北方展開して大同江に至る間二三の平野ありと雖も隨處起伏し耕地は管内總面積の約四分の一を超へず四方各郡に通する道路は概ね峻險にして往來便ならず西北平壤間の道路は旅客の來往比較的頻繁なり住民は農を專業とし性概ね順朴なれども徒に舊慣を墨守するの風を脱せず生活の度頗る劣低生計状態極めて單純なるを以て糊口を凌ぐに困難なるもの罕なり産物の主なるものは粟にして大小豆、麥、稷之に亞き又棉花、煙草、蜂蜜等を産す戸數五千五百餘、人口二萬四千餘あり

祥原邑 邑内面に在り西北平壤を距る九里、西方七里にして中和邑に達し又谷山

邑に通する要路に當るを以て旅客の來往常に絶へず近來平南鐵道開通に伴ひ遂安金鑛の盛況を呈するに共に旅客貨物の來往劇増せしも道路の改修未だ成らざるを以て交通至便ならず邑民は農業に従ひ副業として開市日に商業を營むものあり生活の度低く上流者と雖も一人一箇月の生活費平均三四内外なるか如し産物は郡に異らず邑内戸數百九十餘人口千百餘にして内地人の居住する者十數人あり郡廳郵便所、巡查駐在所、養蠶傳習所、公立普通學校在り

第十七節 永柔郡

沿革 高麗朝初めて定水縣を置き後ち永清と改め龍岡に隸屬せしか其後復舊分置す高宗王の時安仁鎮を以て縣事を兼ね李朝太宗二年鎮は安州に移屬し咸從の所屬通海縣を取て本縣に隸し同五年寧遠柔遠二鎮を合して永寧縣と號す世宗王五年今の名に改め縣監を置き近世郡に改む

郡勢 本郡は本道西海岸の稍々北方に偏し南は甌山郡に、東方は一連の山脈を以て順安郡の境を劃し北は肅川郡に接し西方一帯海に面す地勢東南は高峻にして山陵起伏すれども北西に向ふに従ひ緩傾斜を爲し沃野相連り水田面積は本

道中に冠絶す其中央を西流する大河は源を東方の五里峴山より發し流程約七裡にして似近浦に注く沿岸灌溉の利に富み且つ高潮を利用するときは上流約一裡の中橋里附近まで舟楫の便を得へし道路は北方肅川より來り南方遠く鎮南浦に通するものを主とし其他各郡邑に通するものあれども何れも途上險惡にして往來容易ならず北部の住民は主として農及び製鹽を業とし南部地方に在りては漁業頗る盛なり生活の度低く生計裕ならずと雖も甚しき窮窮者を認めず産物は米を第一とし年産額五萬九百餘石に達し本道中第二位に在り又麥の産額は第三位を占め道内著名の農産地たり其他蘆蓆、草鞋、牛、魚類鹽等を産出す戸數五千餘人口二萬九千百餘あり

永柔邑 郡の東部に偏し漁波驛を距る一里半なり東方に山陵を控へ其他は展開せる平野に連る隣郡及び郡内各面に通する道路は比較的平夷なれども隘路にして挽車を通せず市場は毎月四、九の日を以て開市し集散貨物は重に郡内の生産物にして穀類の外は本郡各面の需要を充すに過ぎず邑民は農を業とし傍ら商業に従事するものあれども生計概して裕ならず産物は略々郡に異ならず郡

廳郵便所公立普通學校あり

梨花亭 中部面に在り文祿年間豊太閤三韓征伐の時李朝第十四世宣祖王が京城より此地に避難せし所なりと傳ふ

第十八節 肅川郡

沿革 高麗の初め平原郡と稱し太祖十一年移して鎮國に築城し名けて通徳鎮と號し成宗王二年肅州と稱し防禦使と爲す後ち知郡事に改め李朝太宗王の時今の名と爲し陞して都護府とす近世に及び郡に改め郡守を任置し今日に至る

郡勢 本郡は本道西北部の海岸に在る狹長の一郡にして南は永柔郡に、東南は順安郡に、東は順川郡に、北は安州郡に接し西は僅に西朝鮮灣に瀕し海岸線九裡を有す廣袤東西九里南北凡そ三里半あり東方は山岳連亘するも西北に緩斜して平地を爲し以て北方安州郡の平野に連り土地肥沃にして農耕に適す西方東五灣に注入する百丈河は源を肅川邑の東方山間より發し其流域約十里に亘り水勢頗る急なれども下流は緩にして高潮に際し海水の浸入する所多く處々に鹽田を作る本郡は平壤安州間の中央に當り樞要の地を占むれども其間に體甘介

嶺の難路介在するを以て運輸及び旅客の來往は迂路安州順川を経て平壤に至るもの多し京義鐵道は郡の中部を横斷し邑に停車場あり住民の多くは農を生業とし瀕海地方に在りては製鹽及び鰓漁業に従事すれども性多くは蒙昧頑固にして進取の氣力なく利用厚生の途を識らす生計概して困難なり産物は米粟大豆木炭生牛魚類牛皮等にして鑛産には金雲母ありと雖も鮮人の採掘法未だ不完全にして收支相償はさるか如し戸數五千二百餘人口二萬六千餘あり

肅川邑 西部面に在り京義線停車場所在地にして京城の北方百九十六哩餘を隔つ北方高く舍朴山聳へ附近一帶廣漠たる平野にして灌漑の利に富み農産饒多なり東平地院に二里南永柔には三里にして達すれども道路何れも平夷ならず交通概して不便なり邑民は農を業とし副業として商を營むものあり粗衣粗食に甘するを以て生計困難を訴るもの稀なり市場は毎月三、八日に開市し穀類飲食物其他日用百般の需用品を賣買し遠近より群集するもの頗る多く混雜を呈し毎市の取引高二千五百圓内外に上る産物は米粟大豆鹽生牛等とす内地人十餘戸五十人居住し朝鮮人四百六十戸二千二百餘人あり郡廳憲兵分遣所巡查駐

在所郵便所、地方金融組合、小學校、公立普通學校在り

第十九節 順安郡

沿革 高麗仁宗十四年楸子島樓遷村、龍坤村、禾山村等の地を併せて順和縣と爲し、令を置き西京に屬し、後ち祥原に轉屬す。忠惠王二年又三和(鎭南浦府)に移屬す。李朝太祖五年治を平壤府安定站に徙し、順安と改稱し、縣令と爲し、近世郡に改め郡守を置く

郡勢 本道の西方中部に介在する一郡にして、東は順川郡に、南は平壤府に接し、西は永柔郡に、北は肅川郡に隣す。地勢平坦にして、道路開け郡邑を中心として、各面に通し、京義鐵道及び義州街道は本郡を貫通し、沿道各地は交通便利なるも、河の大なるものなく、水運の利を缺けり。郡内耕地全面積六千九百六十餘町歩を有するも、灌溉の便に乏しく、水田は八百九十餘町歩、畑地六千餘町歩なり。住民の多くは農を業とし、其他商業又は鑛業に従事す。農産物の主なるものは米、麥、粟、小豆、黍、紙等にして、砂金、雲母、黒鉛等の鑛産に名あり。郡内朝鮮人戸數五千餘人口、二萬三千餘、内地人百餘人居住す

順安邑

郡内面に在り、京義線の一驛にして、京城を距る約百七十九哩にして、西北に大平野を控へ、土地肥沃なり。附近より砂金を産し、古來朝鮮に於ける砂金採取地として著名なり。近時産金量前日の如く多からざるも、依然採掘に従事するもの多し。其他雲母、黒鉛を産す。又驛の西方二里の赤岩里、東北四里半の盤松里は共に岩金を出す。砂金、雲母、黒鉛、米、麥、粟、小豆等を主要産物とす。邑内朝鮮人戸數四百九十餘人口、二千餘、内地人十餘戸、三十餘人居住す。郡廳、憲兵分遣所、公立普通學校等在り

漁波驛

自德面に在り、京義線停車場所在地にして、京城を距る百八十九哩なり。順安邑へ陸路四里、肅川邑へ三里半、永柔邑へ一里半にして、遠す。住民は農を以て業とし、商業之に次く産物の主なるものは米、大豆、麥、粟、棉花なり。朝鮮人戸數百餘人口、五百餘、内地人二十餘人居住す。巡查駐在所在り

第四十七章 平安北道

沿革 本道は往古平安南道と共に箕子朝鮮の地たり。後ち衛滿朝鮮の領地と爲り

漢の武帝朝鮮を併有するや本道の大部は樂浪郡に屬し東北一部は玄菟郡に屬せり其後高句麗の所領たりしか終に新羅文武王の併す所と爲り後ち高麗の領有に歸し成宗王の時十道を分置するや平安南道と共に溟西道と稱し尋て北界と改め肅宗王又西北面と改稱せしか元宗の代一度元に没せられ忠烈王に至りて復歸す辛禡の時暫く西海道(黃海道)に隸屬せしか李朝太宗の朝獨立して平安道と爲る太宗帝朝鮮を分ちて十道となすや本道の地は義州江界二府の所管と爲り翌年府を廢し十三道を置くに際り始めて平安北道と稱し視察道廳を寧邊に定めしか隆熙二年十月道廳を義州に移し日韓併合の際平安北道廳と改め道長官を任置し現に一府二十郡二百五十八面を管す

位置廣袤 本道は朝鮮の西北邊一帶の地を占め東は咸鏡南道に接し南は平安南道に境し西は黃海に濱し北は鴨綠江を隔て延長約百五十里を以て滿洲に對し東西約百二十里南北四十六里面積千六百三十方里沿海線は百八十哩を有す

地勢 鴨綠江の水源たる長白山脈の一脈は西南に走りて老爺嶺山脈となり其支脈四分五裂逶迤盤曲して本道面積の約四分三を占む隨て耕地少く京義鐵道沿

線地方及び其以西に於て水田を見其他は山間狹小の部分に點在するあるのみ
交通 京義沿線附近竝に其以西の地は概して平夷にして雲山、寧邊、博川、嘉山の邊又甚しく峻嶮ならずと雖も其他は皆山嶽重疊し十里を行かんには必ず二三の險峙を攀ちさるへからず東方の山地に至りては馬背に倚るも尙ほ通行し能はざる所少からず安州、寧邊間九里の間及び鐵道附近郡廳所在地近傍等既に道路の改修を畢へたるものなきに非すと雖も未だ殆んど九牛一毛の感なき能はず鴨綠江岸地方は舟楫の便あるも大部分は戎克船を通し筏を流下し得るに止まり而も一年の中其半は凍結流水の爲利用するを得ずして單に橋を以て對岸間の交通に資するに過ぎず又大寧、清川二江の水路あるも前者は僅に博川、郡舊津を以て舟運の極點とし後者は夏季潦水の際に於てのみ寧邊に達するを得るのみ

住民 平北の民は古來李朝のために特別の抑壓を受けたるか爲め京城人に對しては尙ほ隱忍し容易に許さざるの風あり割合に神身強健にして稍々慥悍奸譎の性ありと稱せらるゝも寧ろ質實にして一度ひ決心せば死生を顧みざるの

傾あり殊に他道民と異なる點は所謂勘定高きことにて目前の利益を貪らんとする傾向あるも一般に經濟的利害には敏なり蓋し一面には兩班の如き空權を擁して威勢を逞ふするもの少く財産の存する所即ち勢力の歸する所なると他面には清國との往來繁頻なるかため彼等の威化を享けたるに因るならん教育熱は比較的盛にして佛教は社會人心上殆んど何等の效力なきか如く耶蘇教信者最も多く侍天教天道教を崇拜する者も少からず内地人の最も多き地は居留民團所在地たる新義州にして義州之に亞き其他定州、龍岩浦、宣川、北鎮、郭山、嶺美、寧邊、鐵山、車、菴館、中江鎮等は皆學校組合を設け子弟の教育に不便なからしむ管内朝鮮人戸數二十萬三千餘、人口九十四萬一千餘、内地人五千八百九十人、外國人二千八百五十餘人あり

産業 農民戸數は十四萬五千戸にして全道戸數の七割を占め耕地面積約五十二萬五千町歩の内畑地は四十九萬町歩を超え水田は三萬五千町歩に過ぎず地味は概して瘠薄なり農産年額は粟の二十七萬二千石を最とし米二十萬石、稗十萬六千石、大豆十萬四千石、玉蜀九萬八千石等之に次ぎ米穀以外の農産物としては

棉花、煙草、麻を主とし年産額棉花二十四萬六千貫、煙草二十萬八千貫、大麻二十七萬二千貫なり

柞蠶は道中重要の事業として囑目せられ現に十萬圓を産するに過ぎざるも道内三分の一は所謂柞蠶地帯に屬し將來有望の事業なり寧邊、義州の明紬は昔時朝鮮名産の一に數へられ現今は其産額五萬圓内外なるも漸く挽回の氣運に向へり

本道の生牛は品質他道の産に比し優良にして總數六萬頭の中年々千四五百頭は清國に輸出せられ牛皮も亦之に次ける重要品なり

本道は朝鮮に於ける大森林地の如く目せらるゝも其實は然らずして森林地帯は慈城郡以東の地に止まり京義沿線以西は他の地方と異なることなく猪山、禿峯、相連れり而して鴨綠江岸及び其支流流域の森林は朝鮮總督府營林廠の管區に屬し同廠に於て經營せり

商業は主として市場によりて行はるゝこと他道と異ならず現に市場數四十に及び毎市千人以上の來集者を見るもの十箇處ありて集散貨物は生牛、獸皮、木綿

明純、石油、魚、茶、鐵器、陶器、冠帽、繭、穀類及び雜貨にして開市日は毎月六回なり茲に附記の必要あるは本道に於ける清國貨幣流通の一事なり鴨江沿岸一帶八里以内は清貨を以て商賣の標準と爲し流通貨幣の五割乃至八割は清國貨にして相場の変動あるかため取引上の不従少からず

工業は明純、麻布、綿布の織製、蘆簾、陶器の製造業なるも未だ何れも手工業の時代に屬せり

本道は各道中最も鑛山に富み龍川、鐵山、定州、涓原、厚昌、雲山、朔州、寧邊、熙川、義州、龜城の諸郡は金鑛に富み黑鉛は秦川、龜城、朔州、楚山を主とし目下採掘中の主要鑛種は金砂金及び黑鉛にして雲山、金鑛は米人の經營に係り年額二百七十萬圓を産し朔州、金鑛は内地人の採掘する所にして年三百貫餘を出す

鴨綠江より清川江に至る沿海一帯は漁業に適し年五六十萬圓の漁獲あり魚の種類は鮫、鰈、石首魚、鱈等とす

製鹽業は微々として振はす年産僅に千六百石に過ぎず

産物 大小豆、粟、黍、玉蜀黍、稗、米、蕎麥、棉花、煙草、梓、蠶繭、明純、麻布、蘆簾、眞鍮器、陶磁器、木材、牛豚、牛皮、魚類、金砂金、黑鉛、銅等なり

第一節 義州府

材、牛豚、牛皮、魚類、金砂金、黑鉛、銅等なり

沿革 本と高句麗の地にして後唐に服し又女眞の據る所となり高麗に至て龍澗縣一名和義縣を置く顯宗王の時契丹に入り保州と稱し後ち抱州又把州と號す睿宗の代高麗に復歸し義州防禦使とし國防を置く高宗王八年一ひ咸新と稱せしか尋て又義州に復す恭愍王十五年收と爲し十八年萬戶府を置く李朝太宗王二年判官を置き靜州及び咸遠鎮の地を附屬し世祖の朝鎮となし宣祖二十六年府尹を置く太皇帝三十二年郡と爲し光武十年高麗三十九年府に改め明治四十三年十月府廳を義州より新義州の地に移し以て今日に至る

府勢 本府は本道の西北邊に位し東は朔州郡に、南は龜城、宣川二郡に、西南は三橋川を隔て龍川郡に對し西北及び北は鴨綠江水を挿て滿洲に面す西北は田畝拓け東南は丘陵起伏し平地少し地味は肥瘠相半し灌溉の便少く耕地總反別二萬三千四百町歩の中水田は僅に千二百町歩に過ぎず農産物は玉蜀黍一萬八千石粟三萬二千石大豆一萬三千八百石を主とす京義鐵道郡の西部を過り三停車

場を有し又京義街道を通し義州新義州間馬車を通する等西部及び沿江地方は交通便なれども東南一帯の地は道路と稱すへきものなく交通不便なり住民は重に農業に従事し商人は僅に農民の十分の一に過ぎず農民の大半は小作人にして幸ふして生計を持続し得るも一朝凶災に遇はば窮乏悲況を極む産物は穀類家畜を主とす府内朝鮮人一萬九千八百六十戸十萬六千三百九十人内地人一十餘戸三千百五十人清國人百四十戸千二百九十人あり

新義州 本府の西北邊鴨綠江の左岸江口を溯ること十二哩京義鐵道の終點たる開港地にして京城より三百一十一哩を隔つ北は鴨綠の大水を隔てて安東縣と相對し東南廣漠たる田野を控へ東北義州と四里を隔て此間馬車を通し南六里にして龍岩浦港に達す最近鴨綠江上の大架橋工事竣成し滿鮮鐵道の連絡を見たるか爲め此地は世界的大都市として地位を占有するに至れり殊に此鐵橋は人道を兼ねるを以て安東縣との往來は至便となれり然れども江水は淺くして滿潮時を利用するにあらざれば千噸内外の汽船を溯行することを得ずして普通は江口二十哩の沖合に投錨し錨地と本港との連絡は石油發動機船又は解船の

媒介により冬季四箇月は海運閉塞の不便あると地低濕にして夏季往々水害を被むることあるは本港の發展上重大なる障害と云はざるを得ず冬は寒氣嚴烈にして十二月より翌年三月に至る間は河水氷結し江上の往來自在なり夏は之に反し暑氣酷しけれども氣温の高低甚しく朝夕は涼氣快感を覺ゆ結氷中の商況は沈靜に歸し諸般の事業停止し商品の需給亦頓に減退するも朝鮮人は結氷を利用して農産物を牛馬車にて市場に搬致するか爲め朝鮮人市場は割合に賑へり而して春風一來結氷を解かば各方面の事業は忽然として活氣を呈し水陸の運輸各種の取引繁劇となるを常とす金融機關二三を有し現に甚しき不便なし内地人は商業を主とし朝鮮人は農業に従ひ又舟夫及び日稼業者少からず産物の重なるものは大豆木材及び家畜なり内地人戸數八百、人口四千、朝鮮人六百七十戸三千人、清國人百十餘戸千二百人あり義州府廳、朝鮮總督府營林廠、地方裁判所支部、區裁判所、警察署、郵便局、稅關支署、監獄分監、守備隊、居留民團役所、地方金融組合、鴨綠江渡航會社、興農會、小學校等在り

義州 州内面に在り新義州を距る東北四里鴨綠江の沿岸に位置し江を隔てて清

國九連城と相對し遠く安東縣を望む南東は起伏せる連山によりて城壁を設く地勢高燥にして頗る山水の景に富み日清日露の役我軍の渡河點たり新義州には馬車を通し又鴨綠江には舟楫の便あり城内人家稠密にして家屋の大半は瓦葺なり氣温は最高九十五度最低十度を示す商業稍々盛にして取引先は安東縣を第一とし新義州之に次く生産物は穀類、麻、獸皮、木材とす昔時冬至使か北京に朝貢せし際平安道政治の中心對清貿易の要衝として數千の民家城廓の内外に櫛比せる時代の儼なきも今尙ほ平北の一市地方物資の集散地として相應に賑へり朝鮮人戸數二千五百、人口一萬二千餘内地人二百戸四百五十人あり平安北道廳の外憲兵分隊、區裁判所、郵便局、農工銀行支店、守備隊、慈惠醫院、地方金融組合、産業傳習所、小學校、公立普通學校等在り

白馬驛 威遠面に在り京義線の一驛にして四圍繞らすに山を以てす新義州との間十三哩を隔て内地人九十人朝鮮人六十人居住す發着貨物の主なるものは木材、薪炭、煉瓦、石材なり巡查駐在所在り驛の北方に有名なる白馬山あり容姿屹然群峰に秀て松杉森々として山を鎖し沿道稀に見るの光景なり山頂に登り四顧

すれば方數十里眼眸に集まる李朝仁祖の代義州府尹林慶業の築城に係り外壁尙ほ存す城内に同人の忠魂碑在り

石下驛 津里面に在り新義州との間六哩を隔つ亦京義線停車場所在地にして附近廣潤なる平野を擁す發着貨物は煉瓦、雜穀、石材等なり朝鮮人三百餘人内地人十人居住す巡查駐在所在り

上陸紀念碑 義州の西南耳湖浦に在り日清戰役に於ける大山第二軍司令官の上陸紀念碑なり

中ノ島 清國人は向島と稱す新義州義州の中間に位する鴨綠江の一島にして周圍六里あり安東縣と相對す地勢平坦にして中央に楊樹の茂るあり他は殆んど畑地にして地味肥沃雜穀豐熟す巡查駐在所在り

九龍浦 義州の東北約十町鴨綠江岸に位置す義州への上陸地點にして其間馬車を通す船舶の寄泊貨物の集散場たり義州税關監視所在り

第二節 寧邊郡

沿革 本と迎州撫州二縣の地なり迎州は高麗朝の密雲郡一名安朔郡にして光宗

王二十一年延州を改め知州事を置きしか成宗王十四年防禦使と爲し恭愍王十五年府に陞して延山と改稱し太宗王十三年都護府に改む撫州は高麗の雲南郡一名古青山郡にして成宗王十四年撫州防禦使と爲し高宗王十八年蒙古兵來侵のため人民地を空ふして去りしか元宗王二年來歸し渭州の古城に居處し嘉州(嘉山)に屬す恭愍王十八年秦州(秦川)に移屬し恭讓王三年別に監務を置き李朝太宗王十三年改めて撫山縣と稱す世宗王十三年延山撫山二縣を併せて寧邊と命名し大都護府と爲し邑を撫山の藥山城に置き都節制使の本營とし土官を設け二十四年節制使營を罷めしか四年の後も復置し後數年にして之を廢し端宗王の時復た之を置き府使を兼ねしむ太皇帝三十三年觀察道廳を此地に定め觀察使を置きしか隆熙元年道廳を義州に復し爾來郡と爲し現今に及ぶ

郡勢 本道の南邊に位し東北西の三面は熙川雲山秦川三郡に接し西南は博川郡に隣し南は平安南道安州郡に、東南は同道价川郡に境す東西約十五里南北約五里あり妙香山東北に聳立して支脈連亘重疊し地勢險峻交通頗る難澁なるも西南部は山勢急ならず耕地多く道路亦割合に低夷なり耕地總反別は三萬三千二

百町歩に及ぶも灌溉の便に乏しかため水田は僅に千八百町歩に過ぎず農産物中米は少額にして郡内の需用を充たすに足らず麥亦殆んど言ふに足らざるも大豆は年産一萬石を超え道内屈指の産地たり其他小豆一萬二千石粟三萬石蜀黍一萬石を産し又棉花三萬貫以上を出し養蠶は道中各郡に冠絶し従業戸數六千に近く明細の年産額四萬圓に及び質亦他の地方に比し良好なり郡内又金山多く龍山面に於ける金礦會社の如きは百萬圓の資本金を以て經營せり住民は古昔悍勇奇矯を以て聞えしも今や淳朴の風を馴致し専ら農蠶に従事す雜穀類を常食とし生計に苦むものは稀なり郡内戸數一萬八千九百餘人口九萬八千五百八十餘あり産物は穀類棉花明細鐵器生牛牛皮なり

寧邊邑 邑内面に在り四面繞らすに山嶽を以てし頂上に城壁を築き周圍三里餘に亘り所々に樓閣を設け險要にして風光に富めり京義線新安州驛より八里を隔て其間道稍々廣く著しき阪路なきも橋梁完備せず交通至便ならず其他雲山博川熙川等隣邑に通する道路は峻險にして往來困難なり邑民の半數は商業を營み飲食店雜貨店最も多く之に次くは農民にして工業者は少し生活の程度は

一般に低劣なり戸數八百人口三千六百餘あり産物は銀象眼鐵器眞鍮器明細等なり郡廳守備隊區裁判所警察署郵便局農工銀行支店學校組合地方金融組合種苗場實業學校小學校養蠶傳習所公立普通學校在り

藥山 寧邊城に對向し一里餘を隔てて屹立する一山にして頗る風光に富み城趾を存す

妙香山 郡の東北に在り長白山の一脈にして蜿蜒重疊數十里に亘り峰高く谿深し太古國祖檀君斯山に降生せし故を以て靈場と稱せらる今を距る千餘年前探密禪師の開基に保り學僧雲集庵を結び房を修めて周回十里の間を點綴し李朝に至り稀世の忠僧西山大師此山より起りて義兵を擧げ文祿の役に參して明將李如松と共に小西軍を平壤に破り王を義州城より平壤の舊都に還幸せしめたる功に依り酬忠祠を建設し春秋に享祀して尊崇甚た篤く半島五大寺の一として今尙ほ本寺末庵四里の間に散在し碧瓦朱樓四十餘棟僧侶徒弟百人を算す孔子廟 邑内に在る一廟にして古來朱子の書と傳へられたる木版を藏す一見粗造なれども書家の鑑定に依れば朱子の眞蹟なりと云ふ

第三節 江界郡

沿革 本と禿魯江と稱し高麗朝恭愍王十年萬戸を置き十八年江界と改め萬戸府と爲し鎮邊鎮成鎮安鎮寧四軍を設け李朝太宗王元年石州と稱し三年府と爲し十二年改めて都護府とす世宗王二十四年都節制使營を置きしか二十八年度ひ之を罷め三十二年復置し三年にして又之を廢止す世祖の朝虞芮慈城二郡を廢して其民を本府に移し後ち鎮を置けり其後鎮を罷め近世郡と爲し以て今日に及ぶ

郡勢 本道の東部に位し東北は厚昌慈城二郡に接し西北は鴨綠江を以て滿洲に對し西方は渭原楚山兩郡に南は熙川郡に隣し東は牙得嶺山脈を以て咸鏡南道長津郡と境す南方熙川郡界に狄踰嶺蜿蜒し東境に牙得嶺盤亘し支脈郡内に重疊起伏して唯禿魯江の下流及び鴨綠江沿岸に於て平地を見るのみ大體の地勢は東南部に高峻にして西北に低し地勢斯の如きを以て多くは山脚の傾斜地を利用して粟豆を栽培するに過ぎさるも耕地面積は四萬八千二百餘町歩に及び其廣さ道中第二位を占む灌漑の利僅少にして米産は殆んど云ふに足らず大豆を

多産し其額道中に冠絶す陸路は京義線新安州驛より入り寧邊を經るを順路となすも寧邊より江界に至る五十二里の間は山嶽重疊峯巒起伏して平坦の耕地は殆んど見るを得ず途中纔に熙川郡邑内の人家稠密せる所あるの外は人民は三三五々所々の山間に棲居するに過ぎず鴨綠江に沿ひては四箇の浦口を有するも下流よりの溯行は頗る難事なるかため交通運輸共に頻繁ならず住民は主として農業に従事し江界邑内に於ては商工業を營むもの少からず生活の程度低く雜穀を常食とし生計状態裕ならずとも雖も四隣各郡に比し稍々優れるものあり郡内戸數一萬五千五百七十、人口八萬二千餘にして産物は大豆、煙草、粟を主とし其他麥米、蜂蜜、生牛、金屬具、金銀、銅等なり

江界邑 郡の略々中央に位し道中屈指の大邑たり新安州驛を距る約六十里義州を距る七十二里鴨綠江岸との最近距離十二里にして貨物の運搬頗る困難を極め安州邑よりするに一週間以上を要し鴨綠江の水運に依れば運賃に利あるも日數に於て約一箇月を費す邑民の過半は農業に従事し副業として養蠶を爲すものあり商業としては主として平壤、安州、義州等より木綿雜貨類を移入し之を

慈城、厚昌、涓原等の各郡に供給するにあり産物は米、穀、煙草、金屬具にして戸數八百餘あり郡廳區裁判所、憲兵分隊、地方金融組合、公立普通學校等在り

仁風樓 邑内に在り二百二十餘年前の建築に係り當時兩班の遊樂場に充てたるものにして禿魯江に臨み風光明媚なり

午南寺 公北面公貴里の山上に在り古來子無きもの此寺に詣つるときは妊娠すと傳へ今尙ほ參詣する者多し

第四節 龍川郡

沿革 高麗の初め安興と稱し顯宗王五年龍州防禦使と稱し後ち改めて龍澗府と爲し忠宣王二年知事とす李朝太宗王四年義州の伊彦を本郡に附し龍川と改名し近年に至りて府と爲し後ち郡とし郡守を任置す

郡勢 本道の西北隅に位置し東は義州府に、東南は鐵山郡に接し西北は鴨綠江を隔てて滿洲に對し南は海に面す郡内丘陵の起伏するものなきにあらざるも概して低平にして米の産額は道中第二位を占む沿岸は中央突出し其先端獅子島突角の東に耳湖浦ありて小船の出入に適し郡の西北端鴨綠江口に龍岩浦あり

て大小船舶の出入常に絶ゆることなし京義鐵道は郡の東北部を貫通し南市良策、枇峴の三停車場ありて陸路の交通に便し水運は龍岩浦を中心として各方面に通し殊に同浦と新義州との間には小汽船の往來頻繁なり住民の多數は農業に従事し漁業者商業者の數順次に之に次く郡内戸數一萬二千餘、人口六萬一千一百餘あり農産物は米、麥、大豆を主とし水産物は鱈、石首魚、鱈、太刀魚、白魚、鰻、鯛、比目魚等の魚類及び海藻にして鴨綠江外は本道に於ける白鰻の大漁場たり

龍岩浦 郡の西端鴨綠江に近く位し龍岩山と對山との間の河岸に在り清國大東溝と相對し新義州を距る水路十四哩にして普通四時間内外にして達す港灣水深からざるを以て吃水淺き汽船の外出入するを得ず大船は浦頭を距る十哩以上の沖合に投錨せざるを得ず此地明治三十七年の開港に係り日露戰役中より漸く内地人朝鮮人の來り住するもの多く今は朝鮮人二百五十戸一千餘人内地人二百二十戸四百六十餘人、清國人二百五十餘人あり市場ありて毎月四、九の日開市し集散貨物は米、綿布、鹽、魚類、蘆、雜貨を主とし住民の多數は農業に従事し商業、日稼業、漁業工業者の數順次に之に次く龍川郡廳、氣象觀測所、警察署、學校組合

郵便局、税關出張所、小學校、朝鮮海水産組合支部等在り

龍川 郡の東部龍骨山の西麓にあり元と郡衙の所在地にして南市停車場に五里を隔つ住民の大部分は農を業とし素封家多く生計狀態概して裕にして人口三千あり郵便所、巡查駐在所、普通學校在り

南市驛 外上面に在り京義線停車場所在地にして新義州を距る二十八哩なり南市は驛を距る南方二十町餘に在り著名の市場にして穀類の産出多く朝鮮人五百戸二千五百人、内地人四十戸三百人あり巡查駐在所在り

良策驛 東上面良策洞に在り新義州を距る南方二十三哩の停車場所在地にして朝鮮人七十戸二百四十餘人、内地人四十餘人あり巡查駐在所在り

枇峴驛 光化面回軍洞に在り京義鐵道の一驛にして新義州を距る十九哩なり附近山岳を以て蔽はれたる一村にして朝鮮人戸數四百餘、人口二千三百餘、内地人三十人あり巡查駐在所在り

耳湖浦 獅子島突角の東方にあり龍岩浦と四里を隔て其間道路平坦にして交通便なり此地西に丘阜を負ひ北に平野連り東南方海に面す船舶の出入碇繋に便

なり港内の左岸丘上に樹木繁茂し崖下に民家約七十戸在り其多數は漁業に従事す魚類及び貝類を多産す

新島 龍岩浦の南西約十哩の海中に横はる一島にして周圍約五哩あり地勢南北に隆起し中央は平坦なり村落は大概其平坦なる部分にあり住民の大部分は農業に従事し其他は漁業に従ふ米穀は他より供給を仰ぐことなくして島民の需用を充たすに足るべく燃料亦十分なり鱈其他の魚類及び貝類を産す

第五節 定州郡

沿革 高麗朝の龜州郡なり顯宗王の時防禦使と爲し高宗王十八年蒙古兵の來侵に際し兵馬使朴犀戰功ありし故を以て陞して定遠大都護府と爲し後都護府とし又定州牧に改め尋て州治を馬山の南に移す李朝世宗王元年割て龜城郡を古龜州の地に分置し十二年州治を隨川に移す近世郡に改め郡守を置き今に及ぶ郡勢 本郡は本道の西南海濱に位置し東は嘉山郡に東北は秦川龜城の二郡に西北は郭山郡に接し西南及び南方は海に面す京義鐵道線路以東は山陵起伏して太祖峯北將臺南將臺東將臺等の諸嶺を爲し以西は概し低平にして耕地多く灌

漑に富み耕地反別一萬五千町歩に達し水田面積は畑に比し遙に多く米は一年四萬八千七百石を出し其産額道中第一位を占め其他雜穀一萬七千石を算す京義鐵道郡内の斜めに縦貫し停車場三箇處を有し又京義街道の貫通するありて運輸交通共に比較的便なり住民の大部分は農業に従事し商工業日稼業者之に次ぎ沿海地方は漁鹽業に従事するものあり兩班儒生の數は道中最も多數なると交通來往の頻繁なるに因り文字を知り事理を解するも割合に多し戸數一萬三千餘人口六萬八千三百餘あり

定州邑 別に定遠、定原の名あり郡の稍々北に偏し平壤義州間の要鎮として古へ城砦を設けたる地なり東北西三方には山陵連り市街は周圍一里高さ十尺の城廓を廻らし東西南北の四樓門を設け今を去る百七十餘年前の築造に係ると云ふ隄川江邑内を貫流し水奔騰するを以て舟楫の便なきも流域一帯の地爲に灌漑の利を享くる頗る大なり邑は京義線定州驛の在る所にして京城の北二百四十哩餘を隔て古來西鮮有數の都會なりしも日清戰役に於て民家兵燹に罹り近年漸く恢復するに至れるものにして又日露の役我騎兵の衝突せる最先の地と

して名あり道路は邑を中心として四通八達し東嘉山に四里、西北郭山に三里、東北秦川北龜城に各九里ありて往來頻繁なれども道路は未だ改修を加へず邑民は農及び商を業とし生計困難なるもの尠し邑内市場二箇所を有し毎月一、六日を以て交互開市し一市の取引高平均五六百圓なり産物は木炭、鎗器、牛皮、黒鉛にして黒鉛精製所は現に三箇所あるも産額未だ多からず朝鮮人三百七十四戸千八百五十餘人、内地人百餘戸三百四十人あり郡廳、憲兵分隊、區裁判所、郵便局、學校組合、地方金融組合、小學校、公立普通學校、實業學校在り

雲田 南部雲田面に在り京義線の一驛にして何口里浦との間一里、京城を距る二百二十七哩餘なり背面は岳陵連り前面は水田及び干瀉地にして農業に適す朝鮮人千八百人内地人數人居住す

古邑 京義線停車場所在地にして京城より二百九十四哩餘を隔つ附近一帯地味肥沃にして農耕に適す朝鮮人百六十八居住す

忠魂碑 邑の南門内に在り明治三十七年五月日露の役我か加納騎兵中尉斥候として部下七名を率ゐる此地に來る偶々露の前哨兵二百名と邑内にて衝突し奮戦

激闘の後遂に中尉以下六名此地に戦死す後ち内地人相謀りて此碑を建つ

聖蹟碑 忠魂碑の傍に在り高麗恭愍王三年崔萬生なるもの元國に通し王朝を覆さんとす李成桂兵を王に請ひ來りて崔を獺川に撃破したり後世碑を此處に建て李の偉績を頌す

駐蹕亭 邑の東門内に在り文祿の役宣祖王平壤より逃れて邑内の豪族卓龍の家に駐蹕す日本軍追撃し定州を畧す王再び義州に走る後年此處に斯亭を建立す

第六節 宣川郡

沿革 本と安化郡にして高麗の初め通州と改め顯宗王二十一年宣州防禦使とし高宗王十八年人民蒙古の兵を避けて紫燕島に入り元宗王三年に至り歸還す李朝太宗王十三年宣川と改名し後ち郡と爲し今日に至る

郡勢 本道の西北海邊に位置し東は郭山郡に、東北は龜城郡に、北は義州府に、西は鐵山郡に接し南方海に瀕す北方には高嶺聳立し餘脈郡内に連亘するも沿海地方は平地を成し道内屈指の米穀産地たり沿岸は草生地多く其西端には鐵山半島突出し南面には身彌島種はりて一大灣を形成す宣川灣之なり京義鐵道郡内

を貫通して停車場二箇所を有し沿岸臨萊江口には船舶の出入絶ゆることなく道路未だ不完全なるも一般の交通は不便ならず住民の多数は農を業とし傍ら扇の製作に従事するものあり沿岸地方は漁業又は製鹽に従事するもの少からす郡内戸數一萬九百三十餘、人口五萬八千餘あり産物は米穀、木炭、扇、牛皮、魚類、貝類及び蟹等なり本郡は本道中砂金産地の主たるものにして隨所之を産し就中梁毛隅山附近一帯の地は礦區頗る大なり其他鐵竝に黒鉛を出す

宣川邑 郡の殆んど中央大陸山の北麓に在り京義線停車場所在地にして平安道中平壤に次ぐの大邑なり郭山邑を距る七里、鐵山邑を八里を隔つ毎月三、八日を以て開市し集散貨物の重なるものは扇、魚貝、鹽、牛皮、雜穀等にして一市の取引高平均三千圓に及び商家櫛比し瓦屋多く商業盛なり此地古來基督教の頗る盛なる地にして同教會の設立に係る數箇の學校あり邑民の生計状態は概して裕なり朝鮮人三千八百五十、内地人二百四十、清國人其他外國人四十人あり郡廳警察署、學校組合、地方金融組合、小學校、公立普通學校等在り

路下驛 東面に在り京義線停車場所在地にして新義州との間五十五哩餘を隔つ

朝鮮人百六十餘戸一千三十餘人、内地人は十人を超へず巡查駐在所在り

東林驛 新府面清江里に在り京義線の一驛にして新義州との間四十三哩餘あり朝鮮人百戸四百人、内地人四十餘人居住す驛の北方約一里に東林鎮の城趾在り李朝仁祖の時義州の知府林慶業の築造に係る城内瀑布あり四境幽寂觀楓に名あり

身彌島 本郡の東南方に横はる大島にして東西三里南北七里周圍四十四哩あり中央に雲從山高く聳へ島内平地少く沿岸屈折多きも大概干潟なり住民の多数は農を業とし傍ら伐木製炭に従事し著名の薪炭産地なり民家二百八十人口千三百あり巡查駐在所在り

第七節 楚山郡

沿革 本と女眞の領域豆木里の地なりしか李朝太宗王に至り初めて理州府を置き後ち理山と改め郡と爲す世宗王の時治所を央土里に移し景宗王陞して府とす近世楚山と改名し郡に更め郡守を任置し今日に及ぶ

郡勢 本郡は本道中部の北邊に位置し東北は渭原郡に、東は江界郡に接し東南は

熙川郡を以て圍み西南は雲山郡に、西北は碧潼郡に隣し北方は鴨綠江を挾て滿洲と相對す狼林山脈は郡の南方を蜿蜒西走して分水嶺を成し其餘脈郡内に波及するを以て到る處山又山を以て掩はれ中部西方に於て炭嶺の峻峯突兀たり全山喬木鬱密として一大森林を成し遠く四隣に連亘し一眸際涯なきか如し河流の重なるものは郡の中部及び西端碧潼郡界を流るるものにして各々山間溪谷を縫流して鴨綠江に注ぐ隨て沿岸の耕地と雖も灌漑の利に乏しく江の沿岸及び支流の河口に五箇の津浦を有し交通を助く郡中水田面積極めて少きも畑地反別は殆んど五萬町歩に達し本道各郡に冠絶す氣候は略々義州に匹敵せり地勢前記の如きを以て四隣各郡邑に通する道路は峻坂ありて牛馬の往來を阻止する處少からず而して冬季は河水凝結し水上人馬の往來安全にして棧を使用し以て運輸交通の便を援く住民は農耕を以て生業とし傍ら採薪日稼に従ひ又朝鮮酒を醸造する者多く其額年七萬圓に及ぶ商業は對岸清國人との間盛に行はれ従つて清國貨幣本位にして租稅納期に際りて經濟狀態に變動を生し金融逼迫するを例とす民度低く生計概して裕ならず産物は大豆、粟、麻、蕪、蠶、繭、

煙草、山蔘、蜂蜜、牛豚、黑鉛等にして就中大豆の産額は一萬五千石を超へ本道中第二位を占む郡内戸數八千六百餘、人口四萬七千二百餘あり

楚山邑 中部北邊の郡面に在り義州より鴨綠江を溯行すること四十六里の沿岸に位し郡を横斷する河流邑内を流れて江に注ぐ東北渭原を距る九里西方十五里碧潼に至る道路を主とし其他各邑に通する道路あるも頗る險惡にして來往容易ならず貨物の運輸は重に水路を利用す邑民の大部分は農業にして商業之に次ぎ日稼人又少からず近來養蠶を爲すもの漸く多し集散貨物は蜂蜜、煙草及び清國産鹽等を主とし日用雜貨類は對岸清國領より仰ぐもの多く又米穀は江界より一旦此地に移入し更に各邑に供給せらるるもの多し民度低きも生計單純なるを以て糊口に窮するもの少し産物は畧々郡と異らす邑内内地人五十餘人朝鮮人凡そ二千人あり郡廳區裁判所憲兵分隊郵便局地方金融組合、公立普通學校等在り

第八節 龜城郡

沿革 高麗時代の萬年郡にして後ち女眞の據る所たりしか成宗王十三年平章事

徐熙に命し攻めて女眞を逐ひ城を築きて龜城と號す高宗王十八年陞して定遠大都護府と爲し又定州牧と改め後ち州治を馬山に移す李朝世祖王元年古龜州の地要害にして定州と懸遠するを以て龜城郡を設置し尙ほ閔延茂昌の二邑を罷め其民を本郡に移し十二年都護府に陞し鎮を置きしか其後鎮を廢し郡とし郡守を任置す

郡勢 本郡は本道の西部に位し北は朔州郡に、西は義州府及び宣川郡に、東は泰川郡に、南は定州郭山兩郡に隣す郡の中央に靑龍山聳立し支脈四方に分派して各地に山陵起伏するを以て平地に乏しく重なる河流は靑龍山に發源して一は東流し泰川郡に入りて内江に合し一は西流して義州府内に走り大鰲江に會す此二川の沿岸は平野を形成し灌溉に富み地味膏腴ならさるも道中屈指の米產地として年額二萬三千石に及び又粟稗其の他の雜穀を多産す道路は龜城邑より南方定州に通するを主要なるものとす其間牛車の往來甚しき不便を感せさるも其他隣郡に通するものは牛馬の往復に妨なきも車を通するを得ず住民は大部分農業に従事し商業者之に亞く郡内戸數八千五百八十餘、人口四萬三千五百

餘あり産物は米粟稗、小豆、大豆、玉蜀黍、蕎麥、大麻等にして金、砂金、黒鉛の鑛脈に富み殊に黒鉛は其質良好なり

龜城邑 邑内面に屬す京義線定州驛の北十里に在りて其間牛車を通す東方泰川邑に六里、北方朔州邑に十二里を隔て交通便ならず邑より各面に至る通路は一、二を除くの外は概して平坦なり邑民は主として農業に従事し少數の雜貨商及び酒商あり朝鮮人百八十戸、九百三十餘人、内地人二十餘人居住す郡廳、郵便所、公立普通學校等在り

屈巖寺 邑の北方三里の山中に在り奇巖屹立景勝の地たり

東林寺 邑東約三里を隔つ境内風光翠美夏時曳杖の客少からず

第九節 鐵山郡

沿革 高麗初葉の長寧縣にして顯宗王九年鐵州防禦使と稱し李朝太祖元年知州事とし寧朔萬戸を兼管す太宗王十三年鐵山と改め十五年萬戸を罷め郡と爲し爾來引續き現今に及ぶ

郡勢 本道の西北部海邊に位置し東は宣川郡に、東北は義州府に、西北は龍川郡に

接し南西一帯海に面す北方には劍隱山東骨山、白雲山、望月山等の高峯竝立し支脈郡内に起伏し廣地に乏しきも東方宣川郡界に台清江、中部に滄浦川、北西に橋江川ありて此等諸川の流域に平地を爲し沿岸は屈曲に富み一部は突出して一半島形を成す沿岸線延長七十餘裡に及び其長さ本道に冠絶し所々に船泊所を有せり京義鐵道郡の東部を貫き車營館停車場を有し道路は北部龍川郡に通ずるもの外は概して交通困難ならず住民の大部分は農業に従業し日稼人商業者の數順次に之に次ぎ耶蘇教を信する者多し郡内戸數九千五百五十、人口四萬四千八百三十あり産物は米、麥、大豆、蘇魚、石首魚、大刀魚、鱈等の魚類及び牡蠣、淺蜆等の貝類なり

鐵山邑 郡の略々中央滄浦川の上流に在りて四方山を繞らせる一村なり北方三里餘にして車營館驛に通し其間交通不便ならず邑民は農を主とし少數の商業を營むものあり内地人の居住者は其數多からず米穀の外特種の産物なし郡廳郵便所、巡查駐在所、公立普通學校等在り

車營館 站面に屬し京義線の一驛たり新義州との間三十七哩を隔つ稍殷賑なる

一邑にして毎月四、九日開市し集散貨物は米、雜穀、生牛、鹽、魚類、蘆蓆等なり内地人戸數六十餘人口二百、朝鮮人四百二十餘戸千八百六十四人あり學校組合、郵便所、巡查駐在所、小學校、普通學校在り

梨花浦 烟台山角の北側に在りて扶西面に屬す沿岸一帯沙堆にして繁船に便ならざるも車營館驛との間三里は道路平坦交通便利にて附近物資の集散地にして本郡沿岸の一盛區なり戸數百十餘あり其半數は漁業者又は船乘業者なり農産に乏しきも魚類及び貝類を多産す

楸島 鐵山半島の南方約一里に横はる一島にして雲山面に屬し周回約二十裡あり其南東南炭島との間は水深く且つ避風の利ありて大船の繁泊に適す島内山岳起伏し平地に乏しく山腹豁間を開拓して畑及び水田を爲し穀菽を作るも其産島民の需用を充たすに足らず然れども全島樹木繁茂し之を伐採して移出し又漁網の染料たる橡皮を出す

第十節 熙川郡

沿革 高麗の清塞鎮にして高宗王四年降して威州防禦使とし後ち熙州と改め价

川の兼守と爲す李朝太祖五年郡を置き太宗王十三年熙川と改め爾來引續き今に至る

郡勢 本郡は本道の東南部に位置し西は雲山郡に西南は寧邊郡に北は楚山江界兩郡に隣し東南一帯は平安南道の寧遠徳川二郡に境す狼林山の峻峯遠く郡の東境に聳へ餘脈西南に蜿蜒して平安南道の界を劃り支脈郡内に亘り狄踰嶺の山脈は北部江界郡境に連亘し餘勢亦域内に起伏するか故に平地に乏しく耕地は清川江の上流沿岸の地及び山腹の傾斜地に於て之を見るのみ水田は數ふるに足らず耕地の殆んど全部は畑地にして地味亦概して肥厚ならず道路は西南寧邊より東北江界に通ずるものを主要と爲せとも阪又山を越へざるへからざる有様にして交通頗る難澁なるのみならず寧邊邑より本郡邑に達する十四里の間は所々の山麓に三々五々の民家を見るの外村邑と稱すべきものなし運輸及び行客の不便は以て推知するに足るべく貨物は人肩又は牛馬背に倚り漸く搬致せらるるのみ住民は農業を主とし養蠶機織を副とするもの多く商業日稼業者の數之に次ぎ性概ね朴直にして侍天教を信するもの少からず郡内戸數八

千六百餘人口四萬六千百九十なり産物は粟大豆牛豚紬麻布蘆蓆を重ねるものとす

熙川邑 郡の東部清川江上流沿岸に在り西南寧邊邑に十四里東北江界邑に三十里半を隔つ道路は孰れも阪路多くして運輸交通共に便ならず物價は一般に高し邑民は多く農業又は商業に従事し生計状態裕ならざるも衣食に窮する者は少きか如し邑内内地人の居住するもの三十餘人なり郡廳憲兵分隊郵便局公立普通學校等在り

禹巖亭 邑の西南十町に在り別名を練武亭と云ふ昔時射術の練習所たり翠辮を負ひ清流に葢み納涼の絶好處なり

第十一節 碧潼郡

沿革 本と女眞の割據せる林土碧園の地たり高麗恭愍王六年泥城萬戸金進等を遣はし女眞を撃走し林土と改め陰潼碧園を之に隸し南界の戸を移し其地を實たす李朝太宗王三年碧潼と改め郡とし世祖の朝鎮を置きしか後ち鎮を廢し近世郡と爲す

郡勢 本郡は本道の中部北邊に位し東は楚山郡に接し南及び西は雲山、昌城兩郡に隣し北は鴨綠江を挿て滿洲に對す郡の南部狼林山脈の支脈郡内に連亘し於自嶺兩嶺等と爲り西部に於て薪城嶺を爲す地勢概して南部に高く北方鴨綠江に向て低下し所々に平地を成し耕地反別は二萬二千町歩を超へ道中屈指の農産地たるも灌漑の利に乏しく水田僅に百六十町歩に上らず粟三萬石を主なる農産物とし棉花の産出は道中各郡に冠たり陸路は江岸に沿ふて東西に横通するものを主とし交通割合に不便ならず其他の道路は阪路多く且つ狹隘にして來往困難なるも沿岸には津浦十一箇所を有し舟楫の便ありて運搬交通を助くること大なり住民の多數は農業に従事し傍ら蠶を養ひ明紬を織る商戸の數は農家に次ぎ鹽支那酒、紙、石油、蘆蓆等を移入し大豆、蜀黍、粟を移出し流通貨幣の過半は清國貨なり郡内天道教頗る盛にして信者約四千人あり戸數五千六百八十餘、人口三萬五千三百十餘あり産物は粟、蜀黍、大豆、麥、米、生牛、農具等なり

碧潼邑 郡内面に屬す東方楚山邑を距る十五里、西方昌城邑を距る十三里なり邑内の集散貨物は粟及び清國産鹽を主とし粟生牛の清國安東縣に移出せらるる

もの少からず運輸は重に水路に倚る邑民は農業に従事し副業として多少の蠶蠶を爲し又商業を營むものあり郡廳、郵便所、公立普通學校等在り

第十二節 雲山郡

沿革 本と高麗朝の雲中郡にして光宗王の時威化鎮と爲し成宗王十四年雲州防禦使と稱す高宗王十八年土民蒙兵を避けて海島に入りしか元宗王二年還陸して嘉山西村に寓し延山村に隸屬す恭愍王二年郡と爲す李朝太宗王十二年雲山と改名し世宗王五年一ひ廢郡し寧邊府に屬せしか三年にして更に復置し爾來今日に至る

郡勢 本道の中央部より稍々西に偏在し東は熙川郡に、東北は楚山郡に接し北は碧潼、昌城、朔州の三郡に、西は龜城、秦川兩郡に隣し南は寧邊、博川の二郡に界す東方遠く咸鏡平安南北の三道界に聳立する狼林山を主山とせる山脈は蜿蜒西走して於自嶺の峻峯を成し其餘脈郡内に重疊起伏し平地極めて少く僅に清川江支流たる沙灘川沿岸の所に及び山間溪谷に耕地の點在するのみ北方狼林山脈は分水嶺を成し、河川は何れも溪谷を縫流して灌漑の便を缺く南方博川寧

邊に通する二條の道路及び北方昌城に至る道路を主要のものとす而して郡邑より北鎮に通し南方寧邊を経て京義線新安州に達する道路は最近東洋金鑛會社の開鑿に係り交通便にして車馬の往來絡繹たれども其他の各郡邑に至るものは狭峻にして來往容易ならず住民は農耕を以て生業とし傍ら養蠶を爲すものあれども日稼に従事するものも少からず民度低劣にして生計概して裕ならず農産物は粟を主とし其他棉花、大豆、黍米、木材、柞蠶にして金は半島中著名の多産地たり郡内戸數六千二百餘人口二萬六百餘あり

雲山邑 邑面に在り東北嶺林山脈より發源して郡中を南流する沙灘川の上流右岸に沿ひ附近稍々平地を見る南方新安州驛へ十二里西方嘉山郡嶺美驛へ十三里餘西北泰川へ八里東方熙川へ十四里を隔つ道路は何れも勾配急にして人馬の往來困難なり唯た北鎮より寧邊を経て新安州に至るもの平夷にして車馬の往來繁く運輸交通便利なり市場ありて毎月五、十の日を以て開市し毎市の取引高平均三百六七十圓に及び集散貨物の重なるものは穀物、木綿雜貨等とす邑民は多くは農を業とし又小規模の商業を爲すものあり産物は略々郡に同じ郡廳

郵便所、巡査駐在所、公立普通學校等在り

北鎮 北面に在り邑の東北七里餘を隔て此間道路良好にして往來便なり又南方京義線新安州驛より當地間二十餘里の間は途上平夷にして幅員廣く挽車を通するを得へきも昌城及び朔州に至るものは峻坂ありて來往困難なり東洋金鑛會社所在地にして市街延々一里餘に涉り採鑛に従事する内外人の居住者多く従て此等を顧客として商業に従事する者少からず商況活潑なり市場は本道中屈指の大手にして本邑以北の商領域を占め取引頗る殷盛なり朝鮮人約四千に達し内地人三百餘人清國人千餘人其他外國人百餘人居住し過半は採鑛に従事し他は商業に従ふ警察署、學校組合、小學校等在り

雲山金鑛 本金鑛は雲山邑の北方一里泥踏里を起點とし附近數里に涉れり古來朝鮮宮廷直營の下に採鑛したりしか建陽元年(明治二十九年)米國人「モールズ」が鑛業經營の目的を以て朝鮮開鑛會社を組織し韓國皇室の特許を得て其の採掘權を獲得し同時に雲山郡一圓に於て二十五箇年間採掘獨專權を得たるに始まり其後米英人の共同に係る東洋金鑛會社之を繼承し現に採掘鑛八箇所を有し

二千餘人の朝鮮人及び支那人を使役し半島金鑛中比類なき大規模の經營を爲す其產出額は年三百萬圓と稱せられ大部分は朝鮮銀行の手により大阪造幣局に輸送せらる又砂金は採掘の規模小にして産額多からざるも鎮南浦上海を経て米國に輸致せらる

第十三節 秦川郡

沿革 高麗朝の光化縣にして光宗王二十一年秦川防禦使と爲す高宗王十八年人民蒙古の兵を避けて海島に入り元宗王二年歸還し嘉州(嘉山)に屬し恭愍王十五年撫渭二州の地を併せ李朝太宗王十三年秦川の名に復し成宗王三年縣監と爲せしか近世に至り郡に改む

郡勢 本道の西南部に位置し東方は香積山を以て寧邊郡を劃り東北は三角山を以て雲山昌城二郡を限り西北は山脈によりて朔州龜城兩郡に界し西方は龜城定州二郡に南方は嘉山及び博川兩郡に隣接し南北約九里東西六里の廣袤あり郡内山岳起伏し原野多からざるも南方には内坪と稱する一平野を成し地味肥沃にして農産豊穰す河川は北方昌城郡より來るもの西方龜城郡に發源するも

のど郡内に於て會流し串江となり博川郡に入りて大寧江を構成す四隣各郡に通する道路あるも博川に至るものの外は總て路幅狭小途上平夷ならず住民の大多數は農を以て生業となし傍ら養蠶を行ふもの少からず商業者の數は之に次く郡内朝鮮人八千五百戸三萬九千九百四十餘人内地人二十餘戸三十餘人あり農産物は米大豆粟を主とし工業品に白布明細農表漆あり又砂金を出す

秦川邑 邑内面に在り京義線定州驛は十一里を隔て博川昌城朔州寧邊雲山龜城定州の諸邑に通する道路あるも博川に至るものの外は徑路にして交通概して便ならず市場ありて商況稍々盛なり邑民は商業又は農業に従事し生計状態裕ならざるも窮貧者は多からず産物は略々郡に同じ邑内朝鮮人三百七十戸千八百餘人内地人十餘戸二十餘人あり郡廳郵便所巡查駐在所公立普通學校等在り

第十四節 昌城郡

沿革 本と昌州及び泥城の二地を併せたるものなり昌州は高麗朝の長湍縣にして靖宗王元年梓田に城き民戸を移し昌州防禦使と爲し高宗王十八年蒙兵入寇し城邑爲めに虚し泥城府は恭愍王十八年泥城萬戸府を置き鎮平鎮康鎮靜鎮遠

四軍を設け李朝太宗王二年泥城を昌州に合せて名を昌城と改め十三年監務と爲す世宗王陸して都護府とし雲山の青山村を割て來屬す世祖の朝鎮を置きしか後ち之を罷め近世郡と爲す

郡勢 本郡は本道の西部北邊に位し東は碧潼郡に、西は朔州郡に、南は雲山郡に隣し西北は鴨綠江を隔てて滿洲に對す狼林山脈の支脈郡の南方に連亘して緩頂嶺界畔嶺等の山峰を成し餘波域内に及びて所々に山陵起伏するも北方江岸に至るに従ひ傾斜して耕地總面積四千四百十餘町歩を有するも灌漑の利に乏しくして水田は僅に百町歩を超へず米産額は郡内の需用を充たすに足らざるも粟三千四百石大豆二千三百五十石其他雜穀の産少からず陸路は沿岸に沿ひて横貫するものを主とし途上甚しき嶮路なきも其他の道路は狭く且つ阪路多し沿岸には津浦五箇所を有し支那戎克船の寄航するありて運輸交通を助く住民中約六割は農を業とし傍ら養蠶業に従ひ斯業は鴨江沿岸諸郡に冠絶し最近柞蠶の飼育を爲すものあり商業者の數は農業者に次くも常設の店舗を有するものは郡内僅に三十餘戸に過ぎず流通貨幣の過半は清貨なり郡民は概ね質朴に

して天道教を信するもの頗る多く近年稍々經濟思想を喚起し各所に貯蓄組合を起し殖林の資に充つるの企あり郡内戸數六千四百六十餘、人口三萬三千六百餘あり物産の主なるものは大豆、粟、玉蜀黍其他雜穀、清金、砂金等なり

昌城邑 府内面に屬す義州を距る十七里、鴨綠江岸を距る約七町に在り繞らすに城壁を以てし三面山を以て包まれ一方鴨綠江に面す邑民は農業又は商業に従事し貨物の主なるものは木綿織にして之を清國、義州より移入し更に碧潼、楚山等に移出す運輸交通は多く鴨江の水路に倚る産物は玉蜀黍を第一とす朝鮮人戸數二百餘人口千三百人内地人の居住者四十人あり郡廳、郵便所、地方金融組合、公立普通學校等在り

甲岩里浦 邑を距る一里に在り往時萬戸を置き國境の防備所たり今尙ほ塞趾を存す江岸に巨龜の匍匐する狀を爲せる巨岩横はる里民呼て甲岩と云ふ江水岩に激し舟筏の難所とす戸數百餘人口三百三十餘あり

第十五節 朔州郡

沿革 高麗初朝の寧塞縣にして顯宗王の時名を朔州と改め州と爲し李朝太祖の

朝郡に降し定宗王の時陞して府とし世祖王に至り治所を小朔州の地に移し後ち郡に改めて現今に及ぶ

郡勢 本道の西部北邊に位し東北は昌城郡に南は龜城郡に西は義州府に隣し西北は鴨綠江を隔てて滿洲に對す南部は界畔嶺を主山とせる山脈重疊し其他山陵の起伏するあるも地勢北部鴨綠江に向て傾斜し江岸地方には開濶なる平野を有し耕地總段別六千八百町歩を越ゆるも灌溉の利に乏しきため水田は極めて少し道路は一般に不完全にして交通不便なるも江岸に安哥、九寧の二津浦ありて運輸交通に資すること大なり住民は農業者大多數を占め主として大豆、玉蜀黍、粟を栽培し傍ら養蠶を爲すもの少からす其他は商工業者又は採礦業者にして天道效を信する者多し移出品は金、大豆、木炭を主とし移入品は鹽、米、石油、魚類、海草等にして流通貨幣の大部分は清貨なり郡内戸數四千八百五十、人口二萬六千六百餘あり物産は金、砂金、黑鉛、大豆、粟、玉蜀黍、煙草、大麻、麻布、莞蓆、明細朝鮮酒等にして酒の産額は一萬三千圓を超ゆ

朔州邑 郡の北部に位し義州の東北十五里、昌城の西南四里に在り此地平坦なる

縣間に位置し市區割合に整然たり近年鑛業勃興の爲め商業活氣を呈し毎月三八日に開市する市場の取引高は一市平均二千圓に及び集散貨物は米穀、紙、生牛、魚菴、金屬器、薪炭、雜貨等なり邑民の生業は農採鑛又は商業にして産物の主なるものは金、黑鉛、紬布及び麻布なり郡廳、警察署、郵便所、公立普通學校等在り

朔州金鑛 新義州より鴨綠江を溯ること十五里餘に在り従來朝鮮人の經營に屬し採掘精鍊法頗る不完全にして産額多からざりしか最近内地人の經營に歸してより産額漸く多きに至れり

第十六節 渭原郡

沿革 本郡、理山郡の都乙漢堡なり李朝世宗王江界及び理山の一部を割て初めて渭原郡を置く世宗王六年理山郡に移屬し後ち幾もなくして復舊し鎮を置きしか後世郡に改む

郡勢 本道の東北部に位置し江界郡は本郡の東及び南部を扼し西南は楚山郡に接し北部一帯は汪々たる鴨綠江を控へ對岸滿洲に對す渭原川は源を江界に發して郡の中央を貫流し東北を流るる東萊江と共に鴨綠江に注ぐ長白山脈は遠

く成鏡道より來りて國境を西走し餘波郡内に重疊起伏し僅に中部渭而附近及び東萊江口に於て平地を見るのみ耕地は水田極めて少く地味亦肥沃ならず道路は邑を中心として隣郡に通ずるも頗る險惡にして纔に楚山江界に通ずるもの稍々便なりとす住民は性固陋にして進取の氣に乏しく只管舊慣を墨守し産業振はす生計頗る困難なり産物は黍、大小豆、米、蘆葦等にして又少許の麥、煙草、麻、蜂蜜、硯石を出す郡内戸數四千二百餘、人口二萬二千五百餘あり

渭原邑 郡の稍々西部郡内面に在り東百山を負ひ西北渭原川を控へ鴨綠江には一里にして達す西楚山へ九里東江界に十八里を隔て各二條の道路あり又江界郡の南部武坪里に通ずるも其間何れも狹隘なる坂路にして交通極めて不便なり然れども鴨綠江は本郡唯一の運輸交通路にして冬期の結氷に際しては尙ほ氷上橋を利用して自由に貨客を搬致するに足る邑民は農商相半し民度平均するも一般に生計裕ならざるか如し金融亦緩慢なれども秋收期に至れば市場活氣を呈し殊に對岸支那との取引盛に行はれ半年期間輸出入總額二萬五六千圓に達し支那貨幣頻りに流通せられ租稅納期に際り交換相場騰騰するを例とす

産物は木綿、蠶繭、穀類にして邑内内地人十餘人、朝鮮人百八十餘戸、八百餘人あり
郡廳、憲兵分遣所、郵便所、種苗場、公立普通學校、私立學校在り

第十七節 嘉山郡

沿革 本と信都郡一名古德縣なり高麗朝光宗王州を置き高宗王の時縣と爲し撫寧と改め尋て州に復す李朝太宗王十三年嘉山と改稱し郡とし爾來今日に至る
郡勢 本道の西南部に位置し東及び南は大寧江を挿んで博川郡に對し北は秦川龜城二郡に隣し東は七岳山の脊梁及び長水灘を劃りとして定州郡に接す東西最も廣き處四里餘南北同六里餘にして廣袤十七方里半あり本道の東北方なる狄踰嶺山脈の分脈南走せるもの及び龍川郡を起點とせる龍骨山脈の終點に當るを以て北部並に西部は概ね高峻なるも南部は低濕にして平地廣く大寧江及び其支流たる長水灘の流域は東西約三里南北一里に亘り沖積土にして優良の耕地なり氣候は本道中溫暖の部に屬し冬季平均氣温は攝氏水點下三四度夏季二十四度内外なり京義街道郡の北部を貫き東は安州より平壤に西は定州より義州に通し又京義鐵道南部を横貫して嶺美驛を有す道路は一般に坂路ありて

往來便ならず住民の大部分は農業に従事し商業漁業工業者の數順次に之に次
き窮貧者は多からず郡内戸數五千五百五十餘人口二萬九千二百餘あり産物は
米粟大豆蜀黍稗小豆菴等なり

嘉山邑 郡内面に在り嶺美驛との間半里を隔つ東に白頭山北に月下峯及び鳳頭
山西北に馬耳山を負ひ南方顔山の横はるゝも西南の一方展開して大寧江の
平野に連る京義街道の外は徑路にして一般に交通便ならず市場ありて金巾雜
貨の集散あるも市況不振なり邑民の多數は農業に従事し商業を營む者之に亞
く農作物の外特種産物なし郡廳郵便所巡査駐在所公立普通學校等在り

嶺美驛 邑南半里に在り京義線の一驛にして大寧江の平野に位置し江に邇く舟
楫の便あり土地肥沃にして米産に富めるも自作農業者は二割内外にして又物
貨の集散少く住民には貧困者少からず出荷貨物は綿布綿糸を主とす附近に鑛
山多し郵便所學校組合巡査駐在所小學校等在り朝鮮人六百五十人内地人百二
十餘人居住す

第十八節 郭山郡

沿革

高麗朝の長利縣にして成宗王十三年郭州と號し顯宗王九年防禦使を置き
高宗王八年定襄と改む十八年蒙兵の難を避け人民地を空くして海島に入り元
宗王二年歸還して隨州(定州)に隸屬し恭愍王の時郡に復す李朝太宗王今の名に
改め以て現今に及ぶ

郡勢 本郡は本道西海岸の中部に位し東は定州郡に接し東萊江其界を貫流す北
は龜城郡に西は宣川郡に接し西南一帯海に瀕す郡内山岳重疊すれども數條の
に溪流沿へる平坦地あり海岸線は比較的長きも干潟多く船舶の碇繋に便なら
ず東端定州郡界附近に於て鹽田に富めり京義鐵道は郡内を横貫し東定州より
來り西宣川に通する京義街道は稍々隔てて線路と並行すれども途上嶮惡にし
て往來便ならず住民の生業は農商相如き日稼業漁業之に亞き生計は概ね裕な
らす産物は米、麥、大豆、粟、石材、砂金、並に蘇魚、鱈、石首魚、太刀魚其他の魚類を産
し水産年額凡そ六千圓なり戸數五千百餘人口二萬六千餘あり

郭山邑 郡の稍々東方に偏在し海岸を距る約一里餘の地に在り四周山陵を繞ら
し京義街道に沿ひ東定州へ二里、西宣川へ五里を隔て其他北龜城に通する九里

の道路あれども何れも挽車を通せず郭山停車場は本邑より約五町を隔て京城の北二百四十八哩餘に位す邑民は農を生業とし又微々たる商業を爲すものあり生活状態低度にして生計困難なるか如し邑内に在る市場は毎月二、七の日開市し集散物の重なるものは石材、金巾、木綿、陶器、雜貨、穀類、牛にして就中石材の年額は約五萬圓を超ゆ邑内内地人四十餘戸、百人居住し朝鮮人九百三十餘戸、四千餘人にして又少數の清國人あり郡廳、郵便所、巡查駐在所、學校組合、小學校、公立普通學校在り

第十九節 博川郡

沿革 高麗朝の博陵郡にして成宗王十四年博州と稱し防禦使を置く高宗王二年嘉州(嘉世)に屬し恭愍王二十年又郡と爲し李朝太宗王の時今の名に改め世祖五年寧邊に隸屬し數年にして復舊す近世郡守を置き今に至る

郡勢 本道中部の最南端に位する小郡にして東は寧邊郡に、南は安州郡を以て平安南道に境し西南海に瀕し西北は大寧江を隔てて嘉山郡に接し北は泰川郡に隣す北大寧江、南清川江兩流域の平野を占め肥沃の地少きも平地多く山陵稀なり

り陸路は嶮阪なく大寧江は水深くして舟運に適し舊津まで溯行するを得水陸相待て運輸交通に便し往來稍々頻繁なり京義鐵道は郡の南部を横貫すれども郡内に停車場を有せず住民は農業を主とし商業日稼業者之に次ぎ海岸地方にありては漁業に従事するものあり金融順調にして貧困者少し産物は米を第一とし大豆、稷之に亞き麥の産額は言ふに足らず戸數五千七十餘、人口二萬五千三百餘あり

博川邑 郡の中部西邊大寧江岸に在りて北に禁山、西に臺峯、西南に南山聳ゆるも其他は平坦にして東方寧邊に六里、西方嘉山に二里、南方安州に三里、泰川に六里を隔つ道路は總て邑を中心として各郡邑に通し京義街道の要驛として交通頻繁なり鐵道開通前は本道に於ける商業の一中心地たり今は貨物の幾分を安州に奪はれたるも尙ほ昔日の繁榮を維持し其商業範圍は東方遠く寧邊、熙川、江界等の諸郡に及へり邑民は主として商業に従ひ工業亦盛にして經濟潤澤生計概して裕なり産物は馬尾毛製品、箆筒、金具、牛皮、篋、宕巾及び穀類にして就中馬尾毛製品は販路廣汎にして年産額五萬圓を下らずと云ふ邑内民家四百九十餘、内地

人二十餘戸あり郡廳警察署郵便局農工銀行公立普通學校在り

舊津 邑に隣して位置し舟楫の利に富み貨物集散地として本道南部に於ける樞要の市場たり開市日には來集者常に七百人乃至千人に及び貨物は農産物工藝品水産物にして商況殷盛を極む西北二里半にして嘉山郡嶺美驛に達し南新安州驛には四里を隔て道路廣く且つ平坦にして交通便なり

宣祖駐蹕亭 邑の東方一里餘に在り文祿の役宣祖王寧邊より博川に次し蹕を此所に駐めたりと云ふ殿堂社壇の此附近に存在するもの多し

第二十節 慈城郡

沿革 本と女眞の割據せる地にして當時の沿革は詳ならず高麗朝以後江界府の一部閔延の地なりしか今を去る四十年前太皇帝の代割て郡守を置き慈城と稱し今日に至る

郡勢 本郡は本道の東北端に偏位し東及び南は厚昌江界二郡に接し鴨綠江北より西に斜流して郡界を成し以て滿洲に對向す慈城川は東方厚昌郡より來り郡の中央を貫流して鴨綠江に注く長白山脈の餘脈郡内に起伏し峯巒重疊するも

閔延面中江鎮附近に於て東西二里半南北二十町餘の平地を見水田亦此附近に存在するのみにして其他の地方は畑地山間に點在す喬木鬱蒼として繁茂し樹齡數十年乃至數百年に及び半島著名の林産地たり道路は慈城邑を中心として東厚昌に、南江界に、北は鴨綠江岸中江鎮に達する道路あるも何れも峻坂ある狹路にして交通甚た便ならず鴨綠江は舟楫の便ありて貨物運輸に資す住民は農を專業とし又少數の商業を營むものあり性一般に順朴なれども勤儉貯蓄の念慮に乏しく生活程度頗る劣等にして粟其他の雜穀を常食とし生計困難なり産物は粟、玉蜀黍、大豆、畜牛、蜂蜜、山蔘、蔬菜等にして鑛産物は金、砂金、銅なり戸數四千四百二十、人口二萬一千九百餘あり

慈城邑 郡の略々中央に位し慈城川の左岸に沿ひ下ること四里にして鴨綠江岸に達す道路の主なるものは邑を中心とし東方厚昌に至る十二里及び南方江界に通ずる二條なれども羊腸崎嶇として攀登急降の苦難を忍はざるへからず郵便物は京城まで片路二週間を要す以て交通の不便なるを推知するに足るへし邑民は農を生業とし偶々商業を營むものあり生計困憊を極むるもの多し市場

は總て清貨本位にして新貨の流通は少額なり特殊産物なし邑内朝鮮人百八十戸にして内地人の居住者は數人に過ぎず郡廳、守備隊、憲兵分遣所、郵便所、公立普通學校在り

中江鎮 郡の北端閔延面に在り鴨綠江岸に沿ひ對岸清國帽兒山と相對す營林廠支廠を置き伐木製材組筏等盛に行はる内地人の移住者頗る多く商況稍々振へり筏は鴨綠江を下りて新義州に到るに十四五日乃至二十四五日を要す故に筏上に藁又は板を以て小屋を構へ水上生活の設備を爲し屋上旗幟を懸へしつつ三々五々相尾し流に従て江を下るの狀實に國境の一奇觀たり守備隊、憲兵分隊、郵便所、學校組合、種苗場、小學校在り在留内地人目下三百人に上れり

閔延城 中江鎮に在り往昔閔延郡と云ひし頃清の暴民江を渡りて此地を侵し郡守を慘殺せり後ち其子の郡守に任せらるるや曩時の暴民を閔延城に招待し爆藥を投して共に死し以て不俱戴天の仇を報せりと傳ふ

第二十一節 厚昌郡

沿革 本と女眞の據りし地にして當時の史蹟を詳にせざるも今を去る四百年前

李朝中宗王の時一ひ茂昌面に文昌郡を設け幾もなくして之を罷め其後ち東部逆城面に厚州府使を置き咸鏡道に隸せしめ太皇帝の代之を廢し改めて厚昌郡を置き郡守を任し治所を邑内面に奠め南部江界郡の一部を割て之に附し本道に移隸せしめ以て今日に至る

郡勢 本道の東北端に偏在し東南は咸鏡南道長津及び三水二郡に界し西南は江界郡に西北は慈城郡に隣し鴨綠江は郡境を東北より西北に廻流し以て滿洲との界を割れり東南郡界一帯は白頭山脈連亘して厚州嶺、葱嶺、直嶺等の峻峰と爲り支脈郡内到處に重疊し殊に中部に於て東に火蟻嶺、西に五佳山の嶮嶺を爲し此二山を連結する一帯の高原は郡内の分水嶺を形成す此高原の東北部域に屬する厚州江、杜芝江、厚昌江の三流は共に北流して鴨綠江に注き西南部域に在る慈城江は西流して慈城郡に入り此等諸川は皆山間谿谷を廻流して全然舟楫の利なく山中は老樹喬木鬱蒼として繁茂し半島第一の大森林を成す耕地は流域又は山間に點々存在する狭小の平地又は傾斜地に過ぎずして其面積山岳の百分の一に及はず地味礫確にして農耕に適するもの少く陸路嶮惡にして江

邊斷崖絶壁の處僅に板を以て道を作り間々匍匐して進む所少しとせず物資の運輸は鴨綠江に倚る冬季江水凍結して氷上を來往す寒氣酷烈にして七八月の候既に降霜するを例とし盛夏と雖も深山幽谷に到れば尙ほ氷塊を見ること稀ならず住民は咸鏡道及び江界慈城方面の移住者にして殆んど定住の目的を有するものなく轉々水草を逐ふて移るもの多く生活の程度は本道各郡中最も劣等なり一般に無智蒙昧にして向上の氣力なく生計頗る困難なり住民は林野の燒田に於て農耕に従ひ粟、麥、大豆等を食す産物は粟、大豆、麥、蜂蜜、山蔘、藥材、麻布、畜牛、牛皮にして戸數二千七百七十餘、人口一萬一千二百九十餘あり

厚昌邑 郡の西北厚昌江畔に在り三方峰巒を以て繞らす南方江界、北方鴨綠江岸に通する道路は割合に交通便なるも西慈城東咸鏡道に達する道路は頗る急峻にして往來難澁なり貨物の運搬は夏期にありては人肩馬背に據り冬期は牛橐を用ゆ邑民は農又商を業とす特種産物なし朝鮮人八十餘戸、三百二十餘人内地人二十戸三十餘人あり郡廳、憲兵分隊、守備隊、郵便局、公立普通校在り

第四十八章 咸鏡南道

沿革 大古沃沮の地たり漢朝鮮を領して四郡を置くや本道は咸鏡北道と共に玄菟郡に屬せり後ち高句麗玄菟の太守を逐破して之を領有し新羅を経て高麗に及び成宗王に至り半島を分ちて十道と爲すや和州(永興)溟州(江陵)等の郡縣を以て朔方道と名け靖宗王東界と改め文宗王東北而と稱す其後咸州(咸興)以北の地女眞の割據する所と爲る睿宗王の時尹璉、吳延寵等を遣はし撃て女眞を逐ひ咸州より於嶮嶺に至る間九城を築きて界と爲す明宗王沿海溟州道と改稱し春川地方を割て別に春川道を置く高宗王の代元來侵し雙城(永興)總管府を置き今の咸鏡一圓の地を領す元宗王江陵道と改め恭愍王の時樞密院副使柳仁雨を遣はし攻て雙城を抜き領地を回收す其後江陵朔方道又は朔方江陵道と改稱せしか恭讓王に至り江陵道と分て朔方道と名く李朝太祖地を拓きて豆滿江沿岸に及ぶや本道の地は端靑洪、咸四州の地たり太宗王の時治所を永興に定め永安道と爲し中宗王咸鏡道と改名し治所を咸興府に移す太宗帝道を廢し二十三府を置

くや本道の地は咸興甲山二府の所管たりしか翌年府を廢止し十三道を分置するに際り始めて咸鏡南道と稱し首府を咸興に定め觀察使を置く日韓併合後尙ほ舊に因り道廳を咸興に定め道長官を置き現に一府十三郡百八十九面を管す

位置廣袤 本道は朝鮮の北部に位し北は鴨綠江を以て滿洲に劃り東北は咸鏡北道に、西は平安南北二道及び黃海道の一部に境し南は江原道に隣し東は日本海に濱す面積約一千六百七十一方里あり

地勢 本道は長白山の一脈東北より西南に亘り西部一帯は高岳峻嶺重疊し南部江原道の界には鐵嶺の峻峯あるも東部は平野少からずして咸興、永興、安邊、北青、端川、洪原には各數里に亘る沃野を有す就中咸興平野最も大なり海岸延長二百七十餘哩にして屈曲多からざるも永興、新浦の良港あり島嶼比較的少く河流は大ならざるも灌溉に資するに足る氣候は寒暑共に酷烈なるも地形西部に高く東部に低く且つ東南海に面するか故に同緯度の西鮮地方に比し寒暑孰れも緩和なり降雪は南鮮に比し多く山間に至りては積雪數尺に及ぶ

交通 沿海各郡を連絡する道路は概して平坦なるも隨所崩壞し内陸の道路は高

低廣狹一ならずして交通不便なり沿岸航路は定期船あるを以て港邑間の交通は割合に便利なり

住民 本道は李朝發祥の地たるを以て人民概して自負心強く排他の風あるも他道の者に比し稍々忍耐力に富み殊に婦女子の勵精なるは他に其比稀なり生業は農を主とし沿海地方は漁撈に従事する者多く一般に麥粟等の雜穀を常食す家屋は南鮮地方に比し大にして構造亦可なり管内朝鮮人戸數十六萬六千四百人口八十五萬一千七百餘、内地人七千五百人、外國人七百四十餘人あり

産業 氣候稍々寒冷に過くるも地味は決して瘠惡と稱すへからず就中咸興、永興、安邊等の平野は朝鮮内有數の沃地たり水田少く陸田多し農産物は大小豆、麥、粟、稷、米等にして大豆は産額多く道内重要な輸出品にして殊に端川、利原地方のもの品質良好を以て著はる

牧畜上特に經營を爲せる者を見ざるも農家は殆んど戸毎に牛を飼養し輸出品の一種たり

従來咸興は咸南貨物集散の中心地たりしか元山開港後は貨物の大多數は一度

元山に集まるを常とし商品中最も多大なるは明太魚にして其大半は元山より釜山に移送す之に次くは大豆にして元山城津等より水路南北に輸致す工業は幼稚にして全く手工業に屬し製造品中の重なるものは明紬、蓆、麻布、玉細工にして又土器、眞鍮器等あり現今及び將來に於て咸南の重要財源たるべきものは漁業にして其中第一位を占むるものを明太魚とす之か漁場は朝鮮沿海に於ては本道近海三十里を其本場とし漁獲高一年七十萬圓を超過す其他各種の魚類多し

道内又鑛産に富み其種類は銅、砂金、金銀、黒鉛及び鐵鑛の外玉を出す

産物 大小豆、雜穀、明太魚、鮭、鱈、鱒、鯛、鯉、鰈其他の魚類、明紬、麻布、玉細工、銅、砂金、黒鉛等なり

第一節 元山府

沿革 本府は本と高句麗、泉井郡の地にして新羅、井泉郡と稱し高麗、溈州と呼び後ち宜州に改む李朝太宗王宜川と改稱し別に宜城、宜春、春城等の名あり世宗王の時德源郡と爲し尋て府に改め太皇帝光武年間郡と爲せしか翌年復た府とす明

治四十三年日韓併合新官制實施の際元山府と改稱し府廳を元山に移し以て今に及ぶ

府勢 本道の南部に位し北方文川郡に接し西南安邊郡に隣し東北一帶永興灣に臨みて永興郡、虎島半島及び文川郡沿岸と相對す東西六里南北五里面積約三十方里あり春梁山脈の一派馬息嶺となりて安邊郡界に峙ち幾多の支脈管内に蜿蜒すと雖も高峻なるもの少く緩傾斜にして開拓を爲すに足るもの多く殊に元山里より安邊郡に亘り稍々廣き平地を爲す其他北方なる文坪川、中部なる陽日里川、赤田川の各流域に於ても亦平地の散在するを見る陸上交通は北咸興を経て會寧に通し南京城に及び西平壤に達する三街道を主とし日清日露の兩戰役により何れも改修を加へたりと雖も咸興道路の外は牛馬を通すること頗る難事たり水路は北城津、清津、雄基を経て浦鹽斯德に、南釜山を經由して内地、阪神等に通する定期船、不定期線及び沿岸航行汽船の來往ありて運輸交通に便し尙ほ本春來京元鐵道敷設工事に著手せり住民は農業を主とし沿岸地方は漁業に従事する者多し管内戸數八千二百二十、人口三萬八千七百餘ありて其内内地人は

千百九十戸四千六百四十人なり農産物は大豆を主とし其他雜穀及び薯等に
して水産物は鯿、鱈、鮭を重なるものとす鑛産に金銀鑛あり

元山港 本道南部に一大灣あり東朝鮮灣と云ふ鐵嶺山脈遙に南西に連り東は日
本海に面し葛麻浦の岬角及び虎島半島を以て灣口を扼し灣の廣さ東西約二十
四哩南北約十六哩あり灣内更に松田、永興の二灣に分れ灣の窮る所即ち元山港
にして十餘の島嶼散在して自然の防波堤を爲し潮流緩にして冬季氷結するこ
となく水深くして大船巨舶を入るべく實に半島の一大良港なり下の關を距る
西北三百五十哩釜山へ三百六十哩浦鹽へ三百三十哩を隔て出入の船舶常に輻
輳す市街は西に長徳山を負ひ東は海に濱し南は赤田川を隔てて朝鮮人の大部
落たる元山里に接す寒暑は共に烈しく最高氣温華氏九十度半、最低氷點下二十
八度にして二月の初旬には積雪二尺に及ぶことあり本港は明治十三年五月の
開港に係り逐年内地人の移住者を増し今や戸數一千五百人口五千に達し居留
民團を設けて教育衛生土木等諸般の公共事業を經營し貿易年額三百五十萬圓
を超へ街衢は純然たる内地風にして商店軒を連ね商況盛なり京元鐵道開通の

曉は蓋し般販の度を倍加すへし而して水産と農業とは當地に於ける最も主要
の産業なるか未だ内地人の農業に關しては見るべき施設無きも附近清國人の
耕作せる主なる農産物は大豆及び米にして就中大豆は當地經濟界に多大の關
係を有せり産米は地方の需要を充たすに足らずして之を移入に仰かざるへか
らす工業としては醬油及び酒を醸造するものあるのみ水産業は運搬機關の不
備等の爲め未だ十分發展の機運に際會せず集散貨物の主なるものは大豆、棉花、
綿布、紡績糸、米、麥、干鰯、食鹽、明太魚、雜貨等なり府廳、税關、地方裁判所支部、區裁判所、
守備隊、憲兵分隊、警察署、郵便局、監獄分監、居留民團役所、商業會議所、地方金融組合、
公會堂、病院、寺院、農工銀行其他の銀行、會社組合、小學校、普通學校、幼稚園、神社、寺院、
教會等在り

元山里 府内縣面に在り赤田川を境として北方元山市街に接續する朝鮮人町に
して上中下の三里に分れ延長約一里戸數二千二百餘、人口一萬三千五百餘あり
内地人四百餘人居住す此地南は安邊を経て京城街道に通し西德源に至る要路
に當り街路般盛家屋櫛比す集散貨物の重なるものは明太魚、麻布、米、雜穀、海藻、魚

肥生牛雜貨等なり文祿の役加藤清正本營を安邊に兵站部を此地に置きしと云ふ

長徳山 元山市街の背後に在る一丘にして昔時烽燧の所在地たり山上一祠あり金刀比羅を祀る松樹鬱蒼として遠く日本海を望み遙に大小十數の島嶼聳布するを觀る眼を轉して葛麻浦半島を望めは青松白砂相連り眺望絶佳なり

望徳山 府の西北二里半を隔てて海邊に兀立す文祿の役加藤清正一時此山に城きて屯せりと云ふ

徳源 元山を距る西方半里に在り舊郡廳所在地にして高麗の朝一時咸南の首都たりしことあり戸數三百人口千五百あり

第二節 咸興郡

沿革 高句麗の舊地にして久しく女眞の割據する所たり高麗睿宗王二年尹璵に命し女眞を撃て之を逐ひ三年咸州大都護府を置き鎮東軍と號し城を築きて南界(平安道)の丁戸一千九百四十八を徙して其地を實たせしか明年城を撤し地を女眞に還附し後ち元の爲に沒せられ哈蘭府と稱し雙城に隸す恭愍王五年李成

桂に命し攻めて雙城を破り舊疆を復し知州事と爲し尋て萬戶府に改め營を置き兵馬を集めて防戍し十八年陞して牧と爲す李朝太宗王十六年名を咸興と改め陞して觀察使本營と爲し士官を置く成宗王元年降して郡とし士官を罷め觀察使營を永興に移せしか四年の後復舊し建陽の改革に際し府を置きしか其後郡に改め今に至る

郡勢 本道の中部に位し東北は洪原郡に西北は長津郡に西は平安南道寧遠郡に境し西南は定平郡に接し東南は日本海に面す本道の分水嶺は郡の西方平安南道界に峙てる狼林山の附近に起りて北東に逶迤するか故に地勢概して西北に隆起し南東に低下し域内高岳峻嶺少からざるも邑の西南に曠漠たる平原あり所謂咸興の平野にして其廣袤南北約七里東西約五里に涉れり城川江の大流此平野の中央を貫流し幾多の支流縦横に紆曲縫走して灌漑の便に富み地質は概ね沖積の沃土にして農耕に好適し道内第一の米産地たり海岸線は延長十四裡に亘るも屈折少く泊地としては咸興灣東南角の西側に於ける西湖津あるのみ島嶼は西湖津の前面に浮へる大小二島に過ぎず水陸の交通は割合に不便なら

す氣候は南鮮地方に比すれば寒冷なれども元山地方に較ぶれば遙に温暖にして且つ降雪量も亦少し本郡は全州と相竝んで古來人氣惡しき地として知らる蓋し咸興は李朝發祥の地なりとして自ら氣を負ひ他を排せんとするの風あり一般奸諂にして勢擲なり然れども他地方に比し頗る勵精にして且つ貯蓄心に富み殊に婦女子に於て然りとす主なる農産物は米、糯、麥、黍稗にして米は本郡内のみにては自産を以て需用を充たし尙ほ餘裕を有す農産物中移出品として大豆及び小豆あり殊に大豆は品質良好を以て聞ゆ其他麻竝に果樹の栽培に適し咸興梨及び桃は古來本郡の名産たり工藝品に麻布、鋸器あり水産物は鯉、鱒、明太魚、鱈、鯖、海鼠其他魚類及び食鹽とす郡内戸數二萬三千六百餘人口十一萬八千五百あり

咸興邑 別に咸州、咸平、咸山等の名あり郡の中央平地に位置し北は盤龍山を負ひ西北に城川江を控へ西南は廣漠たる平野に望み四周城壁を以て繞らし六箇の樓臺あり城内は咸鏡南道廳を始め各官衙及び之に附屬する建物あり其の規模の偉大なる半島中稀に見る所にして昔時の輪奐を偲はしむ南門を経て萬歲橋

に至るまで商家軒を連ね商人は毎朝來りて店を開き夕に閉ちて歸るを常とし日日顧客店頭に集まりて殷賑を極む其他朝鮮人の家屋は一般に他の都市に比し瓦屋多く且つ宏壯にして民富亦高く巷路の清潔なる他に多く見ざる所なり萬歲橋を渡れば定平草原を経て元山街道となり南門より南に大道を通すれば邑の咽喉たる西湖津に至るべく此間四里餘は輕便鐵道を敷設す其他東門より出れば洪原を経て北青に、北門を出て城川江に沿ひて進めば長津に達すべく實に四通八達の要樞たり邑民は商業農業又は日稼業に従事す戸數二千八百四十四人口一萬二千四百九十餘あり内地人の居住するもの千人に近し咸鏡南道廳、郡廳、守備隊地方裁判所、區裁判所、警察署、郵便局、監獄、慈惠醫院、日本人會、憲兵分隊、病院、地方金融組合、小學校、公立普通學校等在り

西湖津 東溟面に屬し咸興灣を擁する東南角の内側に位し前面に大島及び小島の二島浮へり此二島と沿岸との間は小汽船竝に漁船の泊地にして大船は島外に碇泊せざるを得ず此地本道第一の農産地たる咸興の大平野を控へ附近一帯貨物の吞吐港たり移出品は大小豆、牛皮、麻布、麻繩を主とし移入品は木綿、金巾、食

鹽石油燐寸砂糖酒雜貨等なり成興邑に至る四里餘の間は輕便鐵道を通す元山を距る四十三湮城津と八十四湮を隔て小汽船の往來頻繁なり物産は鯀明太魚其他魚貝類にして民家七百餘内地人百五十餘人あり警察署郵便所巡査駐在所學校組合小學校等在り

樂民樓 成興城の南門に在り城川江に臨み四季の展望絶佳なり附近の和樂亭より成興市街を瞰下し遠く西湖津方面の山陵を望むへく又絶景の所たり樓下に萬歳橋ありて城川江に架す長七百七十米突あり

本宮 成興邑の東南一里半雲田面宮東里に在り李朝太祖の舊邸にして即位の後此所に幸し重修して本宮と稱す苑内古松老柳綠を湛へ中に弓懸松あり太祖自ら植へたるものなりと云ふ宮内には太祖の弓箭冠飾等の遺物あり毎年春秋に祭典を舉行す

慶興殿 邑の東北一里半歸州洞に在り李朝太祖即位以前の邸宅なり殿の東北十町の所に讀書堂あり又附近山間に歸州寺あり共に太祖の修學所なりと云ふ
馳馬臺 邑の東北二十町盤龍山下にありて太祖李成桂尙潜龍の時祭星壇より龍

馬を牽き來りて馳驅したる所なりと傳ふ壇は連浦面に在り太祖の太白星を祭りたる所なり

管境碑 下岐川面に在り新羅眞興王大伽耶を撃ちて境界を定めたる事蹟を刻せる石碑なり

白岳瀑 西元平面千佛山にあり附近峰巒秀異地境幽邃にして石壁削立數百丈泉流瀑下し其聲雷の如し

第三節 北青郡

沿革 本と高句麗の舊地にして久しく女眞の據る處たりしか高麗睿宗王二年尹璿を遣はし女眞を驅逐したりしか其後又元の爲に沒せられ當時三撤と稱せしか恭愍王五年に至り收復し二十一年北青と改稱し州と爲し安撫使を置き萬戸を兼ね李朝太祖青州府と改め太宗王十七年北青と改稱す世宗王九年改めて都護府とし世祖王十二年鎮を設置し兵馬節度副使を置きしか幾もなくして副使を罷め翌年南道節度使を置き本府を以て其本營と爲せしも太皇帝建陽の改革に際し郡と爲し爾來現今に至る

郡勢 本道の中部東邊に位し東は利原郡に、北は端川甲山二郡に、西は洪原郡に隣し東南一帯日本海に面す東南北の三方は山脈縦横し南方に展開し緩傾斜をなして海に落つ河川中部を貫流し流域一帯廣き平野を成し地味肥沃灌漑の便ありて道中主要の米産地たり冬季は寒氣酷烈なれども南部一帯は稍々緩和なり陸路交通は南部地方は割合に便利なるも北方甲山に通するには厚峙嶺の峻険あり海岸新浦及び新昌には定期船の寄港あり沿岸十二津を有し漁獲高三十萬圓に上り大豆の産は道中各郡に冠たり其他麥、生牛、鹽、鐵、砂金を産し有名なる明太魚漁業は本郡沿岸を中心として營まるるものなり郡内戸數二萬六千五百餘人口十四萬二千七百餘あり

北青邑 別名を安北又は青海と稱す郡の中央に位し東方利原邑へ十二里、西方洪原邑へ十一里を隔て本道交通の要路にして且つ甲山、三水地方に於ける物貨移出入の衝に當ると明太魚の特産品あるこのために商取引は頗る活潑なり工業に機械業あるも未だ盛なるに至らず金融は夏秋の候明太魚の賣買盛に行はるる際は一般に圓滑なるも冬季漁期間は逼迫するを例とす住民は農業又は商業

に従事し生計の程度は道中他郡に比し裕なり朝鮮人戸數一千五百餘人口六千三百餘あり内地人二百餘人居住す米穀、木綿、絹織物を産す郡廳、守備隊、憲兵分隊、區裁判所、郵便局、學校組合、地方金融組合、商業會議所、小學校在り

新浦 小陽化面に在り古來明太魚の集散地として名を知られし處にして灣は南面して開き東西兩側には山岳連亘するを以て北及び東西の風を避くるに適すれども南風を凌ぐに足らず汽船の寄港頻繁なり部落は灣の正面に位置し戸數三百人口千三百六十あり産物は明太魚、鮓、其他の魚類、蟹及び和布にして明太魚は年額十二三萬圓を移出す守備隊、警察署、學校組合、郵便所、小學校在り

新昌 下甫青面に在り地形東に面し灣入淺く南大川其中央に流注す防風の利なしと雖も邑との間五里は所謂北青の平野にして農産に富み且つ甲山、惠山鎮に至る關門に當り商業盛にして住民の生計比較的裕なり戸數四百七十七人口二千七百を有し沿岸航行船の寄港地たり産物は米穀、明太魚、其他の魚類、貝類及び海藻なり巡查駐在所在り

老德善院 北青邑の東南にありて白沙李先生を祀る此の人高德の聞へ高く慈仁

の賢士なりしかは村民今に至るも祭祀を絶たすといふ
楊川面土城里 新昌の西北約二里の地なり城趾を存す古へ肅愼の都城なりと傳ふ

第四節 端川郡

沿革 本と吳放金村にして久しく女眞の據る所たり高麗睿宗王二年尹璵女眞を逐ひ築城して福州防禦使を置きしか四年城を撤し地を舉て女眞に歸す後ち暫く元に没せられ禿魯克と號せしか恭愍王に至りて之を收復し辛禡の時端州安撫使に改む李朝太祖七年知州事とし太宗王十三年端川と改め郡と爲し肅宗元年府に陞し鎮を設けしか太皇帝の時府を廢して郡に復し引續き今に至る

郡勢 本道の北部東邊に位し西北一帯は甲山郡に接し西南は利原郡に隣し東北は咸鏡北道の城津吉州兩郡に境し東南方海に面し廣袤東西約十二里南北二十八里あり白頭山郡の北端に聳へ之より分岐する三支脈は郡内に盤延し一は摩天嶺脈となりて吉州城津の界を劃り一は摩雲嶺脈となりて甲山利原の郡界を過り一は頭流山脈となりて前記二支脈の中央を走せ郡邑の北に至りて止む重

なる河川は南大、北大及び福大の三流にして前者は白頭山の西南に發源し甲山郡より本郡に來り山間を縫流して邑の南方を過り中者は白頭山の東南に發源し郡邑の東二里を貫流し後者は源を摩雲嶺山脈中に發し何れも東南流して日本海に注ぐ平地は南大福大二川の流域竝に邑の附近に存在し耕地面積は道内三位に在り主要の農産地にして殊に端川大豆は質の良好を以て名あり沿岸一帯は砂濱にして五箇所の津浦あるも良灣を有せず汝海津は邑より二里を隔て海上靜なる日は沿岸航行汽船の寄港あり陸路は邑より城津、利原、甲山及び汝海津に通ずるものを主とし汝海津に至るものの外は嶺峙ありて交通至便ならず住民の多數は農業に従事し其他商業工業漁業及び製鹽業に従ふものあり女子は多く麻又は紬の紡織に従へり郡内戸數一萬六千四百四十餘、人口八萬七千六百餘あり産物は大豆、粟、蜀黍、麥、米、大麻、牛豚、明太魚、鮭、其他魚類、砂金、金銀、鑛、雲母、玉石等なり

端川邑 別名を福州又は端州と云ふ沿岸の一律汝海津を距る二里に在り其間道路平坦來往繁し城津邑とは約十三里を隔て其間摩天嶺の峻路あるの外は道路

概して平坦なり利原邑には約九里を隔て亦摩雲嶺の峻険あり甲山邑との間三十一里は途上頗る峻険にして交通難澁なり邑民の多數は農業に従事し商業は盛なりと云ふを得ざるも邑内一萬圓以上の資金を有する商人數戸ありて貨物の取引割合に多し工業は勿論手工業にして特記すべきものなし産物は略々郡に同じ戸數八百人口四千あり郡廳憲兵分隊郵便所巡査駐在所地方金融組合公立普通學校等在り

壯士臺 邑西一里道徳山に在り昔時尹璣女眞を討つや此山に登りて將士を餉ひたりと云ふ今尙ほ碑閣を存す

倉津 波道面に屬す端川邑を距る半里其間道路平坦なり西方丘陵を負ひ東方海に面し弓狀を爲す戸數六十人口百三十餘あり明太魚其他の魚類を産す

第五節 永興郡

沿革 高句麗時代長嶺鎮或は唐文又た博平郡と號せし地なり高麗の初め和州と爲し光宗王六年始めて城を築き成宗王十四年和州安邊都護府とし顯宗王九年和州防禦使に改め本營と爲す高宗王の時趙暉卓青州を以て叛して元に附す元

乃ち雙城摠管府を置き之を管したるも恭愍王五年兵を遣はし地を收復して和州牧とし十八年陞して和寧府と爲し府尹少尹判官を置き明年更に土官を置く李朝太祖二年始めて永興と稱し府と爲し太宗王三年降して郡と爲せしか明年府に復し十六年又和州牧とし牧使判官を置き土官を罷む世宗王八年永興大都護府に改め世祖の朝鎮を置き成宗王元年觀察使本營を威興府に移し降して都護府と爲す太皇帝の代郡に改め爾來今日に及ぶ

郡勢 本道の南部に位置し北は定平郡に南は高原文川兩郡に接し西は劔山々脈を以て平安南道の寧遠孟山二郡を劃り東南一帶日本海に臨む西方郡境附近には高嶺峻峯重疊其間狹小なる深谷を刻みて斷崖峭壁を爲すもの多きも東方海岸に接近するや緩傾斜の丘陵となり南東部には高原文川二郡に亘りて稍々廣き平地を現出し農産亦少からざるも河水氾濫被害屢々なるを遺憾とす本道第一の大河なる龍興江は平安黃海二道の界に發源し高原郡の西方を通して本郡に入り郡邑永興の北方に至り河幅擴大し東南に流下し高原郡より來り永興平地を曲流する徳池灘と相合し共同河口を爲して松田灣奥に注ぐ耕地總面積は

七萬二千町歩を超へ其廣さ道中に冠絶し主要の農産地たり海岸線の延長は約四十裡に及び所屬の島嶼亦少からず道路は邑を中心として南北元山咸興に通するを主要なるものとし前者は後者に比し來往困難ならず海路は元山との間航海平易にして商帆船の往來繁し住民の多數は農業に従事し傍ら蠶を養ひ紬を紡織す永興明紬と唱ふるもの之なり其他少數の商業漁業及び製鹽業者あり郡内戸數一萬七千九百餘、人口八萬八千七百餘あり産物は大豆、米、麥、粟、麻、煙草、明紬、食鹽、銻、砂金、黑鉛を主なるものとす

永興 郡の中央龍興江の左岸に位置し元山街道に沿ひ東方一帶平野を控へ陸路元山へ十五里咸興に十四里あり五里浦は邑と五里を隔て同浦より海路四時間にして元山に達すへし寒中氣温は元山に比し平均二度高し市場ありて毎月五十の日を以て開市す集散貨物は米穀、麻布、食鹽、魚類、獸皮、陶磁器、鎗器、雜貨等にして一市平均千五百圓の取引あり市場は頗る殷賑にして道中咸興に次けり邑民は農業又は商業に従事し民度割合に高し朝鮮人七百十戸三千三百餘人、内地人四十餘戸百七十人あり郡廳、守備隊、區裁判所、警察署、郵便局、學校組合、金融組合、興

業會社、小學校、公立普通學校等在り

虎島 本郡の東端古寧郡の地長く南方に延下し末端較や膨大したるもの即ち虎島半島にして遠望恰も離島の如く内に永興灣を擁す其南角附近の海上は漁船航海の一難關たり内地人の居住するもの少からず學校組合を設け小學校を経営す

第六節 甲山郡

沿革 本郡盧川府にして久しく女眞の據る所となり屢々兵火を経て人民の居住するものなし高麗恭讓王三年始めて甲州萬戶府を置き李朝太宗王十三年甲山と改め郡と爲し世宗王十九年鎮を置き節制使を兼ね世祖王七年都護府に陞し仍ほ鎮となす後世鎮を廢し郡に改め今日に至る

郡勢 本道の東北端に位し東は成鏡北道に境し東南は端川郡に、南は北青郡に、西は三水長津兩郡に境し北は鴨綠江によりて滿洲に蔽む東西南の三方山岳重疊起伏し甲山銅店臺地は高さ千三百餘米突の大高原地帯を爲し東方に向て漸く高く遂に絶頂一千八百五十米突の銅店嶺を成し臺地は之より漸次吉州方面に

向ふ此の臺地の一部は鬱蒼たる森林を以て蔽はれ銅店銅山は此臺地中の西部に在り地勢此の如くなるか故に一般に道路險惡にして僅に郡の中央を北流する鴨綠江の上流たる虛川江岸に沿ひて通する北青甲山間三十二里餘の道路は稍々開け交通繁し北方惠山鎮よりは鴨綠江の舟運に倚る便あり住民の多くは農を以て業とし商業鑛業者の數之に亞く冬季は極寒にして各般の作業に困難なり産物の主なるもの銅砂金、粟、麻、蜂蜜等とす郡内朝鮮人戸數一萬三千四百餘人口六萬八千八百餘、内地人四百餘人居住す

甲山邑 北青の北方三十二里餘に位置し其間の交通は他に比し稍々便なるも其他は道路險惡にして來往頗る難澁なり附近に銅鑛あるを以て其名著る邑内内地人の居住するもの四十餘人、朝鮮人千二百餘人あり産物は郡に同じ郡廳憲兵分隊、公立普通學校、地方金融組合在り

甲山銅山 甲山より吉州に通する道路に方り元と支那人の發見したるものにして現今は米國人の經營に屬し鑛脈の大なること朝鮮銅鑛中其比類無く品質も亦良好なるを以て知らる戸數二百五十餘あり銅山の北方雲興而下窟里に於け

る米人ヨーロッパの經營せる砂金採取業は現時不振の状態に在りと云ふ

惠山鎮 鴨綠江の上流に沿ひ甲山より十一里を隔つ土地僻陬交通甚た不便にして氣候亦本道中最も寒烈にして半島中物價最高の地とす附近森林よりは良材を出し此地より鴨綠江に倚り新義州方面に流筏す邑民の多くは農業に従事し商業を副とす邑内内地人朝鮮人清國人合せて七百餘人あり産物の重なるものは粟、材木、生牛とす憲兵分隊、營林廠出張所、學校組合、小學校等在り

第七節 洪原郡

沿革 古へ洪肯又は洪獻と稱せし地にして高麗末葉に至り始めて縣を置く李朝太祖今の名に改め咸興府に隸す太宗王縣令を置きしか幾もなくして又之を罷め世宗王縣監を置き肅宗王の時討捕使を兼ねしめしか明治二十七年郡と爲し今日に及ぶ

郡勢 本道の中部に位し西南は咸興郡に、東北は北青郡に接し西北は長津郡に連り東南海に瀕す沿海一帯の地は傾斜緩にして平地少からざるも其他は山嶽丘陵參差起伏し殊に西北部は峻嶺重疊し村落其間に點在す北方北青に通する街

道には大門嶺及び道衣嶺等の峻峙あり南方咸興街道には咸關嶺の峻阪あり其他陸路交通は一般に困難なるも沿岸前津には汽船の寄港ありて北鮮及び元山釜山等の交通は比較的便なり寒暑の差著しく夏季最高温度九十度にして冬季は川流總て氷結し氷上車馬の往來自由なり洪原邑の北東浦項川流域の地及び龍源面一帶の地竝に邑の西方西大川に沿ふ平地は地味大概肥沃にして沿海地方土質之に次ぎ其他は概ね瘠悪なりとす人情淳朴にして従順なるも沿海地方の人民は頑慢浮薄の風あり住民は主として農業に従ひ婦女は麻布を織り沿海は漁業に従事するもの多し生活の程度低く燕麥、馬鈴薯等を主食物とするも漁民は生計稍々裕にして米、粟、稷等を混食す郡内戸數一萬二千五百餘人口六萬千餘あり産物中著名なるは明太魚にして一年の漁獲高三十萬圓なり其他大豆、鯖、鱈等の魚類生牛及び麻布にして又黒鉛鑛あり米粟其他雜穀は釜山方面より年々多額を移入す

洪原邑 邑は前津を距る西北十五町に在りて北方北青へ十一里、南方咸興へ十二里を隔て海陸の要地を占む門内には商家少きも門外は商店櫛比し商況見るへ

きものあり商品は棉花綿布、麻布、石油、燐寸、薪炭、明太魚、穀類、生牛等とす金融は漁業季節と其以外とにより緩急の差甚し市場取引高は年額七萬圓以上なり邑民は農業者を最多とし商業者之に次ぎ朝鮮人六百四十戸三千百五十人内地人二十餘戸八十餘人あり郡廳、警察署、郵便局、地方金融組合、公立普通學校等在り

前津 邑を距る東方約十五町の地に在る一津にして附近に沃野を控ふ戸數三百餘人口千二百餘あり灣入淺しと雖も北及び南に丘陵を環らし東南灣口に竹島横はるを以て防風に便す一小波止場を設け漁船八十隻を繋ぐに足る近海明太魚の好漁場なるを以て漁業根據地として重要の一津たり毎年冬季には各地方より漁業者及び商人來集し頗る殷盛なり此地鹽田少からす一年の製鹽高二十五六萬斤に及ぶ輸出品の重なるものは明太魚、鹽、大豆なり巡查駐在所在り

馬養島 咸南第一の大島にして周圍約五里半あり北岸は屈曲多く良灣ありて捕鯨會社の根據地たり耕地四百十町歩ありて悉く畑地なり農家牛を飼ふもの多く生牛を輸出す明太魚の一漁場たり

咸關嶺 邑の西方三里咸興郡界に在る一嶺にし崎嶇たる峻阪なり恭愍王の時李

成桂元將納哈出を撃破せし古戰場なり

靈公臺 李朝太祖の駐蹕地なるを以て令公臺とも云ふ附近に太祖の手植松と傳ふるものあり

穿島 前津の海邊に位置する一丘陵に洞穴あり高さ十間幅約八間東西に相通す其狀海中の架橋に似たり海波之より陸上に湧出す故に此名あり里人多く遊賞す日出の景頗る佳なり

第八節 安邊郡

沿革 高句麗の比列忽郡一名淺城の地たり新羅眞興王七年比列州と爲し軍主を置く景德王朔庭郡と改め高麗朝に至り登州と稱す成宗王十四年團練使を置き顯宗王九年登州安邊郡護府に改む其後蒙古の來侵に因り民江陵道襄州に移寓し後ち再び杆城に移りしか忠烈王二十四年に至り各々本地に還れり李朝太宗王三年降して監務とし明年復た都護府と爲し世祖の朝鎮を置き成宗王二年大都護府に陞し中宗王の時都護府に改め建陽の改革に際し郡と爲し現今に及ぶ

郡勢

本道の南端に位し北は元山府及び文川郡に隣し西北は平安南道に、西南一帶江原道に接壤し東北は海に面す廣袤東西約十二里南北九里半あり郡の西南部は脊梁山脈錯綜し頗る險峻なるも沿海附近は比較的緩傾斜を爲し又中央を貫流する浪城江の沿岸には南北三里餘東西一里半に亘る平地あり數條の河川其間を流れ道中屈指の農産地たり郡内全耕地面積は一萬三千二百餘町歩にして内水田は二千七百町歩なり海岸線は短く沿岸總て砂濱なるかため漁津の外港灣と稱すべきものなし京元街道平地の西側を縦貫し江陵街道其の中央を横斷し元山との間交通不便ならず旅客の來往繁きも其他の道路は嶮惡なり海路に倚らんには元山に出てさるへからす住民は農を以て生業とし最近柞蠶を飼育するものを見る漁業に従事するものは極めて少數なり郡内戸數一萬三百餘人口四萬七千四百餘あり農産物は米、粟、蜀黍、麥、麻、果實、野菜等にして就中大豆の産多し畜産に生牛あり鑛産物は銅及び砂金とす

安邊邑

安邊平野の南端南大川の沿岸に位し河口を距る約三里なり元山より江原道の海岸に通ずる重要道路の衝にして元山へ五里を距て其間交通不便なら

す気温は元山に比し平均一度の高温なり邑民は農業又は商業に従事す移出品の重なるものは金、大豆、小豆、木材、薪炭にして移入品は木綿、金巾、石油、鹽、燐寸、砂糖、煙草等なり郡廳、憲兵分遣所、郵便所、巡查駐在所、地方金融組合、公立普通學校在り

釋王寺 文、山、面、雪、峯、山に在る臨濟宗の古刹にして今より五百二十年前李朝太祖李成桂浪城僉使たりし時吉州の千佛寺より五百羅漢を此山に移し本寺を建設したるものなりと云ふ境内東西南北一里餘あり寺は六重の大伽藍にして他に數多の寺庵あり地境幽靜山水の景頗る雅趣に富み探勝の客常に絶へず

第九節 定平郡

沿革 古の巴只又は宣威の地にして高麗成宗王二年萬戶府を置き靖宗王七年始めて城堡を築き關門を置き定州防禦使と爲す高宗王の時元に没す恭愍王五年兵を遣して其地を收復し都護府と爲し李朝の初め之に因りしか太宗王十三年平安道定州と同名なるの故を以て定平と改稱し後ち郡に改め今に至る

郡勢 本道の南部に位置し東北は威興郡に、西北は脊梁山脈を以て平安南道の寧遠郡に境し南は永興郡に隣し東方一帯日本海に瀕す郡の西方は高岳峻峰連綿

として甚だ嶮阻なれども東方に至るに従ひ漸く低く沿海地方は所々に低丘あるの外平地連續して威興の平野に連る金津江は源を脊梁山脈に發し南東流して威興灣の南隅に注ぎ流域は狹長なる平地を成し開拓行届けり耕地總反別は約九千七百町歩なるも其内水田は二千八百町歩に過ぎず陸路は北威興に、南永興に通するものを主とし前者は較々平夷なるも後者は坂路多く交通便利ならず沿岸適當の港灣なきを以て海路に倚らんには威興郡西湖津に出でざるへからず住民は農業に従事するもの最も多く沿岸地方に於ては漁撈又は製鹽業に従ふもの少からず郡内戸數八千九百三十餘、人口四萬四千四百餘あり農産物の主要なるものは米、大豆、小豆、麥、粟にして畜牛の産亦少からず水産物には鱧、鱈、鱈及ひ食鹽あり鑛産は砂金を主とし又金鑛を出す

定平邑 府内面に屬す元山街道に沿ひ其間二十里を隔つ北方威興邑に通する道路は比較的平易なるも南方永興邑に達するものは嶮惡なり市場ありて毎月一、六日を以て開市し一市の取引高七、八百圓あり邑民は農業又は商業に従事し生計裕ならざるもの多し内地人三十餘人居住す産物は米、穀、生牛を主とす郡廳郵

便所、巡査駐在所、公立普通學校在り。邑の西南二里に位置する草原附近一帯の溪谷は砂金の産地として知られ、又邑東半里の蓮峯山には金坑あり。

第十節 三水郡

沿革 本と甲山郡三水堡の所屬たり。李朝世宗王二十三年萬戸を置き、以て賊路を扼す。二十八年一ひ三水郡を置きし。か魯山君二年郡を罷め、再び萬戸を置き、世祖王七年郡に復し、翌年都護府とし、十年復た郡と爲し、爾來今日に至る。

郡勢 本郡は本道の北邊に位置し、東南及び西南は甲山長津二郡を以て包まれ、西に乏しく、耕地は谿間又は山腹を燒きて開拓したる火田、其大部を占む而して、奇峰峻嶺各所に峙ち、大江其間を縫流する。か故に北部山勢江に迫る處は深く、地を削りて斷崖となり、水淀みて潭を爲し、江流地を遶る邊は、遠く洲を積み、堆を成して平地を餘し、江岸の村落は多く、此平地に在り、郡内耕地六千町歩を越ゆるも、殆んど畑地にして、水田は北境江岸新坡嶺附近に於て之を見るのみにて、其反別五町歩を出てさるへく、江岸地方は對岸清國領に比し、平地多く割合に克く開

墾せらるる山は多く鬱蒼たる森林を以て蔽はれ、盛に車軸、薪炭材料、丸太等を出す。道路は郡内を縦行する二條の舊道と江岸を横貫する一條の新道とを主なるものとし、何れも嶮阪多く來往不便なり。交通運輸機關は南部は重に牛馬背にして北部の地は苦力及び牛の曳ける楡なりとす。住民は農業、運搬業又は狩獵に従事し、生計状態は自耕自食にして、經濟上餘裕あるもの尠し。郡内戸數五千九百餘、人口三萬七百餘あり。物産は大麥、小麥、燕麥、豆類、粟、玉蜀黍、蕎麥、麻、馬鈴薯、蜂蜜、牛、馬、豚、毛皮及び銅、砂金等なり。

三水邑 邑面に在り、甲山郡内鴨綠江岸惠山鎮を距る七里、鎮より甲山邑には十一里を隔て、其間道路稍々良好なるも、其他の通路は一般に來往難澁なり。貨物は安東縣、新義州方面より鴨綠江を溯行して來るものと北青より甲山を経て來るものとありて、物價頗る高し。邑民は農業又は運搬業に従事し、商業と稱するも多くは、今尙ほ物々交換を爲すに過ぎず。生計の度一般に低劣なり。邑内内地人四戸十五人、朝鮮人二十戸九十餘人あり。物産は略々郡の農産物に同じ。郡廳、憲兵分遣所、郵便所在り。

新製波鏡 惠山鏡の下流十六里、鴨綠江岸に位し民家三十餘あり長津江口を扼して水路の交衝に當り舟筏の寄航地にして總督府營林廠出張所あり此地の上流四里に羅暖堡あり人家三十亦江岸の一要地たり

第十一節 長津郡

沿革 本と甲山郡三水堡の所管たり李朝世宗王の時甲山郡を割て三水郡を置くや本郡の地は即ち三水郡の所屬たり太皇帝建陽年間の改革に際し割て本郡を設置し以て今日に至る

郡勢 本道の西北部に位し東は甲山郡に、東北は三水郡に、東南は洪原郡に、南は咸興郡に接し西南は平安道寧遠郡に西は平安北道江界郡に、西北は同道厚昌郡に境す北に芻鷹嶺、西に牙得嶺及び狼林山、南に鐵嶺及び黃草嶺の諸山脈ありて重疊交錯し東方には雪嶺山脈磐延して四周高峰峻嶺を以て鎖され餘脉郡内に起伏して殆んど平野を見ず長津江、虛川江の二川あるも山間の溪流に過ぎずして耕地は沿岸又は谿間に點在し總段別四百町歩に達せず水田は殆んど全く之を見るを得ず地勢此の如きを以て道路極めて峻惡にして交通頗る難澁なり河

流には舟楫の便あるものなし住民は農業の傍ら採薪に従事するも一年の半は寒氣強きか爲め勞役に従ふことを得ず生活状態は極めて低劣單純なるも生業に乏しく産物寡少なるかため生計困難なるもの少からす戸數五千八百餘、人口三萬一千二百あり産物は大小豆、粟、稗、黍、玉蜀黍、煙草、大麻、朝鮮酒、蜂蜜、毛皮、金、砂金等なり

長津邑 邑面に屬し咸興の北三十六里に在り山間僻陬交通不便の小邑にして戸數約百四十人口八百に過ぎず邑民は農業を主とし間々小規模の商業を營むものあり生計状態一般に裕ならず産物は穀類、煙草、大麻、毛皮なり郡廳憲兵分隊警察署郵便局、普通學校在り

第十二節 利原郡

沿革 往古時利と稱し高麗朝福州(端川)に屬せしか李朝世宗王十八年端川郡摩雲嶺以南及び北青府東甫社以北の地を割て縣を置き利城と稱し其後郡と爲し利原と改め今日に至る

郡勢 本郡は本道の東部海岸に位置し東北は端川郡に、西南は北青郡に接し東南

一帯日本海に面し海岸線の延長二十哩に亘る山脈は概ね西北より東南に走せて海に沈み所々に高峰屹立するものあるも郡の略々中央南大川の兩岸は較々廣き平地を成し又同川の北側一帯は緩傾斜をなして高原を形成す此等の平地は即ち利原の平野と稱するものにして總反別六千二百町歩を越ゆ山岳の名あるものは端川郡界にある摩雲嶺及び端川城津の界に峙てる摩天嶺にして共に沿道の關嶺たり其他北青郡界に鷹岬及び不夢嶺等あり河川は郡の中央を貫流する南大川ありて灌溉に利するの外何れも溪流に過ぎず沿岸は曲折少からずして利原泊地竝に遮湖の二者最も廣大にして船舶の出入繫泊に適せり島嶼は數箇あるも金椒島を除くの外は總て無人島なり道路は南北青に北端川に通ずるものを主とし前者は稍々平夷なるも後者は嶮惡にして其他陸路交通は概して不便なり住民の大部分は農を以て生業とし沿岸地方にありては漁業又は製鹽業に従事し又少數の商業者あり郡内戸數五千二百餘人口二萬八千三百餘あり物産は大豆、麥、米、大麻、生牛、明太魚、鱈其他の魚類、鹽及び鐵鑛なり

利原邑 郡の中央を流るる南大川の右岸に在りて海岸を距る半里餘なり北東端

川邑に至る十里の間摩雲嶺の嶮あり西南北青邑に至る六里弱更に成興邑に二十里にして遂し其間路上稍々良好なり邑の東方約一里の君仙と稱する一漁村は汽船の繫泊に適し毎月沿岸航行船の寄港するものあり市場ありて取引高毎月八百圓を超過す邑民は農業又は商業に従事す産物は略々郡に同じ郡廳郵便所巡査駐在所地方金融組合等在り

遮湖 南面に屬す道中屈指の港灣にして汽船の寄港地たり水深五六尋乃至十尋ありて峰巒圍繞し西方の風浪を避くるに適す明太魚を多産す灣を形成する岬角の北方に楡津あり亦繫船に適す明太魚、海鼠等を産す

第十三節 文川郡

沿革 本と妹城と稱し高麗成宗王八年城を築き文州防禦使と爲し後ち宣州(元山府)に合せしか忠穆王元年又分ちて州とす李朝太宗王十三年今の名に改め郡と爲し爾來引續き現今に至る

郡勢 本道の南部に位置する道内の最小郡なり北は龍興江及び其支流を以て高原永興二郡と劃り西は頭流山脈を以て安邊郡竝に平安南道の陽徳郡と境し南

は元山府に隣し東は松田灣に臨みて永興郡の沿岸と相對す郡の西方平安道界に連亘せる頭流山の支脈は東方に走りて郡内に蜿蜒するも北方高原永興兩郡に接する部分は稍々廣き平地を爲し永興平野の一部を形成し地勢大體に於て西南より東北に傾斜す河川に箭灘院岐の二條あるも共に細流にして舟運の利なし海岸線は延長三十餘裡にして其一部東方に延びて半島形を成し永興郡の虎島半島と相俟て松田灣口を扼す沿岸には鹽田多く主要の製鹽地たり道路の主要なるものは北高原郡を経て永興に、南元山に通する二條にして割合に坂路なく交通頗る頻繁なり水路は龍興江により海路に通し貨物の運輸に資せり住民の生業は農業、漁業、鹽業又は商業とす郡内戸數四千四百餘、人口二萬二千七百餘あり産物は米其他雜穀生牛、食鹽、牡蠣、鱈、鱈其他の魚類及び鐵なり。

文川邑 別名を妹城又た文州と云ふ郡の南方郡内面に在り元山に約六里、高原邑に五里餘を隔て旅客の來往頻繁なり戸數二百人口八百餘あり米穀畜牛を産す郡廳郵便所巡查駐在所地方金融組合、公立普通學校在り

王妃陵 草園面に在り貞淑王崔氏の陵にして堂宇及び碑石は光武五年の建設に

係り境内周圍八十町歩ありて樹木の伐採を禁す毎秋祭典を行へり

第十四節 高原郡

沿革 古へ德寧鎮の所領たり高麗朝光宗王始めて盤龍山下に城き洪原郡と稱し成宗王改めて高原と名け防禦使を置く顯宗の時治所を現今の邑に移し恭愍王の代防禦使を廢して知州事とし李朝太宗王高原郡と改稱す明治三十七年露軍の兵燹に罹り郡衙烏有に歸す爾後舊郡廳を以て之に充て今日に至る

郡勢 本郡は本道の南部に位置し道内の最小郡たり東北は永興郡に接し南は文川郡に隣し西は麒麟嶺の嶮を以て平安南道陽德郡に境す地勢西北一帯は山脈重疊して高峰峻嶺相連り東南方に至るに従ひ漸く展開して平坦となる陸路の交通は咸元街道以外は殆んど困難なれども德池江には舟楫の便ありて元山に通す住民は農を業として生計を維持し山間僻陬の地に住するものは土地硤确なると霜雹被害とのために毎年飢饉に逼るものあるを見る民情稍々狡獪の風を帯ひ勤勉なるもの少し戸數四千九百餘、人口二萬五千あり産物には米、粟、稷等あるも郡内の消費量を満たすに足らず移出品は大豆及び鮭とす

高原邑 郡の東部に位し北永興邑に四里半、南文川邑に五里、西平安南道陽徳邑に十五里を隔つ咸元街道は辛ふして車を通するも其他の交通は困難なり邑を距る約二十町の徳池江は舟楫の利ありて元山間を往復し物資の移出入は殆んど此水運に倚る邑民の多数は農業に従事し少數の商業者あり性懶惰にして日々の生計に逐はるるもの少からず開市日の取引高は一回四五百圓にして貨物の重なるものは木綿、金巾、大豆、生牛、石油、薪炭、雜貨なり金利は頗る高し朝鮮人三百戸千三百八十人、内地人十六戸四十人あり郡廳、憲兵分隊、郵便所、公立普通學校、各教布教所等在り

梁泉寺 邑の西方約一里盤龍山の麓に在り境内萬歳樓あり今頽廢せるも當時輪奐の美を偲ふに足る清泉岩石の間より湧出し郡内唯一の遊覽所たり

隘守地 郡内山谷面に在り山嶽の間に介在する城址なり周回千五百餘尺高さ五尺あり古昔德寧鎮と稱するもの是なりと云ふ高句麗の鎮將姜民瞻が契丹の兵と戦ひて之を破りたる戦勝の故址なりと傳ふ

第四十九章 咸鏡北道

沿革 本道は咸鏡南道と共に往古沃沮の地たり漢朝鮮を領して四郡を置くや又南道と共に玄菟郡たり後高句麗の領地と成り新羅を経て高麗に及び成宗王半島を分ちて十道と爲すや本道は即ち朔方道に屬す靖宗王東界と改め文宗王東北面と稱す其後久しく女眞の割據地となり睿宗王の時女眞を逐ふ高宗王以後は久しく元の所領に歸し恭愍王の時元より之を略收したるも本道の北部は未だ高麗の治下に浴するを得ざりしか李朝太祖の代に至り始めて地を拓き豆滿江岸に及ぶや本道の地は孔鏡、吉三州の所屬たり太宗王の時永吉道に屬し數年にして咸吉道と改稱し世宗王の朝會寧、鍾城、穩城、慶興の四邑を置き成宗王の時永安道と爲り中宗王に至り咸鏡道と改名し太皇帝各道を廢して二十三府を置くや本道の地は鏡城府の所管たりしか翌年府を廢止し十道を分置するに際り始めて咸鏡北道と名け首府を鏡城に定む日韓併合後尙ほ舊に因り道廳を鏡城に置き現に一府十郡百二十二面を管す

位置廣袤 朝鮮の東北隅に位する一道にして北東及び北は白頭山脈の一部並に豆滿江により清國間島及び露領烏蘇里州に境し西南は咸鏡南道に接し東南一帯日本海に面す廣袤約一千七百六十方里あり

地勢 主山脈は西北方白頭山に起りて南東に走り南雲嶺、摩天嶺等の高峻となりて咸鏡南道との界を成し餘脈道内に連亘し地形西北部に高く東方に傾斜するが故に河川は皆東方に向て流下す概して平野に乏しきも又吉州、輪城、會寧等の耕野なきに非ず海岸線延長二百三十五哩ありて出入少く島嶼亦多からず氣候は寒暑共に烈しきも地形東南方海洋に向て低下するかため同緯度の西鮮地方に比し寒暑孰れも緩かなり降雪は北西の山地に於ては五尺以上に及ぶものありも東南方は尺餘に及ぶこと少し

交通 羅南、清津間及び會寧間には輕便鐵道あり又近年羅南、清津間、羅南、鏡城間並に茂山嶺間の道路改修成れるを以て此等の地方の陸路交通は便利なるも其他の道路は廣狹一ならず且つ急阪多くして交通一般に不便なり然れども水路には大阪、下關、元山を基點とする命令航路ありて城津、明川、漁大津、獨津、清津、梨津、雄

基等の重なる港邑と連絡し運輸交通共に比較的便利なり

住民 北鮮の民は古來慓悍を以て知らるゝ雖も割合に禮讓を知り且つ比較的勤儉なり官尊の風は他道に比し特に篤きか如し常食は多く米以外の雜穀にして生活の程度低し住民の密度は半島中最も稀薄にして管内朝鮮人戸數七萬八千二百餘、人口四十三萬四千餘、内地人四千餘戸、七千百餘人、外國人六百十餘人あり

産業 道内平地少く冬季寒氣酷烈なるを以て農産に乏しく稻米は到底道民の食料を充たすに足らず農家は毎戸殆んど牛を飼養せざるものなく農耕の傍ら之か繁殖を計り露領沿海州へ輸出する頭數は平均一年一萬頭、價格五十萬圓に達す此等畜牛は他道の産に比し體格偉大にして性最も温良なり

清津の輸出入貿易は年額約六十四萬圓にして瑣春其他對清貿易額は三十萬圓を超過す

工業は農業の副業たる麻織の外記すべきものなく製材業あるも地方の需用を充たすに止まり北鮮地方の特産物たる北黃紙は近來復興の氣運に向へり

北鮮沿海一帯は魚類豊富なり其最も多きは鱒にして往々六十哩の長きに亘り

て群遊することあり又明太魚は咸鏡道の特産にして其額莫大なり豆滿江の鮭
 漁亦頗る盛にして一年の漁獲百萬尾に及ぶことあり
 礦物は砂金を主とし最近石炭の産出漸く多し

物産 雜穀、牛、麻布、鮮明太魚、鱈、鱈、鰯、其他魚類及海草、石炭、砂金、石灰石、硯石等なり

第一節 清津府

沿革 本府は元との富寧郡にして明治四十三年日韓併合の際同郡を廢して清津
 府を置き舊郡領全部を管轄せしむるに至れるものなり富寧郡は本と鏡城郡内
 の石幕と稱せし地なり李朝世宗王の時東良北女眞と往來の要路に當るを以て
 寧北鎮を置き節度使を駐し鏡城郡事を兼ねしめしか後ち鎮を石幕に遷し土官
 千戸をして守らしめ尋て民戸をも石幕に移し富寧と名けて都護府と爲し尙ほ
 土官を置きしか後世郡に改め明治四十三年十月一日を以て府と爲し府尹を置
 きて之を管轄せしめ今に至る

郡勢 本府は本道の中部東邊に位し北は會寧郡に南は鏡城郡に西は茂山郡に隣
 し東方一帯日本海に面す郡内山峻起伏し其間廣漠たる平野を有するも耕地割

合に少く殊に比年水害を被むるかため田圃は多く山麓にありて灌漑の利なし
 沿海は屈折多く清津の如き良港を有す輕便鐵道は清津より輸城に至り富寧川
 に沿ひ北行して富寧に至り更に會寧に達す延長六十哩あり貨物の幾部は此便
 に依るも多くは牛馬車にて輸送す府内朝鮮人戸數四千二百、人口二萬餘、内地人
 二千二百人あり農産物は麥、大豆、粟、稷にして米は極めて少し水産物には明太魚、
 鱈、鰯等あり

清津港 府内青下面に在りて清津灣澳に位置す港は南方水南の岬角と北方高扶
 山の突角とを以て一大灣を成す東方五十哩にして露領沿海州に北約三十里に
 して清國吉林省間島に至る内地青森と畧々同一緯度に在るも氣候は大陸的に
 して寒暑共に強く冬季は河流悉く氷結し水上人馬の交通自由なり然れども港
 内は凍結を見す且つ水深十尋以上に及へるを以て艦船の碇泊に便なり此地日
 露戦争當時は朝鮮人戸數二百に満たさる一漁村なりしか戰役後逐年内地人の
 渡來者を増し明治四十年九月城津理事廳支廳を置き同年十二月清津理事廳を
 開設し翌年四月通商港として開放せられたるものにして市街は谿谷海岸又は

山腹を開鑿して之に充つ貿易の趨勢は年々隆盛を加へ四十三年中の貿易額は百四萬圓なり移入貨物は内地品大部分を占め其約半部は間島方面に輸送せられ半部は咸鏡北道地方の需要を充たせり産物は麻布、生牛、砂金、石炭、銅、粟、大豆、其他の雜穀、明太魚、鱈、鱧、蟹等にして輸出品は麻布、大豆、水産物、生牛を主とし輸入品の重なるものは綿布、燐寸、砂糖、煙草、食鹽、醬油、石油等なり内地人六百六十餘戸二千百餘人あり朝鮮人は別に青山洞及び新岩洞に新部落を成せり府廳、區裁判所、地方裁判所、支部、郵便局、警察署、稅關支署、陸軍運輸部出張所、陸軍倉庫出張所、守備隊、保線隊、衛戍院、分院、憲兵分遣所、監獄分監、露國副領事館、日本人會、商業會議所、小學校、公立普通學校、教會堂等在り

富寧 府の中央に在り元と富寧郡廳所在地にして北は會寧に、南は鏡城を経て清津に通ずる輕便鐵道あり北陵交通の衝に常り憲兵分隊、郵便所、巡查駐在所在り

第二節 鏡城郡

沿革 往古弓籠耳と號す沃沮及び女眞族の割據地たり高麗睿宗王尹瓘等を遣はし女眞を逐ひて此地に城く其後久しく元の爲に沒せられしも恭愍王に至り回

收す李朝太祖始めて鏡城と名け萬戸を置き恭靖王郡と爲し兵馬使をして郡事を兼ねしむ其後太宗、世宗、世祖の代各官名に變更ありしも要するに武官をして文官の事を兼掌せしめたり明治二十八年に至り觀察使と爲し咸鏡北道觀察道を置きしか四十三年日韓併合の際咸鏡北道廳と改め道長官を置きて今に及ぶ

郡勢 本道の中央に位し北は清津府に、東は茂山郡に、南は明川郡に、接し東は日本海に、濱す西方に長白山高く聳り幾多の支脈之より起りて郡内に連亘し平野其間に散在し河川は平野を貫流して總て東注す土地概して瘠薄にして砂礫多く且つ水田に乏し鏡城、羅南間は馬車の往返あり又羅南より清津及び會寧に到る間に輕便手押式の軌道を通し沿岸獨津には定期船の寄港するあり此等水陸兩路を除く外は一般に交通不便にして總て馬背に倚らざるを得ず晚春より初夏に亘りて海上濃霧多く航海を阻止すること屢々なり住民は比較的淳朴にして農を業とし沿海地方は漁業を營むもの少からず一般に粟其他の雜穀を常食とし生活の程度頗る低く近年凶作連續したるかため細民の生計困憊を極め間島又は露領地方に移住する者頻々たり郡内朝鮮人戸數一萬七千餘人口九萬六千

六百餘、内地人三千二百人あり、産物は粟、稗、大豆、麥、鹽、魚類、和布、石炭、銅、鐵等にして、移出品は大豆、明太魚及び和布なり。

鏡城邑 別に雉城、鑑湖、柳城等の名あり、郡の北東、梧村面に在り、南に鏡城川を控へ、北に勝巖山を負ひ、地形西に逼り、東に開き、恰も三角形を成せる平地の中間に位置す、気温は一年間の平均攝氏五度九分にして、冬季は降雪尺餘に及ぶも、風少きかため、寒氣比較的緩和なり、市街は城壁を以て包まる、城内地積約六萬坪あり、今を距る三百年前の築造に係り、前後五年に涉りて竣成せるものにして、時の北道兵馬節度使金景瑞及び李守一の二人相繼て造營したるものなり、南北凡そ百六十間、東西凡そ四百間、周圍約十九町の長方形を成し、四大門及び七砲樓あり、外周繞らすに溝を以てす、現に荒廢落莫たるも、南門の層樓は畫棟彩柱、今尚ほ昔日の偉を存し、成北二百餘鎮の統帥たる兵馬節度使の全盛時代を偲ふに足る、市街は城の内外に連なり、城内は官公衙學校等を主とし、商家は南門外を中心とし、西門外は多く官吏兩班の住する所たり、商業盛んにして、獨津に移入する貨物の半部は此地にて消費せられ、成北第一の鮮人都會たり、四門より各方に通ずる街道あり。

り、東門よりするものは獨津に至るべく、西門よりは生氣嶺を経て明川に通し、南門の通路は漁大津の漁村に至り、北門の道路は羅南に通す、尚ほ羅南間には馬車及び輕便鐵道の便ありて、更に會寧に達す、邑内朝鮮人は概して淳朴にして、農又は商業に従事し、勞働に従ふ者亦少からず、殊に少女にして内地人に備はるるもの多きは、他の地方に其例少なきところにして、露語の轉化したる言語の混するもの少からざる亦異とするに足る、朝鮮人八百十餘戸、五千六百六十餘人、内地人二百三十餘戸、六百三十餘人あり、特産品なく、耕作物は大小豆、麥、煙草、馬鈴薯等とす、成鏡北道廳、郡廳、區裁判所、慈惠醫院、警察署、郵便局、憲兵隊本部、日本人會、支金庫、農工銀行出張所、地方金融組合、小學校、公立普通學校、實業補習學校等在り。

勝巖山 邑の西北に屹立せる巖山にして、登臨すれば鏡城市街を足下に瞰下し、左方に洋茫たる鏡城灣を望み、頗る眺望に富めり。

嶺北社 邑の西門を距る三町勝巖山下に在る一祠にして、尹璣を祀れり。

元帥臺 城南約一里、獨津港に於ける丘巖と對立せる巖上に、碑石あり、元帥臺の三字を刻す、亦尹璣の古蹟たり、鏡城川の河口に位置し、渺茫たる青海を控へ、眺望絶

住なり

觀海寺 城の西方約一里を隔つる山の中腹に在り春季散策に適し秋は紅葉を以て名あり

天賜園 明治四十二年韓國皇帝國內巡狩の際の下賜金に依り開設したる紀念園にして邑城を距る二町勝巖山の北面一帯の傾斜地なり各種の花樹を植ゆ

獨津 鏡城灣の稍々北方に偏したる所に位し鏡城邑の東方二十餘町清津港には北方約九裡を隔つ水淺くして巨船を入るに足らず避風に便せず而も暗礁散在するかため大船は港外一裡以上の處に假泊するを以て風烈しきとき貨客の昇降積卸には頗る不便なり然れども鏡城を距ること近く釜山雄基線及び元山雄基線の寄港地たるかため商船の出入常に絶えず邑内戸數百餘人口四百餘内地人二十餘人あり明太魚、鱈等の移出せらるるもの多し巡查駐在所在り

羅南 鏡城邑の北一里餘清津の西南約四里に在る一平地に位置し東南西の三面は丘陵に圍まれ東北の一角よりして咸北の大野たる輪城平野に通ず兵營の所在にして西部丘地の半を軍用地に充て南方羅赤嶺に偏して鏡城より清津及

ひ會寧に通ずる輕便鐵道線路に沿ひ市街地を設く農業として見るべきものなく唯多數内地人の來住に伴ふ商業の發達あるのみ道路衛生通信等の設備略々整へり内地人八百餘戸二千四百五十餘人あり憲兵分隊、學校組合、小學校等あり朝鮮人は別に新興洞と稱する一部落を開き多數集合居住す

方魚津 郡内漁郎面に在り沿岸は平砂にして水深二尋乃至五尋あり附近に廣き平野を有す人家五十餘戸あり

漁大津 漁郎面に在りて方魚津の南方一里半に位す漁郎端北東に突出して一小灣を成す灣口北に面し西岸は平砂にして淺淺なり水深三尋乃至五尋沿岸定期船の寄港地たり民家六十ありて明太魚、鱈等を産す

生氣嶺 鏡城邑を距る西南約三里明川街道に沿ふ石炭坑ありて内地人の經營に係り鑛區四十萬坪炭質良好其量亦豊富なりと云ふ巡查駐在所在り

第三節 吉州郡

沿革 本と高句麗の地にして久しく女眞の據る所と爲る高麗睿宗王二年尹瓘等に命し兵十七萬を率ゐりて女眞を逐ひ地界を定め東は火串嶺に北は弓漢嶺に

西は蒙羅骨嶺に至る間を以て疆と爲し弓漢村に築城して吉州と稱す三年防禦使を置き六年中城を築きしか尋て又女眞に歸し後ち元に没せられ海洋と號す恭愍王の時其地を收復し恭讓王二年吉州を置き李朝太祖七年收とし世祖王十三年叛亂せしか忽にして討平す睿宗元年降して縣と爲し吉城と改め北方永平等の地を割て別に明川縣を置きしか中宗王七年明川縣を罷め同時に州に陞し牧使判官を置きしも明年明川縣を復置し判官を罷む其後防禦使を置きしことあるも暫くにして又廢し近世郡と爲す

郡勢 本道の南部に位置し北は長白山脈に劃られて茂山郡に隣し南は城津郡に接し西は摩天嶺山脈によりて成鏡南道端川郡に境し東方僅に海に面す郡の西方半部は山嶽重疊するも東部は平原を成し所々に山陵の起伏あるのみ地勢概して西方に高峻にして東方海に向て傾斜す地味肥厚ならざるも耕地總反別は一萬六千町歩を超む其廣さ本道各郡に冠絶し地味概して肥沃にして道内重要な穀類産地たり殊に大豆を多産す沿岸は平沙にして彎入を有せず前面には洋島及び卵島の二島嶼あり住民の大多數は農を生業とするも農作は自然の豊凶

に任す邑民の外は商業を營むものなし麻布の製織は各面に於て行はれ沿海地方の民は漁業に従事す道路は邑より北明川南城津に通するもの稍々低夷なるも其他は一般に險惡にして交通便利ならず郡内戸數一萬一千七百餘、人口六萬二千餘あり物産は大豆、粟、麥、米、麻布、宕巾、生牛、明太魚、鱈、和布、雲母等にして宕巾の産額は年二十萬圓を下らず

吉州邑 郡の東隅に在りて明川郡に接近す北方明川南方城津との間道路開け人馬牛車の往來多し邑内は城内城外に分れ城内中舊諸官衙の建物は多く南門附近に存し何れも瓦葺なり西門より東門に向ひ約三町餘の間商賈工匠軒を列ね城外亦西門外約一町の所より商店併列し共に毎月一六の日開市し取引盛にして生牛、牛皮、布帛、魚類、宕巾、米穀、薪材、雜貨等を集散す郡廳憲兵分隊郵便所、地方金融組合、巡查駐在所、公立普通學校等在り

第四節 明川郡

沿革 本と吉州の明原驛にして今を去る四百四十年前李朝睿宗王の時吉州牧の領内長徳山以北の地を割て明川縣を置き中宗王吉州に隸せしめたるも一年の

後復舊し後世に至り郡に改む

郡勢 本郡は本道の南部に位置し北は鏡城郡に接し西及び南は吉州郡に隣し東は日本海に面す沿岸長汀曲浦多きも船舶の碇繋に安全なる地少し長白山の脊梁郡の北部を横断して峯巒重疊し中央部は高原を成し耕地少し住民は農業を主とし商業を副とし偶々工業を爲すものを見る沿岸住民は漁撈に従事す生活程度低く生計概して困難なり粟稗大豆大麥高粱米馬鈴薯を産するも其量郡民の食料を充たすに過ぎず水産物は明太魚甘藷昆布大口魚鱈海蔘等にして鑛産物に金銀銅石炭あり戸數一萬一千八百餘人口五萬九千三百餘あり

明川邑 本郡の稍々東方に偏し城津より鏡城に達する道路に沿ひ其他小徑あるも交通は便ならず邑民の生業は殆んど郡民に同じ産物は米雜穀麻布等にして朝鮮人二百七十戸千五百餘人内地人二十餘戸七十人あり郡廳警察署郵便局地方金融組合學校組合小學校公立普通學校在り

葛麻浦 下古面に在り舞水端の西北に灣入する小灣にして水深七尋乃至三十尋周邊に高丘を繞らし汽船の避泊所たり陸上平地少く交通便ならざるも海運の

利を有し大豆粟麥明太魚和布昆布を産し殊に海草は其名著る

昌津 下加面に在り灣入一町背後の丘陵延びて岬角を成し自然の防風堤たり水深八尋以上時に汽船の寄港あり民家八十餘大豆麥和布及び魚類を産す

泗津 下加面に在り昌津の西半里に位す灣口南東に面し三面丘岡を以て掩はる水深七尋乃至十五尋汽船の繫泊に適す戸數三十餘大豆和布を産す

開心寺 邑の東方七寶山に在り堂宇宏壯にして奇峭怪岩多く頗る雅趣に富めり

第五節 城津郡

沿革 本と吉州城の屬地たり李朝肅宗王二十七年始めて防禦營を設けしか十餘年の後ち之を罷め英祖王二十二年郡を設けしか後ち五年にして吉州に合し其後又郡を置き爾來興廢幾變遷を経て光武三年馬山群山と共に城津を開港するや吉州の東海社右面及び端川の梨下社左面を以て界と爲し城津郡を置き翌年府に陞し其後光武八年に至るまで六年の間に再合三分ありて光武十一年府と爲し明治四十三年日韓併合の際まで持續せしか併合と同時に郡に復し爾來今日に至る

郡勢 本道の南端に位し北は吉州郡に接し西南一帯は咸鏡南道端川郡に境し東は海に瀕す郡内山嶽重疊し樂天嶺雪峰山、五峰山、霧峴山等最も著はれ中央部に高原を成す臨溟川郡内を東流して海に注ぐ沿岸は屈曲彎入多く臨溟海最も大なり端川郡及び甲山郡に通する道路は共に險惡にして交通便利ならず吉州に通するもの比較的夷にして往來繁く又海路は割合に不便ならず住民の多數は農業に従事するも氣候互寒にして嚴冬の生活に困難なるかため露領浦鹽方面へ出稼するもの頗る多く一箇年六千人に達す郡内戸數九千六百餘、人口四萬七千餘あり物産は大豆、雜穀、生牛、牛皮、明太魚、鱈其他魚類、海藻、造布、廣布、石鍋、玉細工、雲母等なり

城津港 元山、清津二港と共に北鮮に於ける貿易港にして明治三十二年の開港に係り咸鏡道沿岸約百二十里の殆ど中央に位し元山を距る海路百二十哩にして臨溟灣の西奥一小半島の北方に位置し端川邑との間十五里は道路險惡にして甲山街道三十五里の間亦然り吉州邑に通するものは割合に平夷にして來往頻繁なり市街は海岸に沿ふて長方形を爲し面積五十八萬平方米突を有す氣候互

寒にして冬季の生活困難なること、近海比較的好漁場に乏しきこと、陸には山岳起伏して交通不便なることのために發展の度遅々たるも著々として堅實なる進歩を爲せるの觀あり移出物は生牛、牛皮、大豆、銅、砂金、石器を重なるものとし移入品は粟、麥粉、鹽、布、帛、雜貨を主とす明治四十三年中の貿易總額は九十九萬六千六百餘圓なり住民は農業又は商業に従事し朝鮮人は露領沿海州に出稼するもの頗る多し附近より玉及び化石を出し建築石材、石鍋、箕入等を移出す朝鮮人二千七百八、内地人七百餘人居住す郡廳、區裁判所、稅關支署、警察署、郵便局、日本人會、地方金融組合、朝鮮銀行出張所、小學校、普通學校等在り

榆津 鶴中面に屬す背後に山を負ひ西方海に面し遙に城津港と相對す溟内水深二尋乃至五尋ありて民家三十餘戸あり大豆、麥、鱈、鯿、和布等を産出す

第六節 茂山郡

沿革 本と富寧の茂山鎮にして高麗顯宗の朝本道監司の狀啓に依りて豆滿江邊に移設す李朝中宗王の時鎮を罷め府を置き富寧車險嶺以西及び會寧蘆田項以南の地を割て之に屬せしめ、近世に至り郡に更め郡守を任置し現今に及ぶ

郡勢

本郡は本道の西北に位せる一大郡にして東北は會寧郡に、東は清津府に接し南は鏡城明川吉州の三郡に隣し西は白頭山脈を踰へて咸鏡南道甲山郡に境し北は豆滿江を狹て清國間島と相對す西北には遠く白頭山の高峰雲表に屹立し西南に延びて虛頂嶺南雪嶺の峻峯となり之より南走して半島の脊梁山脈を成す東南には茂山々脈北より西南に斜走し四面山陵を以て圍繞せられ餘派郡内に蔓延重疊す西方道界を劃れる白頭山脈は分水嶺と爲り豆滿江は白頭山より發源し東北に斜流して日本海に入る地勢右の如くなるを以て平地に乏しく殊に水田は極めて瘠瘠なり尙ほ畑地の過半は火田にして二三年つづ輪作するを例とす而して其反別は一萬五百餘町歩に達し本道中第二位を占むるも地味多くは瘠薄なり郡内を貫流する延面水、西頭水の二川は何れも豆滿江に注流し流程稍大なれども急湍にして水運の利なく寒氣又酷烈にして一年の過半は結氷を以て蔽はれ水上人馬棧等の來往容易なり峰巒は到る處森林鬱鬱として翠黛天に沖し落葉松其大部を占め樹齡何れも數十年より數百年に及び且つ材質は良好にして半島中著名の一寶庫たり李朝建陽元年露國は茂山森林の伐採權

を獲得し盛に伐木して豆滿江に流下し浦鹽に輸送せることありしか今は朝鮮總督府營林廠の所管に歸し現に製材流筏事業盛に行はる延面水兩岸十四五里の間は桃櫻杜鵑花等交錯叢茂し毎年五月の交一齊に開花し爛熳として溪村一時に紅雲白靄の中に埋められ風景絶好の勝地と化す道路は邑を中心として各地に通すれども概して峻險にして往來甚だ困難なり郡邑以東の地は對岸間島との來往頻繁にして比較的人智開け江岸の各邑は商業割合に殷盛なり郡邑より江に沿ひて會寧に至る道路は本郡主要の通路にして途上稍々平夷旅客の往來多し貨物の運搬は主として豆滿江水運に依る住民は農業者多數なれども商業に従事するもの及び日稼業者亦多く民度は概ね劣等なれども糊口に窮するものは罕にして間島地方に出稼又は移住する者逐年増加の傾向あり産物は麥を主とし年産額一萬六千石に及び其他黍、蜀黍、稗、木材等を産す郡内戸數四千七百餘、人口二萬五千七百餘あり

茂山邑 郡の東北邑面に在り豆滿江の上流に沿ひ京城を距る百四十里、東方會寧に陸路十八里を隔つ對岸間島西部との經濟區域を支配する北鮮六鎮中の首位

會寧に亞く重要地にして同地方に向ふ貨物の大部分は清津より仰くを例とす南方富寧に十五里餘を隔て其間途上稍々良好なり又富寧清津間は輕便鐵道により二十四哩餘にして達す邑民の多くは農商兼營者にして生計概して困難ならず産物は略々郡に同し郡廳郵便局、憲兵分隊、公立普通學校等在り

第七節 會寧郡

沿革 本と高句麗の舊地にして胡言に幹木河一名吾音會と云ふ李朝太宗王の時幹采里童孟哥帖木兒虛に乗して入居す世宗王十五年兀狄か孟哥父子を殺したるを以て幹木河の地酋長を缺く十六年幹木河に城堡を設け寧北鎮節制使をして之を兼ねしむ然れども其地鎮と阻隔し聲援し難きを以て其年夏別に鎮を幹木河に置き會寧鎮と稱し僉節制使を置きしか冬陞して都護府使とし判官及び土官を置く二十二年更に鍾城の一部を割て之を附屬せしめ近世に至り郡と爲し郡守を任置す

郡勢 本道の北部に位し北は鐘城郡に、西北は豆滿江を挾て間島に對し西は葛浦嶺を以て茂山郡と劃り南は茂山嶺により清津府に界し東方の一部海に面す郡

内山嶽重疊し平地少く僅に豆滿江の沿岸に稍々廣潤なる平野を見るのみ河川あるも溪流にして水利灌漑の便なく耕地面積は道中第二位を下らざるも殆んど畑にして水田は頗る尠し道路不完全なるも輕便鐵道又は水路あるかため交通上甚しき不便なし住民は古來頑固にして瘴惡の風を帯ひ殊に會寧邑の附近は人氣頗る惡しき地と稱せられしか近年漸く内地人と親和するに至れり而して農を業とする者最も多く漁業者、日稼人、商業者の數順次に之に次ぐ郡内戸數四千八百餘、人口二萬八千餘あり物産は大豆、粟、黍、稗、生牛、明太魚、鱈等なり

會寧邑 郡の西方豆滿江の右岸に在り四近沃野廣く江を渡れば直に間島に入るへく龍井村へは十三里を隔つ毎年十二月より翌年三月までは江水結氷して牛馬車自由に氷上を來往す上流には茂山あり下流には鍾城あり南は輕便鐵道により古豊山、蒼坪、輪城等を経て清津に至り海路に通すへく實に四通八達の要區たり清津との間輕便鐵道は二十一里餘にして夏は一日行程なるも秋又は冬は富寧に一泊するを例とす邑民は農業又は商業に従事し尙ほ製材業等の日稼人少からず間島貿易の要衝として市街電話を有し商業比較的盛なるも貨物運賃

の高きか爲め物價は頗る不廉なり産物は略々郡に同し内地人の居住するもの千人に近し郡廳區裁判所郵便局憲兵分隊學校組合總督府營林廠出張所稅關監視署小學校公立普通學校農工銀行支店等在り此地は昔時加藤清正か朝鮮の二王子を擒にしたる歴史を残せる所なり

梨津 釜山雄基線の寄港地にして前面花端岬と寒所口末と相對擁して一大灣を成す灣口南東に面し沿岸丘陵を繞らし避風の利あり附近銅鑛を産す巡查駐在所在り

茂山嶺 本郡と清津府との境上に在り蒼坪の北十二町餘なり此地は日露戰役の際露兵か壕を築きて日本軍を惱ませる關門にして頗る要害の地たり嶺の北方山腹に石灰礦坑あり

第八節 鍾城郡

沿革 本と高句麗の地にして女真虛に乘して入居し愁州と號す李朝世宗王十七年寧北本鎮を伯顏愁所に置き郡號を鍾城とし節制使を以て知郡事を兼ねしめ俯溪挂川鹿野等の民戸を以て之に屬せしめ二十二年郡治を愁州に移し節制使

行營と爲し翌年陞して都護府とし判官を置き土官を設け又南界の民戸を移して其地を實たしむ後世郡に改め郡守を任置し今日に至る

郡勢 本道の東北部に位し東北は慶興慶源穩城三郡に隣し南は會寧郡に接し西は豆滿江を隔てて清國と境を限り東南の一部海に面す郡内山嶽縱横に連亘し就中高峻なるを小白山廣徳山羅端山等とす地勢概して南東に高く北東に低下するが故に五龍川瀧關川西豊川等の大河は北流して豆滿江に注ぎ南東海に入るものは皆細流に過ぎず沿岸線は僅に一里餘にして港灣に乏しく唯々楡津の一港あるのみ海路の交通は沿岸に定期船の寄港なきを以て慶興郡雄基に出でざるへからず陸路は沿岸に通する一條の外險惡にして來往不便なり住民は農業又は漁業に従事し商業を營むものは頗る少數なり郡内戸數四千三百餘人口二萬七千餘あり物産は大豆黍麥稗麻布魚類食鹽硯石等なり

鐘城邑 郡の西端豆滿江の右岸に在り雄基を距る七里會寧を距る約十一里にして間島と相對す北穩城に南會寧に其他慶源慶興諸邑に通する道路あるも何れも險惡にして交通便利ならず海路に倚らんには雄基に出でざるを得ず邑民は

農業又は商業に従事す内地人の居住者十餘人あり物産は雜穀麻布及び硯石なり郡廳郵便所巡查駐在所等在り

第九節 慶源郡

沿革 古へ孔州と稱し久しく女眞の據る所たり高麗睿宗王尹璣を遣はして女眞を逐ひ砦を設けて公險鎮内防禦所と爲す李朝太祖七年築城して慶源と名け府とし鏡城府所管の龍城以北の地を割て之に屬せしむ太宗王十年女眞入寇に因り民戸を徙して鏡城郡に併せ其他を虛ふせしか十七年鏡城豆籠耳峴以北の地を割き邑を富家站に復置し都護府と爲し世宗王十年府治を會叱家の地に移し南界の民戸を移住せしめて地を實たし士官を置きしか後ち士官を罷め近世に至り郡と爲す

郡勢 本道の東北邊に位し西北は穩城郡に、西は鍾城郡に、南は慶興郡に隣し東北一帶豆滿江を隔てて滿洲と相對す飯山山脈郡の東部に重疊し餘脈郡内に波及し所々に山陵の起伏するあるも亦平地に乏しからず耕地面積は六千六百町歩を越ゆるも水田に乏しくして主として大小豆、粟其他雜穀を産するのみ然れど

も一ひ鴨綠江を涉れば即ち農産豐穰たる琿春の平野にして清人との交易頗る旺盛に又郡民中對岸地方へ出稼する者少からず四隣に通ずる道路は良好なりといふを得ざるも甚しき峻阪少く豆滿江は吃水淺き汽船は河口より郡内慶源邑に溯航し得べく以て交通運輸に資せり住民は農又は商を生業とし戸數三千六百八十、人口二萬二千六百餘あり物産は大小豆、粟、蜀黍、黍、人蔘、大麻、生牛、石炭、砂金等なり

慶源邑 豆滿江の右岸同江と琿春河との會流する所にありて慶興邑の上流十四里に位置す四隣郡邑に達する道路は交通至便ならざるも峻險ならず琿春及び雄基との間交通最も頻繁なり輕吃水の汽船は豆滿江を溯りて本邑に至るを得へし京城とは百九十五里を隔て其間通信日數十五日間なり邑民は農業又は商業に従ひ又少數の淡水漁業に従事するものあり尙ほ對岸露領又は滿洲地方へ出稼するもの少からず産物は穀類、鮭、鱒を重なるものとす郡廳、郵便所、憲兵分遣所、公立普通學校等在り

第十節 慶興郡

沿革 古へ孔州の地なり李朝世宗王の時其地隔遠守禦に難きを以て孔州舊城を復修し萬戸を置き孔州等の僉節制使を兼ねしめ十七年近傍の民戸三百を割て之に屬せしめ別に縣を置き孔城と稱し僉節制使を以て縣事を兼掌せしめ十九年陞して郡とし名を慶興と改め二十五年更に其城を廣め都護府に陞し後ち府と爲し日韓併合の際郡に復し爾來今日に至る

郡勢 本道の東隅に位置し東方豆滿江を隔てて露領沿海州に境し西北は慶源郡に西方は鍾城郡に隣し南方一帶海に濱す本郡は咸鏡山脈の終點に位して松眞劉玄徳西光珠等の諸峰竝ひて東西に連亘し支脈郡内に縦横するを以て地勢概して險なりと雖も東部豆滿江附近には廣漠たる低地多く耕地は慶興邑の近傍より西方に亘れるもの最も廣く其他雄基及び造山灣の東北屈浦附近に於けるもの稍々廣し河流は何れも溪流にして灌漑の便なく耕地は殆んど畑にして水田極めて尠く尙ほ開拓に適する土地にして空しく委棄せらるるもの少からざるを見る郡内湖沼少からず就中大なるは造山灣の東北隅に位せる鹹湖とす海岸は屈折に富み造山羅津の良灣あり陸路は雄基より慶興邑を経て慶源に通し

又邑より徳明、行營を経て會寧に通するを主要のものとし路幅狭からず交通不便ならず海路は雄基より元山、釜山其他沿岸諸港竝に内地に至るを得へし住民は農業又は漁業に従事し尙ほ少數の商業者製鹽業者あり農産の主なるものは粟稗黍、燕麥、大豆、苧麻にして海産には鮭、鱈、鱈、明太魚、海鼠、牡蠣其他の貝類、海草及び食鹽等なり郡内戸數二千六百八十餘、人口一萬八千五百餘あり

慶興邑 雄基の東北八里に在りて豆滿江に沿へり別名を孔城又は匡城と云ひ人家三百餘あり露領交通の要衝たり陸路は雄基竝に慶源、鍾城、會寧等の諸邑に通するものありて路上險ならず豆滿江には舟楫の便あり又露領への渡船場あり産物は雜穀、鮭、鱈、鱈等を主とす郡廳、區裁判所、憲兵分隊、郵便局、税關監視署等在り

雄基 造山灣の一部たる雄基灣奥の平地に位し北鮮定期航行汽船の終點にして慶興邑の關門を爲し邑の西南八里を隔て交通上重要な地點なるのみならず又漁業の根據地たり灣は北鮮極地の良港にして灣口二湮灣入三湮、水深九尋乃至十二尋にして艦船巨舶を泊するに足る戸數五十餘、人口四百餘あり移出品は大豆、麻布、木炭、牡蠣、魚類を主とし移入品の重なるものは金巾及び綿布にして昨四

十三年中の移出入總額は四十六萬圓を越ゆ税關監視署警察署郵便所憲兵分遣所學校組合巡查駐在所小學校在り

遼山灣 元山を距る北方二百七十餘裡、清津を距る四十八裡に在りて蒼津の岬角と雄基より陸路六里豆滿江より一里餘の西方に突出せる西水羅の岬角とを以て包擁せられたる一大灣の總稱にして南部に蒼津港あり其次に琵琶頂島の入江あり次は雄基灣にして次に雄尙洞の灣あり洞の東端赤島あり一大半圓形を畫きて西水羅の岬角に達せる白沙の長汀あり赤島と西水羅との間に蘆丘山屈浦浦頂あり此間一大平原を成す

蒼津 蒼津灣の南隅に位す灣口幅約一裡水深九尋乃至十二尋あり灣は三面丘陵を以て繞らすと雖も東風の日は繫船に便ならず民戸三十餘あり

羅津 羅津灣に沿へり灣は灣入六裡にして其入口に大草島あり島は面積約三百六十五町歩を有し土地能く開拓せらる灣内水深く北鮮屈指の港灣なるも沿岸の部落何れも寒村にして物資集散の資力に乏し戸數五十餘あり住民は漁業に従事す巡查駐在所在り灣奥中央に倉坪あり雄基を距る四里の地にして戸數三

十餘人口三百餘あり住民は漁業又は製鹽に従ふ蒼坪の西南に新津あり雄基の西南五里餘に當る民家三十、人口百六十餘あり

第十一節 穩城郡

沿革 本と高句麗の地女眞盧に乗して入居し多温平と號す李朝世宗王二十二年始めて郡を置き今の名とし慶源及び古州安邊等の民戸を移して之を實たし二十三年陞して都護府とし判官を置き土官を設け二十四年鎮を置く其後鎮を廢し郡を置き今日に及ぶ

郡勢 本郡は本道の北隅に位置し實に半島の最北郡にして南は鍾城、慶興兩郡に隣し其他の三方は豆滿江に圍繞せられて滿洲と相對す郡の南方に飯山の峻峰聳立し餘脈郡内に波及して山陵起伏するも沿岸の地方には平地少からず地勢概して南方に高く北方に傾斜し耕地約七千町歩を有するも殆んど灌溉の利なく水田は數ふるに足らず道路は鍾城に通するものの外高低多くして交通概して便ならず貨物は露領浦鹽斯德より仰くもの多し住民の多數は農業に従事し傍ら牧畜に従ひ又養蠶を爲すものあり戸數二千八百五十、人口二萬七千五百餘

あり物産は大小豆、粟、稗、黍、人蔘、大麻、明紬、石炭、砂金、陶土等なり

穩城邑 邑面に在り豆滿江岸に位置し江は邑の對岸に於て布爾哈圖河を合し水量を増大すと雖も汽船は五十噸内外のものに止りて本邑に溯航し得るに過ぎず交通は概して便利ならず毎年陰曆七月中十數日に涉りて市を開き取引品は牛馬其他家畜を主とし布綿、食器類、日用品を副とし家畜の集散數平均七千頭に及ひ來集者三萬を超へ咸北に於ける有名の大市なり郡廳郵便局、憲兵分隊、公立普通學校等在り

甌山 邑南五里を隔つる北蒼坪の東南二里にある高山にして朝鮮人は此山に登れば死するものと迷信し傳へて靈山と爲す

朝鮮誌終

明治四十四年十二月九日印刷
明治四十四年十二月十二日發行

朝鮮誌
定價 金參圓

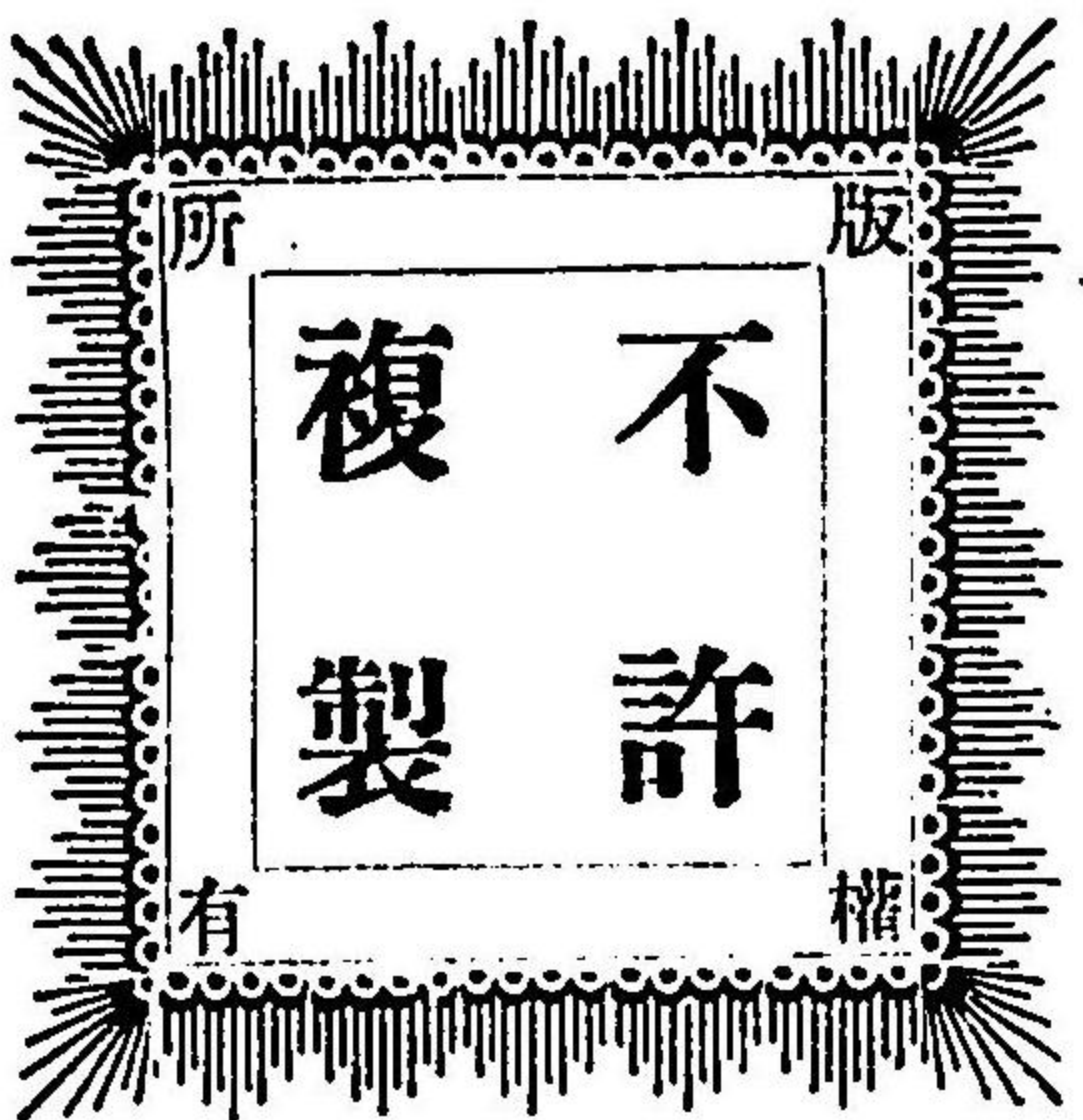
著者兼發行者 朝鮮京城本町七丁目二十五番戶
吉田英三郎

印刷者 朝鮮京城南山町二丁目五十三番戶
明石桐一

印刷所 朝鮮京城明治町三丁目
日韓印刷株式會社

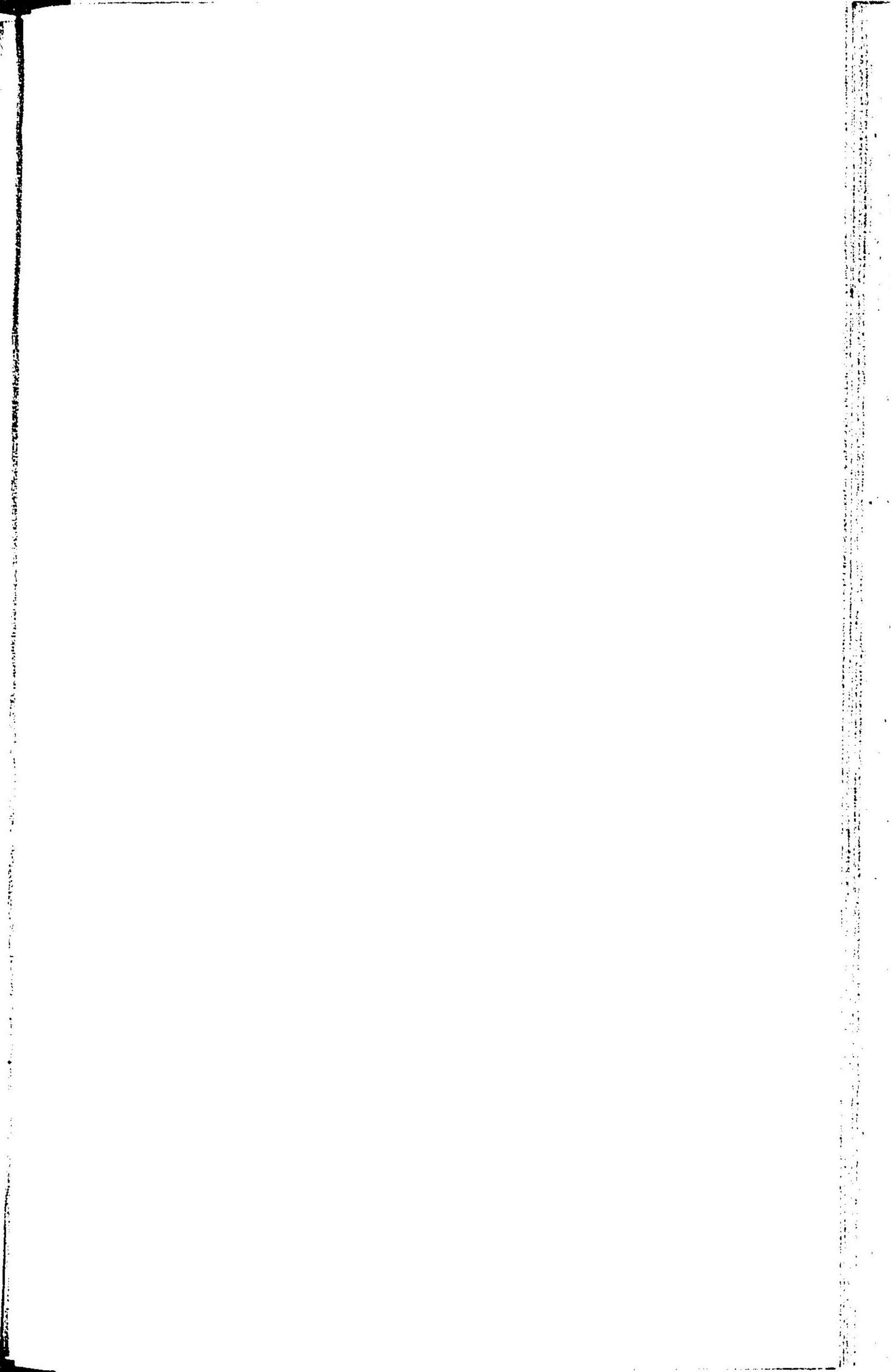
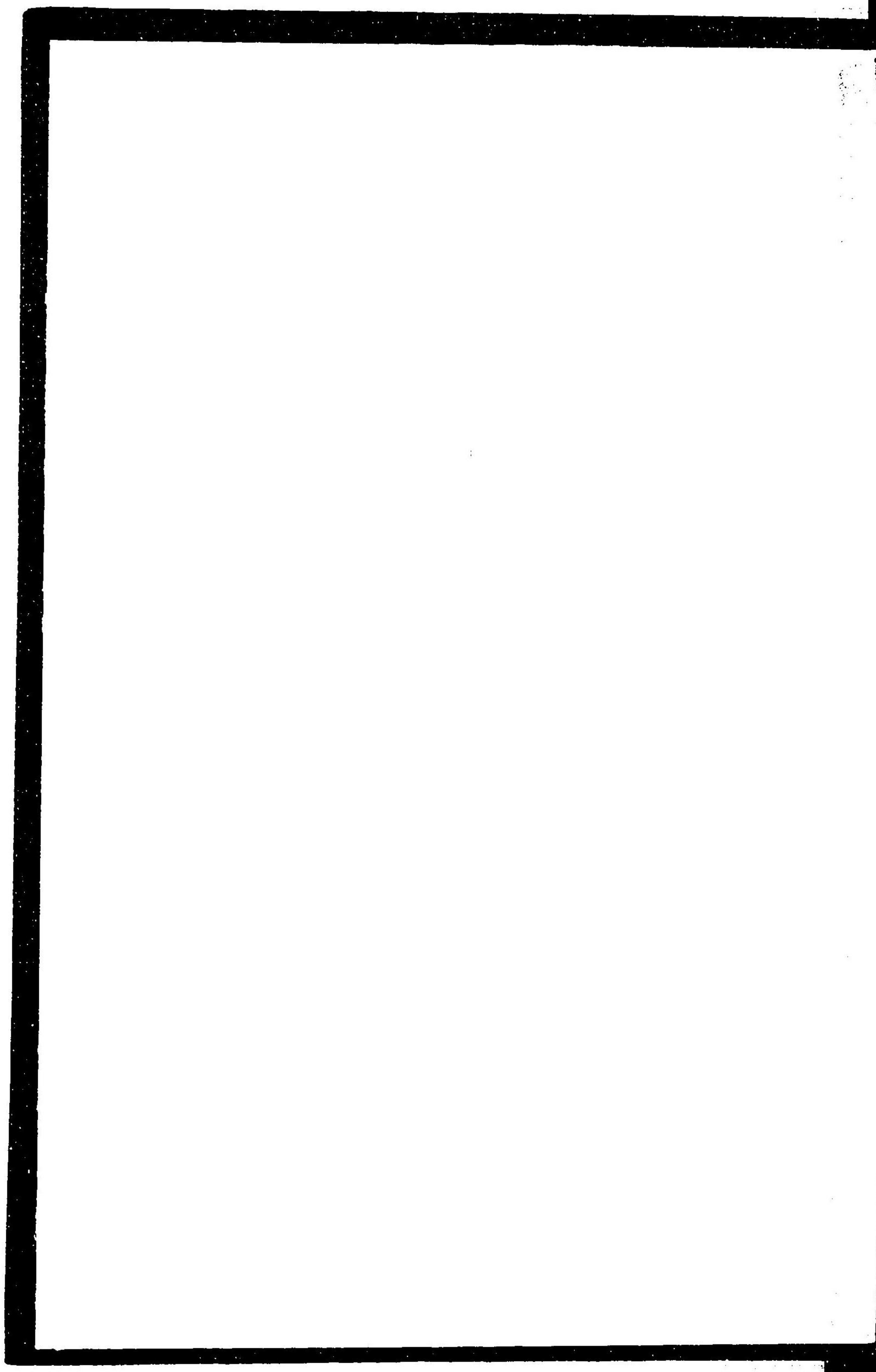
發行所 朝鮮京城本町四丁目四十三番戶
町田文林堂

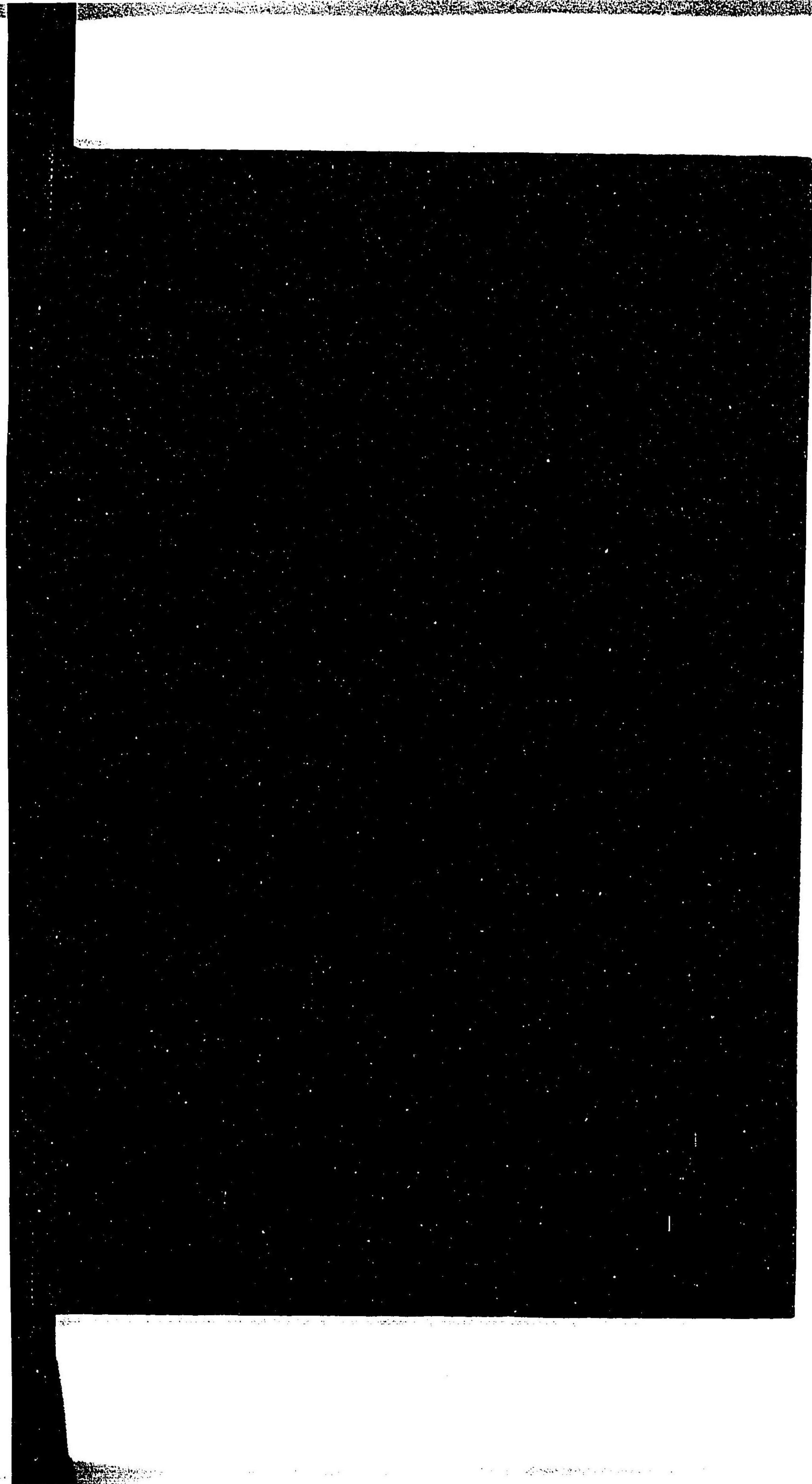
振替貯金口座一〇四番
電話二〇九番



3536

23N34





334
165

026434-000-1

334-165

朝鮮誌

吉田 英三郎/著

M44

ADD-0088

